

324  
451



始



特214  
837



和洋女子專門學校長  
和洋裁縫女學校長  
堀越千代子著

新撰  
和洋裁縫書

和服編

下

和洋女子專門學校出版部藏版



新撰 和洋裁縫書 和服編下卷

目次

第一章 單衣重	一
第一節 女單衣重本重	一
第一 女單衣重普通仕立上げ寸法	一
第二 女單衣重裁方積り方	二
第三 女單衣本重標附方	五
(い) 圖解	五
(ろ) 説明	八
第四 女單衣本重縫ひ方順序	八
附記 女單衣半重	一三

第二節 一つ身單衣重……………一八

第一 一つ身單衣重普通仕立上げ寸法……………一八

第二 一つ身單衣重裁方積り方……………一九

第三 一つ身單衣重標附方……………二〇

(い) 圖解……………二〇

(ろ) 説明……………二三

第四 一つ身單衣重縫ひ方順序……………二三

第二章 重ね物……………二五

第一節 各種重ね物下着寸法つめ方表……………二五

第二節 本裁女重ね……………二六

第一 女重ね普通仕立上げ寸法……………二六

第二 女重ね裁方積り方……………二六

第三 女重ね標附方及縫ひ方……………二七

第四 紋附裾模様物について……………二七

附記 女子禮服……………二〇

(イ) 祝儀用女子禮服(冬期)……………二〇

(ロ) 祝儀用女子禮服(夏期)……………二〇

(ハ) 女子凶禮の服裝……………二〇

(ニ) 模様の種類……………二〇

(ホ) つのかくし……………二〇

第三節 本裁男重ね……………二五

附記 男子禮服……………二五

(イ) 男子禮服(冬期)……………二五

(ロ) 男子禮服(夏期)……………二五

(ハ) 男子凶禮の服裝……………二五

第四節 四つ身重ね…………… 五

    附記 七五三の祝着…………… 五

第五節 一つ身重ね…………… 五

    附記 宮詣りに用ふる祝着…………… 五

第三章 比翼…………… 五

    第一節 女服比翼…………… 五

        第一 女比翼裁方積り方…………… 五

        第二 女服本比翼標附方…………… 五

            (い) 圖解…………… 五

            (ろ) 説明…………… 五

        第三 女綿入比翼縫ひ方順序…………… 五

    第二節 女服附比翼…………… 五

第三節 四つ身比翼…………… 六

    第一 四つ身比翼裁方積り方…………… 六

    第二 四つ身比翼標附方…………… 六

    第三 四つ身袷比翼縫ひ方順序…………… 六

第四章 襠褌(打掛)…………… 六

    第一 襠褌普通仕立上げ寸法…………… 六

    第二 襠褌の裁方積り方…………… 六

    第三 襠褌の標附方及縫ひ方…………… 六

第五章 男無双羽織…………… 七

    第一 無双羽織裁方積り方…………… 七

    第二 無双羽織標附方及縫ひ方…………… 七

第六章 男袷袴…………… 九

第一 大人男袴袴各部寸法割出し方及普通仕立上げ寸法……………九

第二 男袴袴裁方積り方……………一〇〇

第三 男袴袴標附方……………一〇一

    (い) 圖解……………一〇一

    (ろ) 説明……………一〇四

第四 男袴袴縫ひ方順序……………一〇五

**第七章 仕舞袴……………一〇八**

    第一 仕舞袴仕立上げ寸法……………一〇八

    第二 仕舞袴裁方積り方……………一〇八

    第三 仕舞袴標附方及縫ひ方……………一一〇

**第八章 社 袴……………一一一**

    第一 社袴仕立上げ寸法……………一一一

    第二 社袴の裁方……………一一三

第三 社の縫ひ方……………一一三

第四 社の裁方……………一一四

第五 社の標附方……………一一五

第六 社の縫ひ方……………一二六

**第九章 男合羽……………一二〇**

**第一節 男半合羽(裝束附)……………一二〇**

        第一 男半合羽仕立上げ寸法……………一二〇

        第二 男半合羽裁方積り方……………一二一

        第三 男半合羽標附方……………一二三

            (い) 圖解……………一二三

            (ろ) 説明……………一二六

        第四 男半合羽縫ひ方順序……………一二七

**第二節 男單長合羽……………一二〇**

第十章

折衿コート

- 第一 折衿コート普通仕立上げ寸法……………一三三
- 第二 折衿コート裁方積り方……………一三四
- 第三 折衿コート標附方……………一三五
- 第四 折衿コート縫ひ方順序……………一三六

第十一章

夜具

第一節

夜着

- 第一 各種夜着普通仕立上げ寸法……………一三六
- 第二 各種夜着裁方積り方……………一三七
- 第三 中夜着標附方……………一三八
- (イ) 圖解……………一三九
- (ロ) 説明……………一四〇
- 第四 中夜着縫ひ方順序……………一四一

第五 夜着の綿入れ方……………一四二

(イ) 衿返し……………一四三

(ロ) 脊返し……………一四四

附記 衛生的夜着の肩當……………一四五

第六 夜着の綴ち方……………一四六

第二節

小裁夜着

- 第一 小裁夜着及夜具普通仕立上げ寸法……………一四七
- 第二 一つ身夜着裁方積り方……………一四八
- 第三 一つ身夜着標附方……………一四九
- 第四 一つ身袖無夜着縫ひ方順序……………一五〇
- 第五 一つ身夜着綴ち方……………一五一
- 第六 四つ身夜着裁方積り方……………一五二
- 第七 四つ身夜着綴ち方……………一五三

附記 各種夜具綿の目方……………一五

第三節 蒲團……………一六

第一 敷蒲團……………一六

第二 掛蒲團……………一〇八

第三 座蒲團……………一〇九

第四 膝くるみ蒲團……………一一一

第五 老人の下蒲團……………一一四

第六 肩蒲團……………一一五

附記 枕……………一二六

第十二章 丹前及温袍……………一二八

第一 男物丹前普通仕立上げ寸法……………一二八

第十三章 胴着……………一三〇

第一 男物半胴着仕立上げ方法……………一三〇

第二 男物胴着裁方積り方……………一三一

第三 男物半胴着標附方……………一三四

第四 男物半胴着縫ひ方順序……………一三五

附記 羽織下の間着……………一三七

第十四章 ねんねこ半纏……………一三九

第一 ねんねこ半纏普通仕立上げ寸法……………一三九

第二 ねんねこ半纏裁方積り方……………一四〇

第三 ねんねこ半纏標附方……………一四三

第四 ねんねこ半纏縫ひ方順序……………一四五

第十五章 蚊帳……………一四七

第一 蚊帳裁方積り方……………一四六

第二 蚊帳縫ひ方順序……………一四九



第十六章 油 罎

第一 挾箱油罎

第二 罎筒油罎

第三 長持油罎

第十七章 足 袋

第一 足袋寸法取り方

第二 足袋裁方

第三 足袋縫ひ方順序

第十八章 手 甲

第十九章 モツペ

第一節 男モツペ

第一 男モツペ普通仕立上げ寸法

第二 男モツペ裁方積り方

第三 男モツペ縫ひ方順序

第二節 女モツペ(第一種)

第一 女モツペ普通仕立上げ寸法

第二 女モツペ裁方積り方

第三 女モツペ縫ひ方順序

第三節 女裕モツペ(第二種)

第一 普通仕立上げ寸法

第二 裁方積り方

第三 標附方

第四 女裕モツペ縫ひ方順序

第二十章 割烹前掛

第一	割烹前掛裁方	二六五
第二	割烹前掛縫ひ方順序	二六七
<b>第廿一章 股引及猿膀</b>		
第一	男股引	二九三
第二	男半股引	二九六
第三	婦人股引	二九七
第四	猿膀	二九九
第五	小兒股引	三〇一
第六	單股引縫ひ方順序	三〇二
第七	袷股引縫ひ方順序	三〇三
第八	猿膀縫ひ方	三〇三
<b>第廿二章 脚 胼</b>		
第一	大津脚胼	三〇四

第二	山附脚胼	三〇七
<b>第廿三章 腹 掛</b>		
第一	江戸腹掛	三三三
第二	京腹掛	三三〇
<b>第廿四章 寝冷不知</b>		
第一種		三三七
第二種		三三〇
第三種		三三四

新撰 和洋裁縫書 和服編下

堀越千代子著

第一章 單衣重

第一節 女單衣重(本重)

第一 女單衣重普通仕立上げ寸法

袖丈	袖口	袖附	袖幅	袂九	身丈	後幅	前幅
六十一	二十三	二十三	三十二	一五	一米五十	二十八	二十三
一	三	三	二	五	內	五	三
糶	糶	糶	糶	糶	外	糶	糶
身八つ口	衿肩明	衿下	衿幅	相棲幅	衿下	衿幅	肩衿
十三	十	二十	十五	十三	七	十一	六十二
三	糶	糶	糶	糶	六	糶	糶
糶	裁切	糶	糶	糶	糶	糶	糶

第二 女單衣重裁方積り方

(衿棒)方裁着上重衣單女

(寸九丈三)幅十七米一十三長 幅並 (布用)

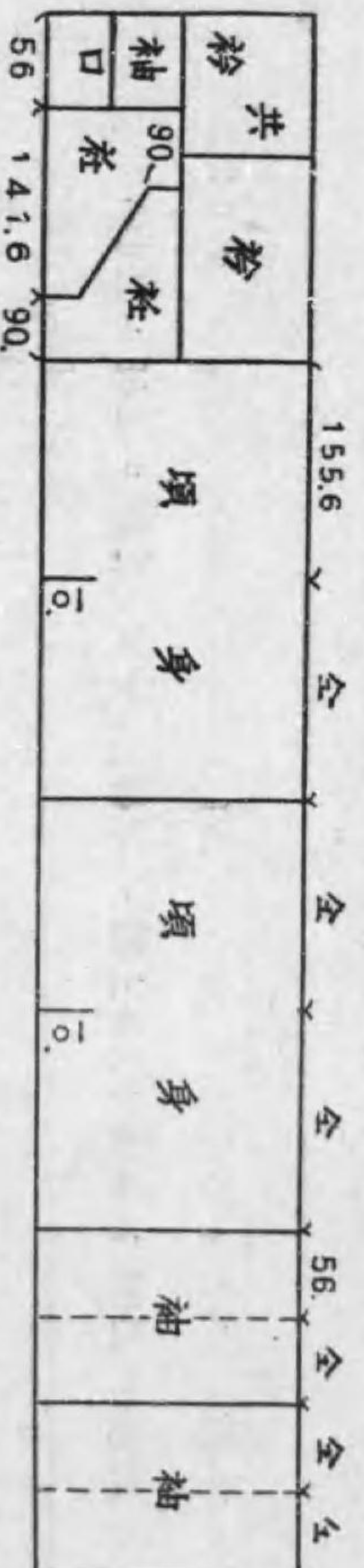


$$\{ \text{用布} - (\text{袖丈} \times 4) + \text{衿下り} \times 2 \} \div 6 = \text{身丈}$$

$$\{ 1170. - (65. \times 4) + 20. \times 2 \} \div 6 = 158.3 \text{餘}$$

(衿鈎)方裁着上重衣單女

(寸九丈三)幅十七米一十三長 幅並 (布用)



$$\{ \text{用布} - (\text{袖丈} \times 4 + \text{袖口丈} + \text{鈎下} + \text{衿下り}) \} \div 5 = \text{身丈}$$

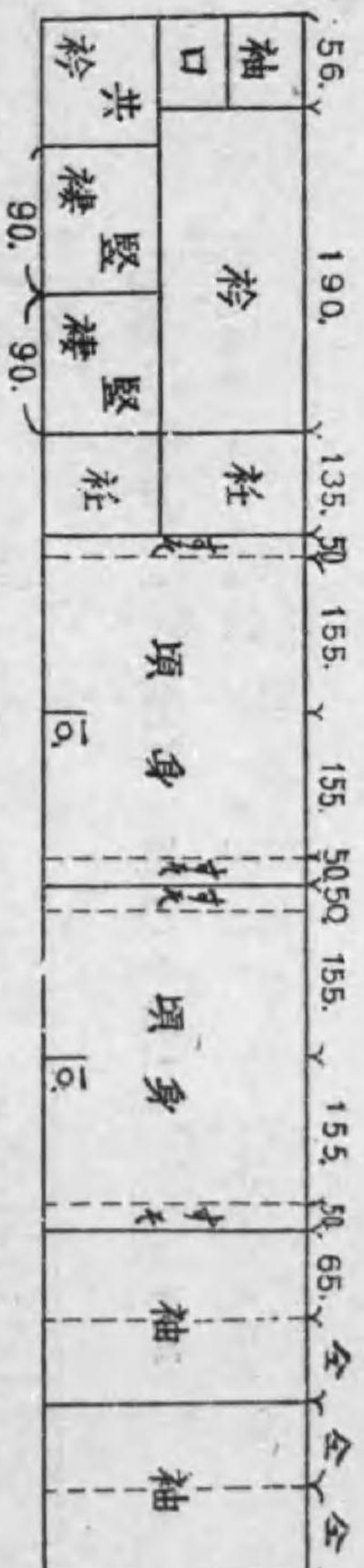
$$\{ 1170. - (65. \times 4 + 56. + 90. ) + 14. \} \div 5 = 155.6$$

備考

- (イ) 下着は上着裁方に準じて裁つべし。
- (ロ) 裏衿は普通別布を用ふ。

### 方裁 附廻裾 衣單女

(寸四尺二丈一) 廻一十六米四十三長 幅並 (輻用)



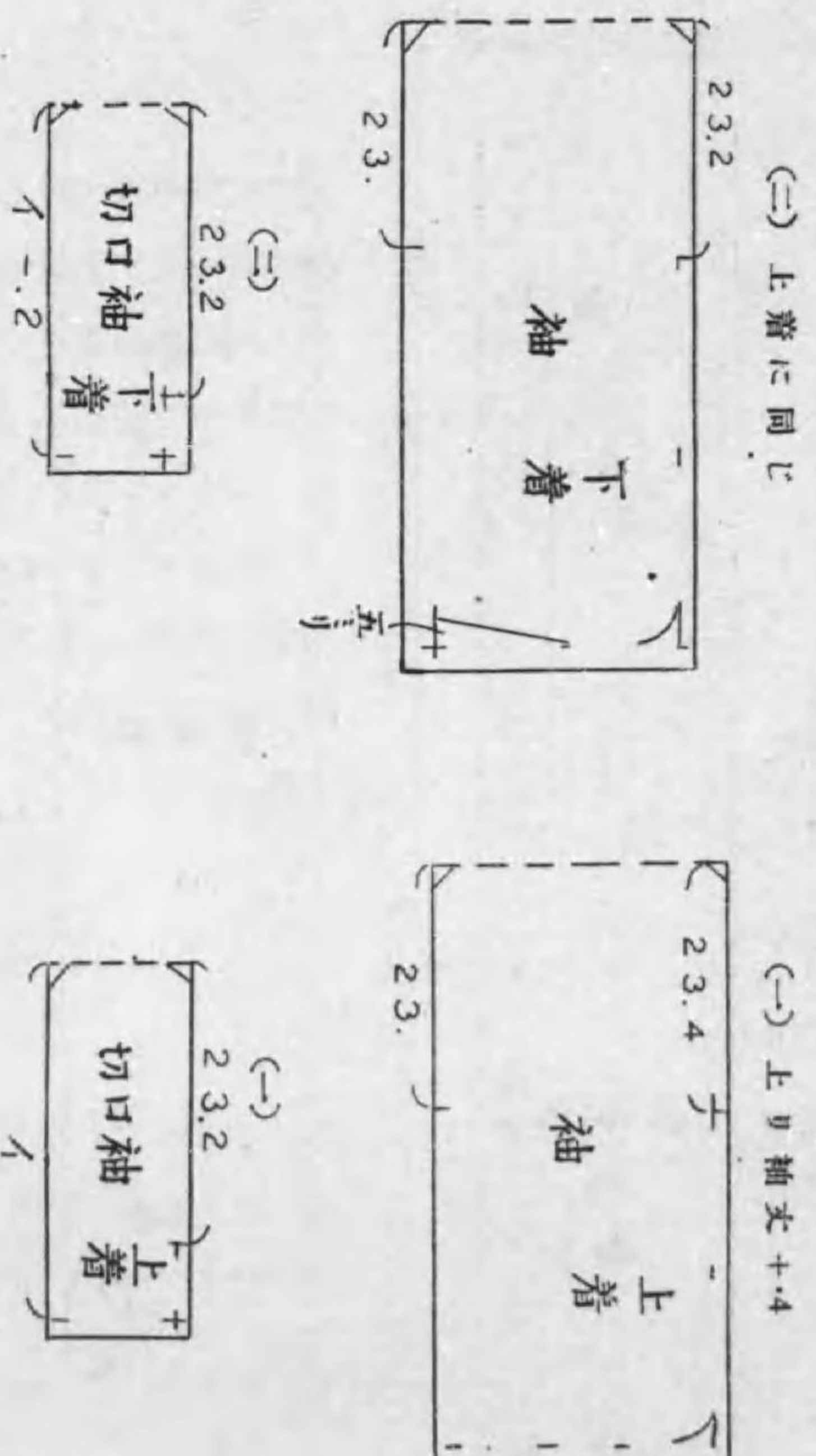
(袖丈 + 身丈 + 裾丈) × 4 + (身丈 - 衞下り) + 衞丈 + 袖口 = 用布  
 (65. + 155. + 50.) × 4 + (155. - 20.) + 190. + 56. = 1461.

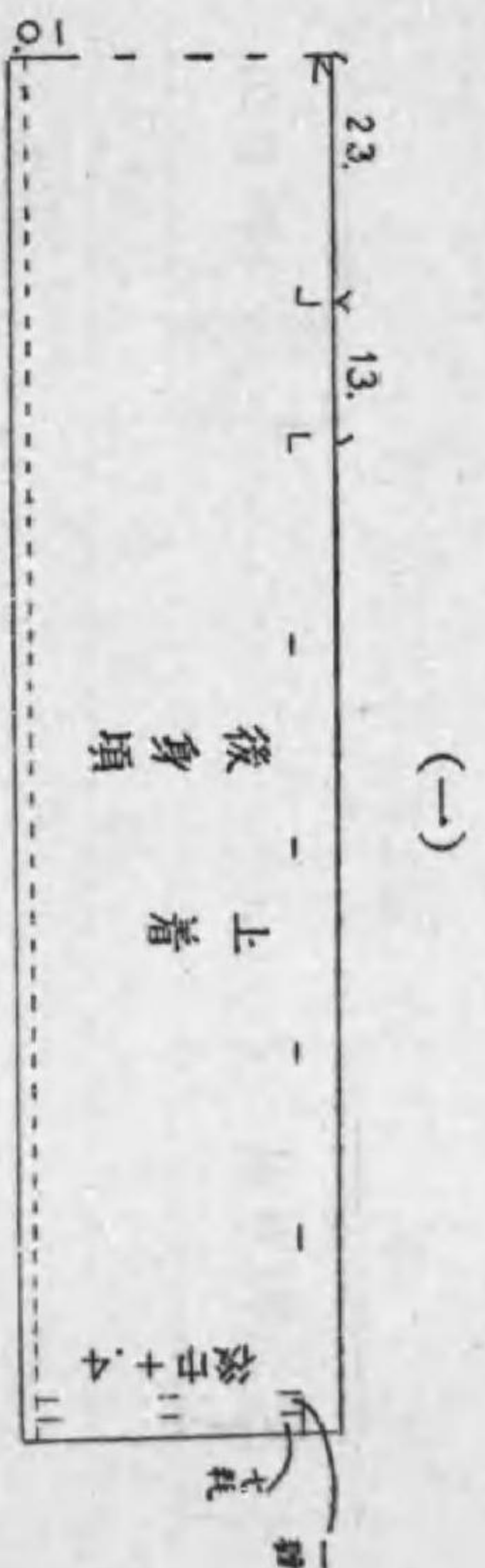
#### 備考

八つ掛附單衣重の場合はこの裁方を上着とし、下着はこれに準じて裁つ、但し下着には八つ掛を附せずして用ふるも可なり。

### 第三 女單衣本重標附方

#### (一) 圖 解



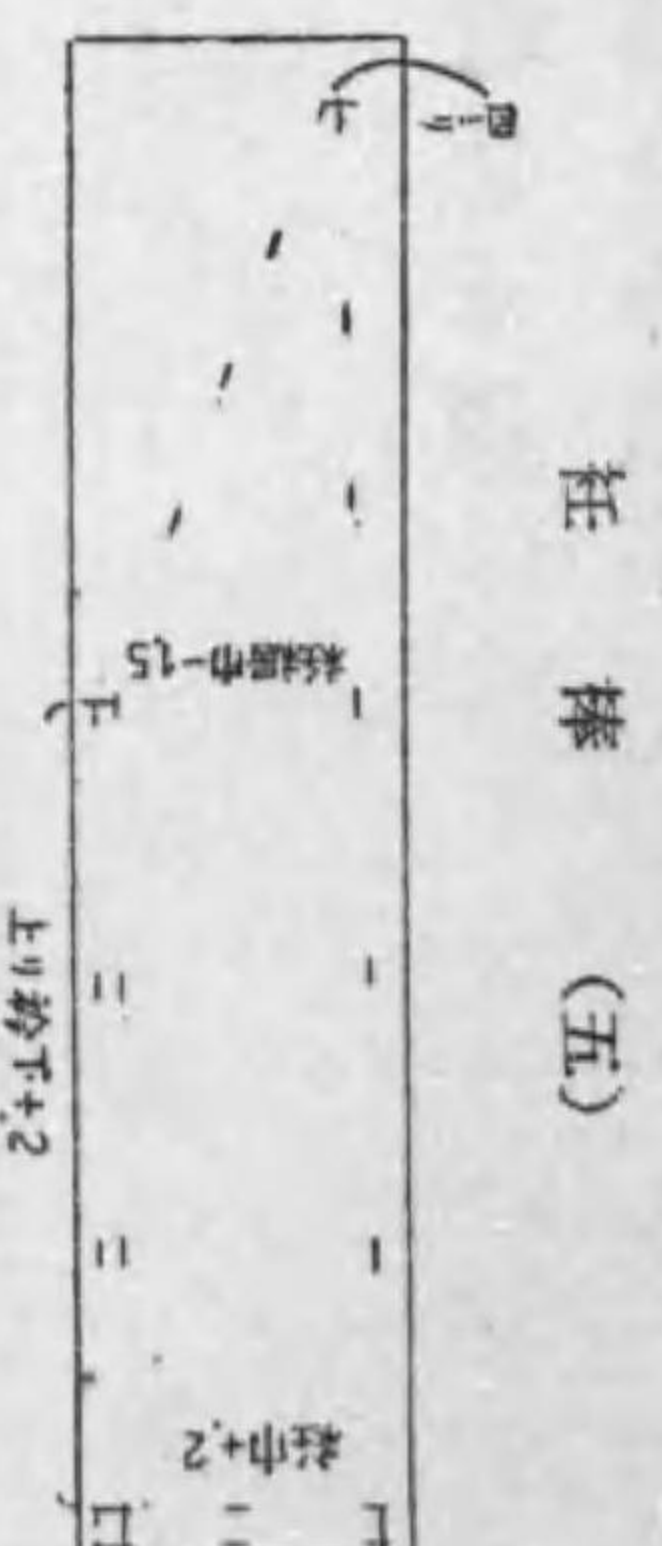


(一)



前身頃は(三)と(四)とし上着の(一)と(二)と同様に標附す(寸法も同じければ圖解を省く)

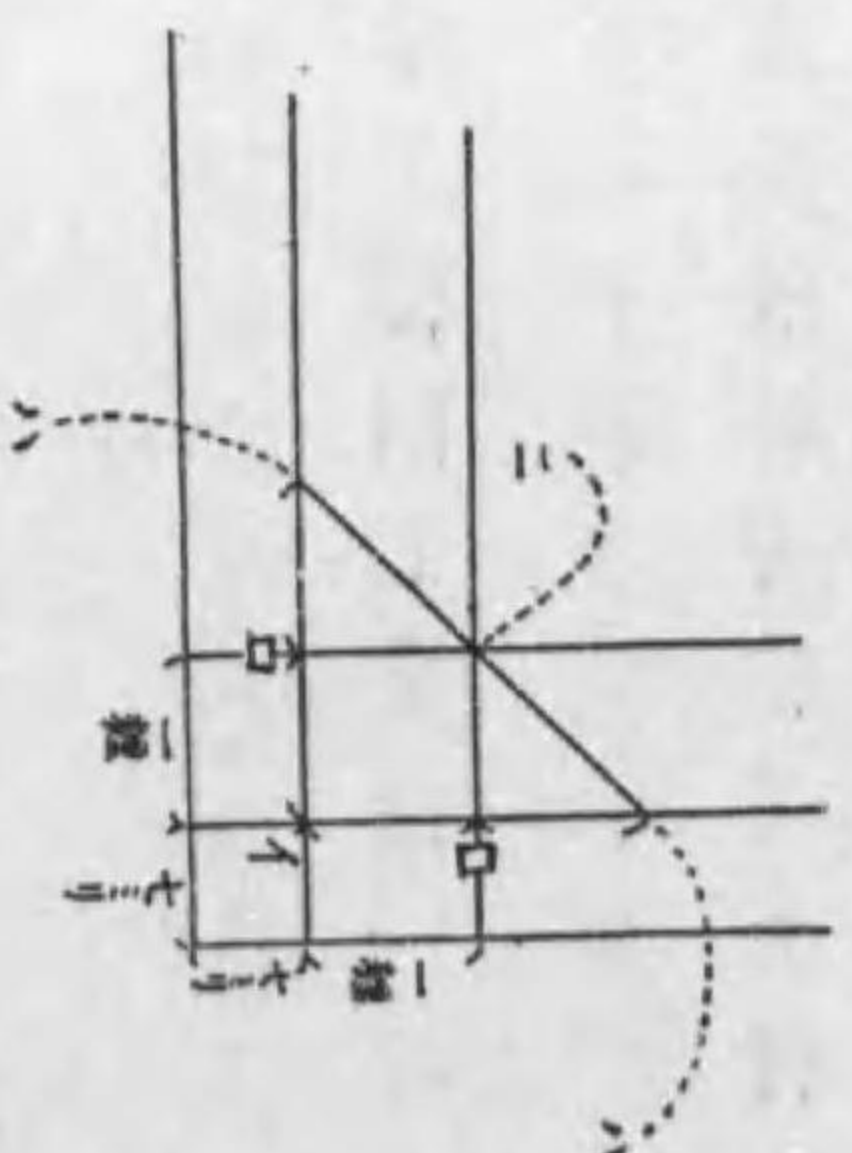
下身八つ口の所にて衿肩裁切より七耗引きて標をつけ抱幅を定む。後幅、前幅とも上りに四耗加へ標附けず。



衿 棒 (五)



衿 鈎 (五)



額縁  
裾の折代を七耗と一纏とし衿下折代も同様になし  
1口間とロハ間を等しく  
しハとハとを結びて斜線  
をなしニを優先としてハ  
とハとの間を縫ふ。  
裾折代と衿下折代と寸法  
法ならざる時もこれに同  
じ。  
衿は上下着を重ねて標附す。

(ろ) 説明

- 袖
- 一、上着袖を普通單衣の如く標附し、
  - 二、上着袖口切は袖口を表より二耗引きて標附し丈は一ばいとす。
  - 三、下着袖を上着袖と同じ丈に定め(但しふりの方にて五耗を引く)袖口は上着袖口切の袖口に同じくす。
  - 四、下着袖口切は上着袖口切より二耗短くし袖口も亦二耗を引く。

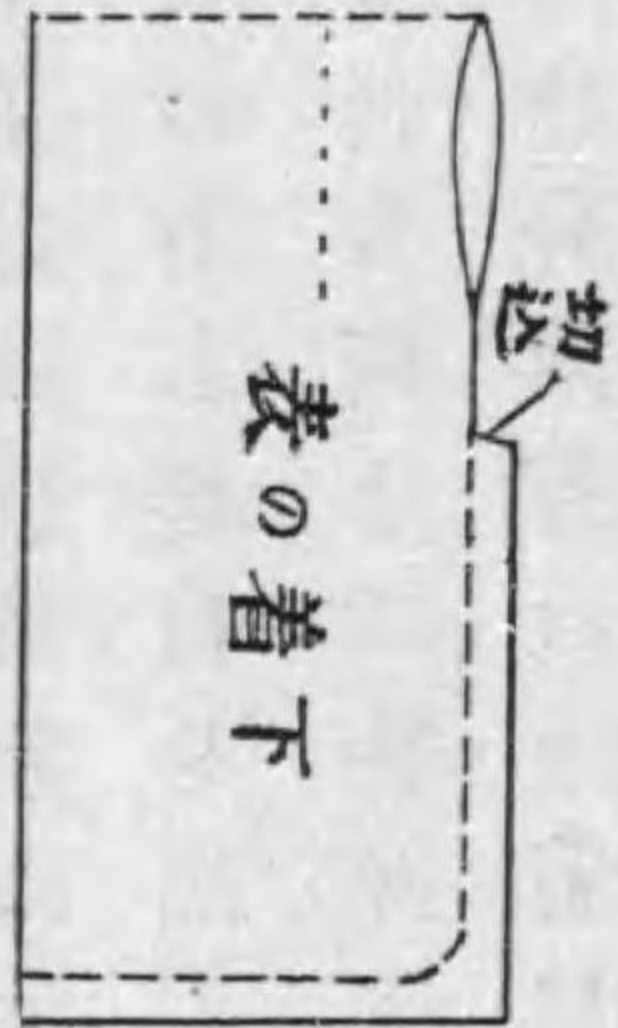
身頃

本裁女單衣標附方に同じければ之を省く。

第四 女單衣本重縫ひ方順序

袖

- 一、上着及下着の袖口に口切を縫合せ、口切の下を一つ折としておさへ縫ひす)
- 二、袖口を上着下着とも、四つ留になし、口切のある處まで、各四つ縫になし、袖口奥を衿け、下着口切の下縫代に上圖の如く切込を入れ、表に出し、
- 三、上着下着を合せて四つ縫ひにしふりの方は幅の中央より別々に縫ふ。
- 四、袂の丸みを調べ、表に返し襷をかけ、袖幅を極め、八つ口を綴づ。



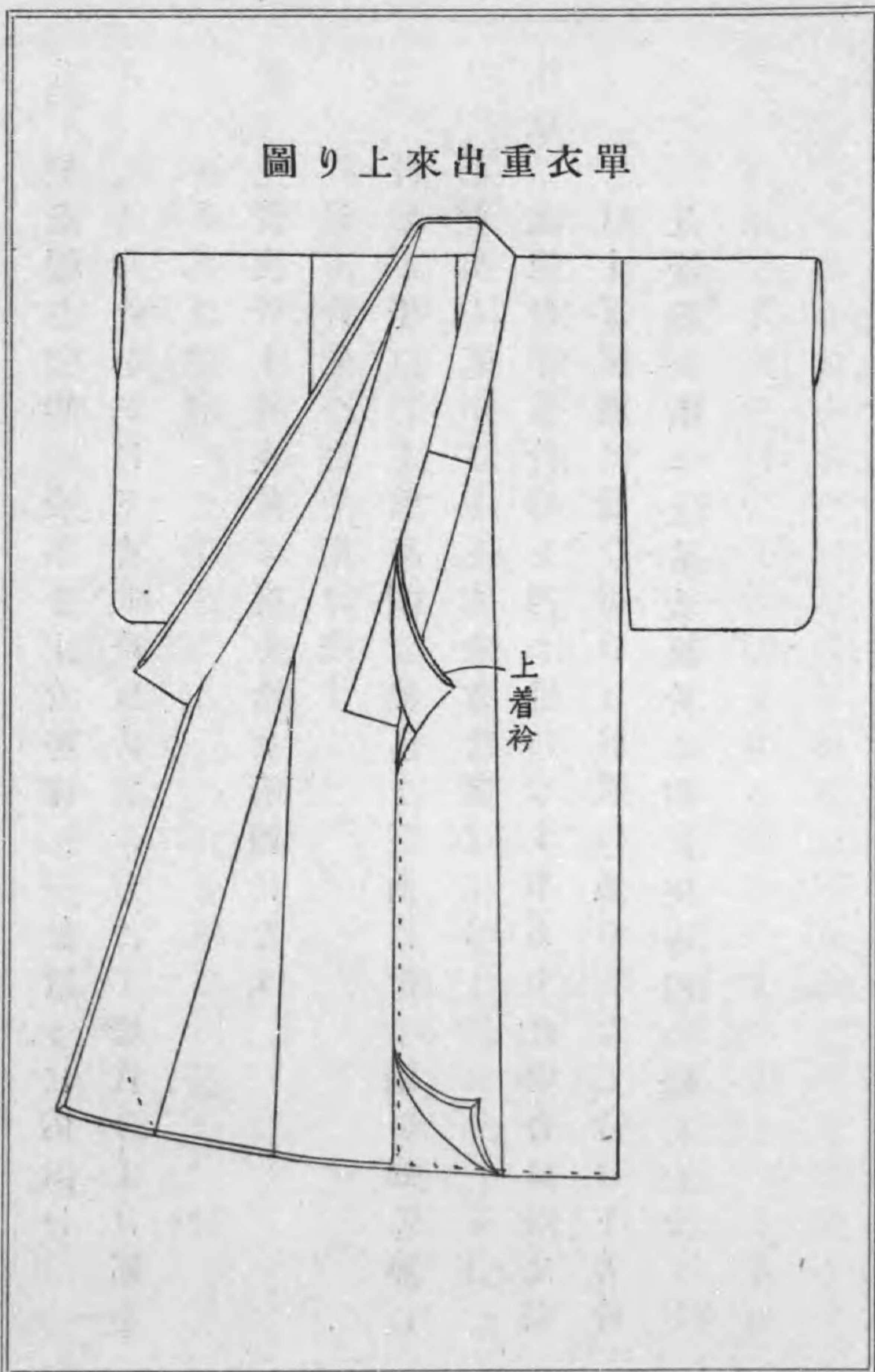
身頃

- 一、上着の脊脇を縫ひ、衽を付け、豎襖及裾を絎け、(襖先額縁とす)
- 二、衽附 表裏の衽にて身頃を挟み縫ひ、衽先の留をなし、其絲にて衽先を縫ひ縫込を裏に折り返し綴附け、表に返し衽幅を極め衽を絎け、
- 三、下着は裾四枚別々に絎け、
- 四、表の方へ縫目を出して脊脇を縫ひ、衽裾口及襖先十五糎上りたる所まで絎け、それより上は躰にて抑へ置き衽及衽を附け(衽附方は上着に同じ)
- 五、上着と下着とを重ねて脊脇を綴ち、
- 六、身八つ口を留め、其絲にて身八つ口を縫ひ、引返して躰を掛け、
- 七、袖附を四つ留になし、其絲にて袖を附け、(袷袖附と同じ)

- 八、衽を綴じ豎襖の残りを上着豎襖に一針置きに絎附け、
  - 九、上着共衽をかけ下着共衽は衽附の方にて縫代分丈け幅をひかへて附け、
  - 十、上着裏衽、下着表衽の奥を合せ絎綴になす。  
但し衽先一糎を絎け残す
  - 十一、衽附の裾口にて前身頃の縫込を三角に折り圖の如く裏に三針出してかさりとちをなし置く。
- 注意 此他衽附、及衽附を四つ縫になす事あり。此場合衽附は裾口十五糎別に縫ひ裾口は前述の通りとなし、衽は下着衽先を縫ひ置き、上着表裏衽の間に挟み四つ縫になす。



單衣重出來上圖

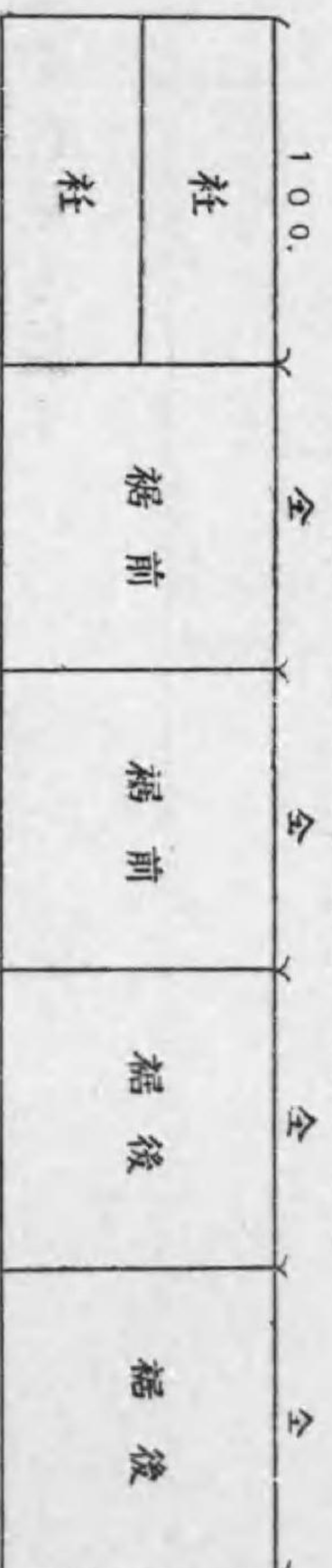


附記女單衣半重

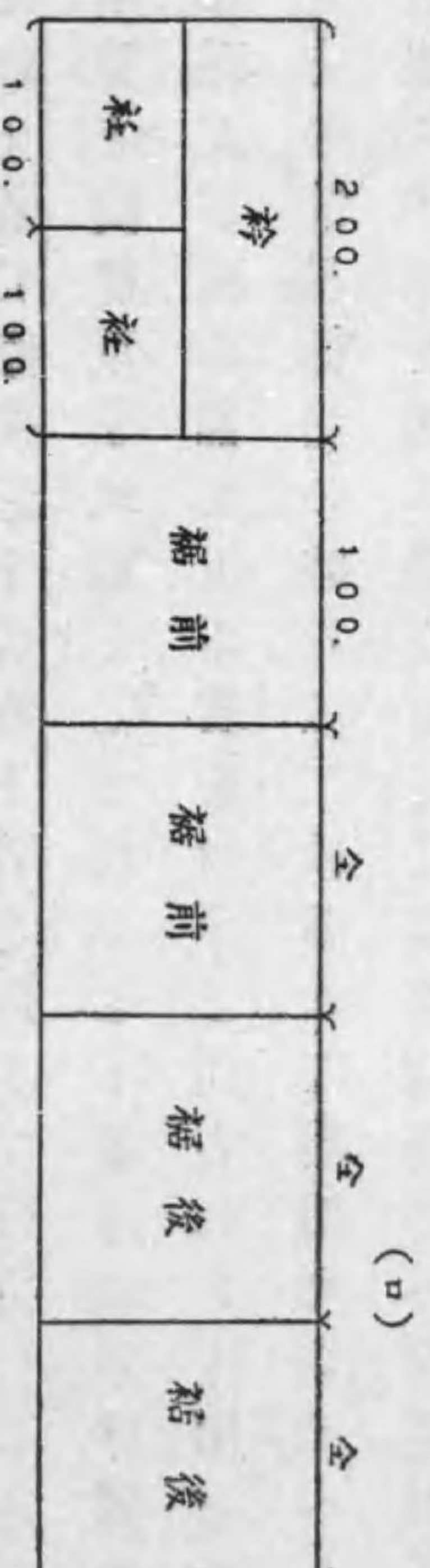
半重は上着に腰部以下のみ下着を附して仕立つるものにして本重と同様夏季式服として用ひらる、最もこの半重の仕立方は袖及び衿の部にも下着を附する向あれども、用布の經濟、仕立方の簡易、極暑の時なほ、二枚重ねて着用せざるべからざる式服の不便を補ふ點よりして、腰部以下のみを重ねて本重の代用とするこの半重の特徴を可としこれについて記す(喪服などに最も適す)

方裁着下重半衣單物女

(寸四尺三丈一)米五さ長 幅並 (布用) (1)



裾丈×5 = 用布  
100. × 5 = 500.



裾丈×6 = 用布  
100. × 6 = 600.

上着裁方は普通單衣に同じ。

- イ、の裁方は裏衿を別布とす。
- ロ、の裁方は裏衿として用ひらるゝ布即ち白絹、ネリ絹などの時衿のわきより裏衿を取る。

縫ひ方

袖

一、袖は普通單衣に同じ。

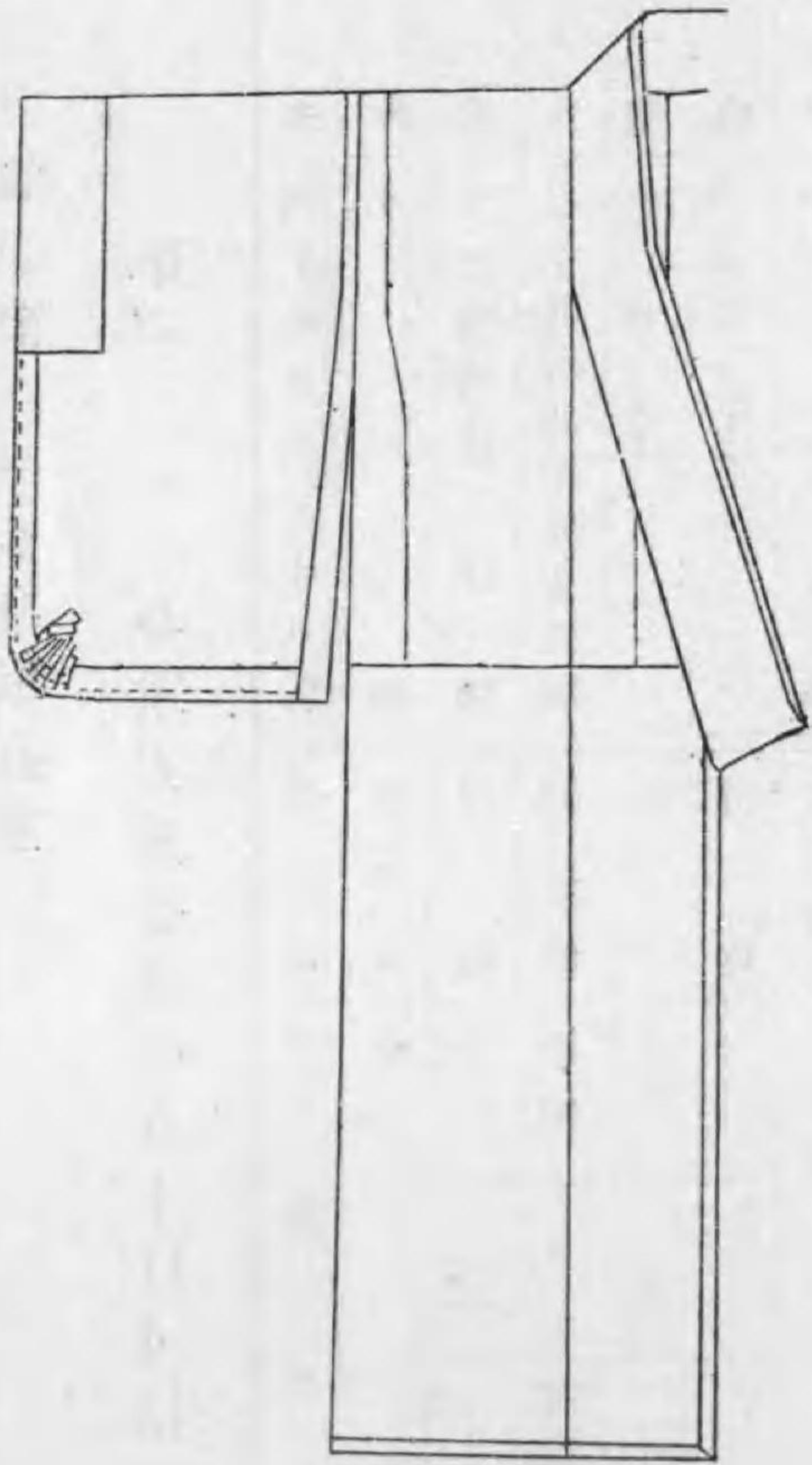
身頃

- 一、上着の脊、脇、衿を縫ひ、
- 二、裾及豎襷をくけ、
- 三、下着の裾四布を別々に裾ぐけし、
- 四、衿の裾及豎襷を三つ折にして躰にておさへ(襷角はがくぶ)

- ちとす)
- 五、 下着の脊、脇、衽を表の方に縦目を出して縫ふ。
  - 六、 上着下着の裾口をそろへ脊、脇、衽をとち、
  - 七、 下着の上部を一つ折にして上着に締めつけ(上着の脇縫及衽の上部は絹布單衣の如く調へ置く)
  - 八、 堅襖は本重の如く一針置きに上着たてづまの折山に針をかけて締めつけ(襖先より十五厘位上りたるより裾口までは下着をはなして締めつける)
  - 九、 衽裾のまとめ方は本重に同じくかざりとちす。
  - 十、 表裏衿にて身頃をはさみ縫ひ衿先を止め衿先を縫ひ衿幅を定め裏にて締めつける。
  - 十一、 袖をつけ八つ口及身八つ口を三つ折締めつけとし仕上げをなす。

す。

半重を裏より見たる圖



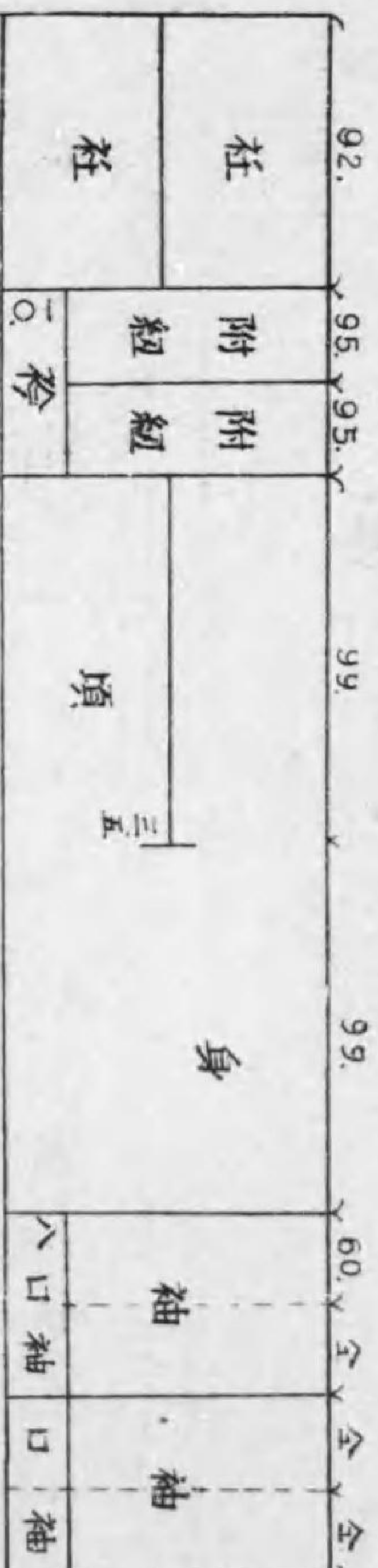
第二節 一つ身單衣重

第一 一つ身單衣重普通仕立上げ寸法

袖丈	四十糎乃至五十八糎	衿肩明	三糎五	糎
袖附	十糎	衿下り	九糎	糎
袖幅	十七糎乃至二十一糎	衿幅	十糎	糎
身丈	七十五糎乃至九十五糎	相袂幅	衿幅より七糎狭く	糎
後幅	一ば	衿下	十糎	糎
前幅	一ば	衿幅	三糎	糎
身八つ口	十糎			糎

第二 一つ身單衣重裁方積り方

(尺九丈一) 糎十二米七さ長 幅並 (布用)



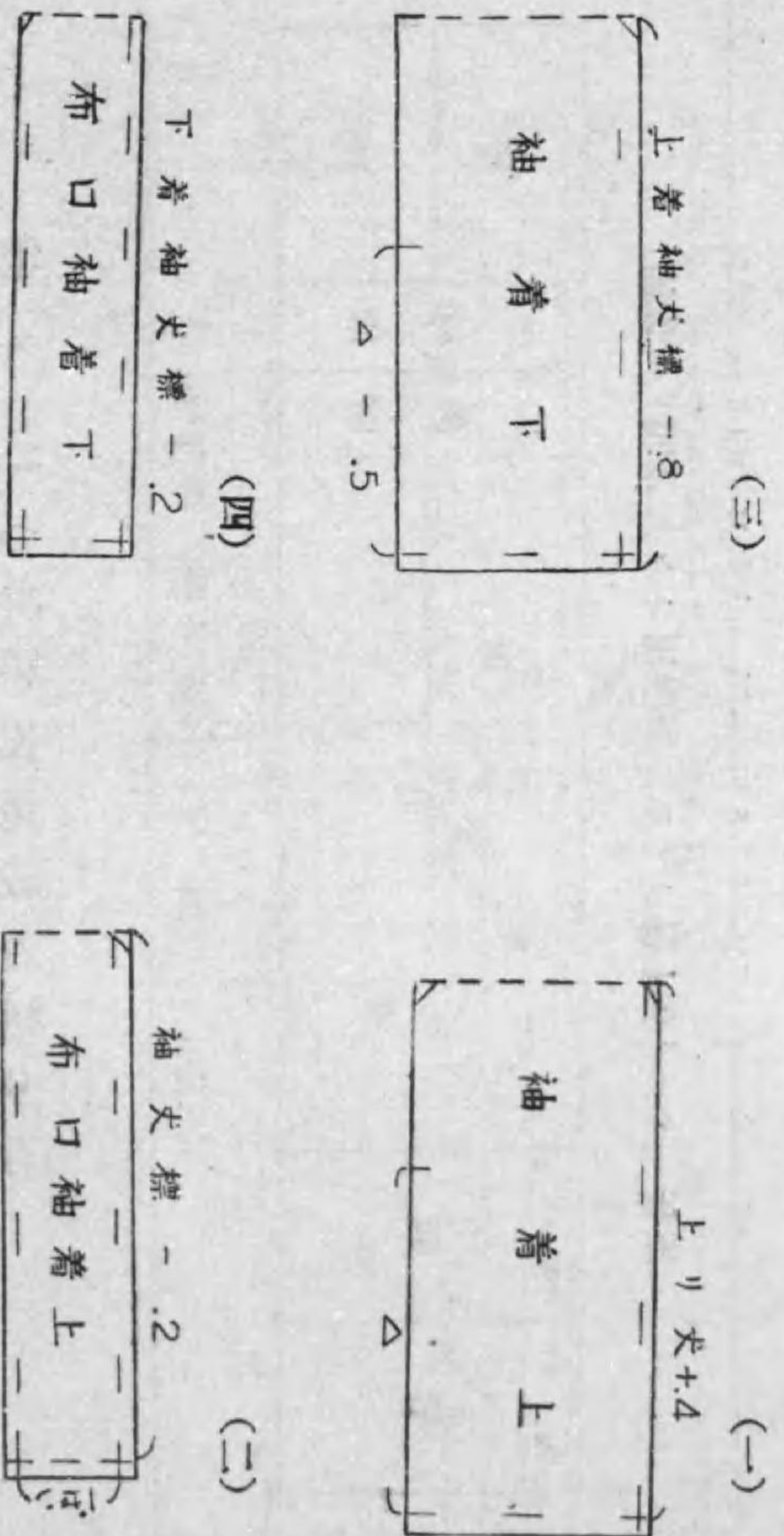
{用布一(袖丈×4+附紐丈×2)+衿下り}÷3=身丈  
 {720.一(60.×4+95.×2)+7.}÷3=99.

備考

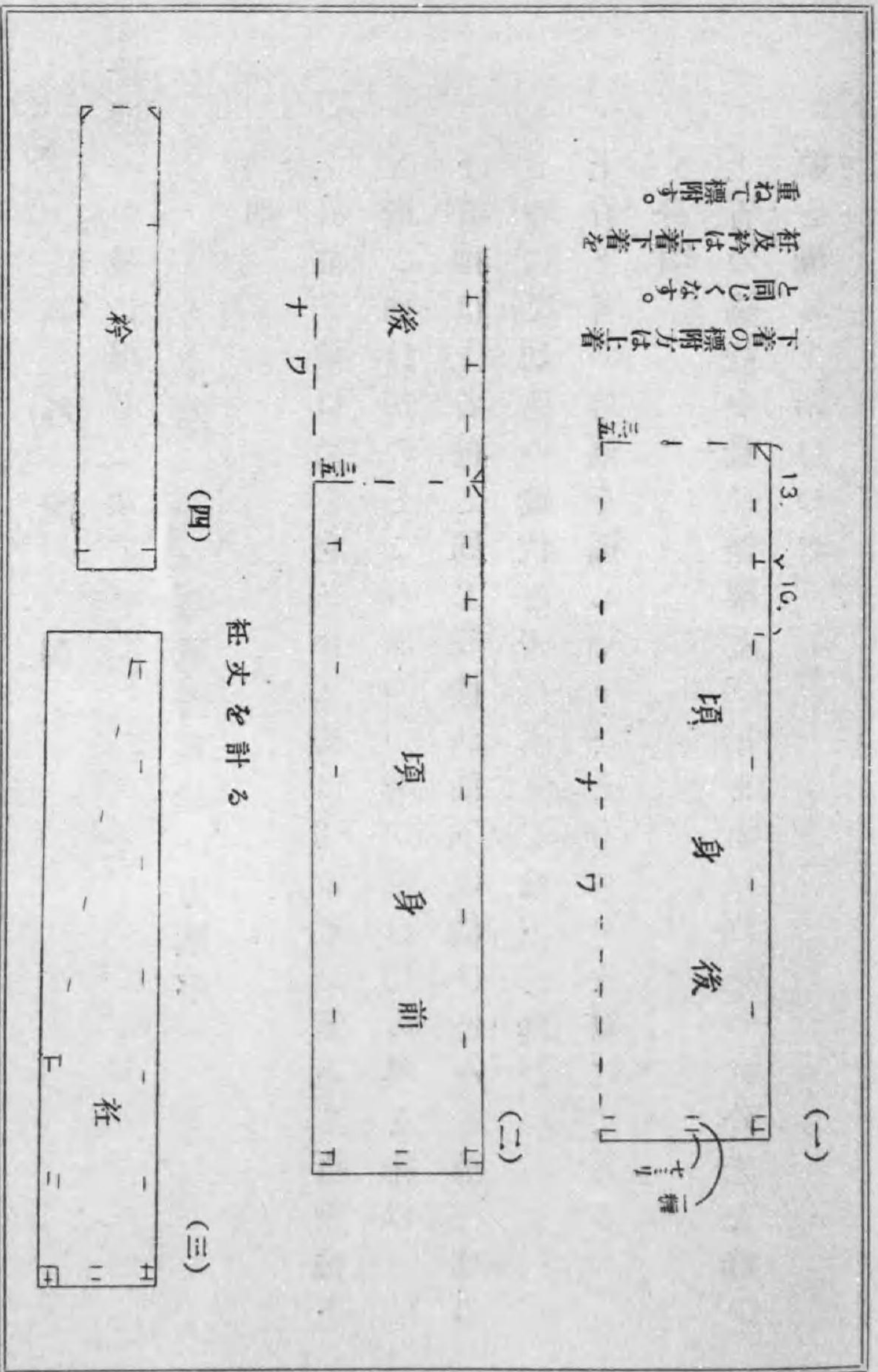
下着裁方は上着に同じ。

第三 一つ身單衣重標附方

(3) 圖解



下着の標附方は上着と同じくならず。衿及袴は上着下着を重ねて標附す。



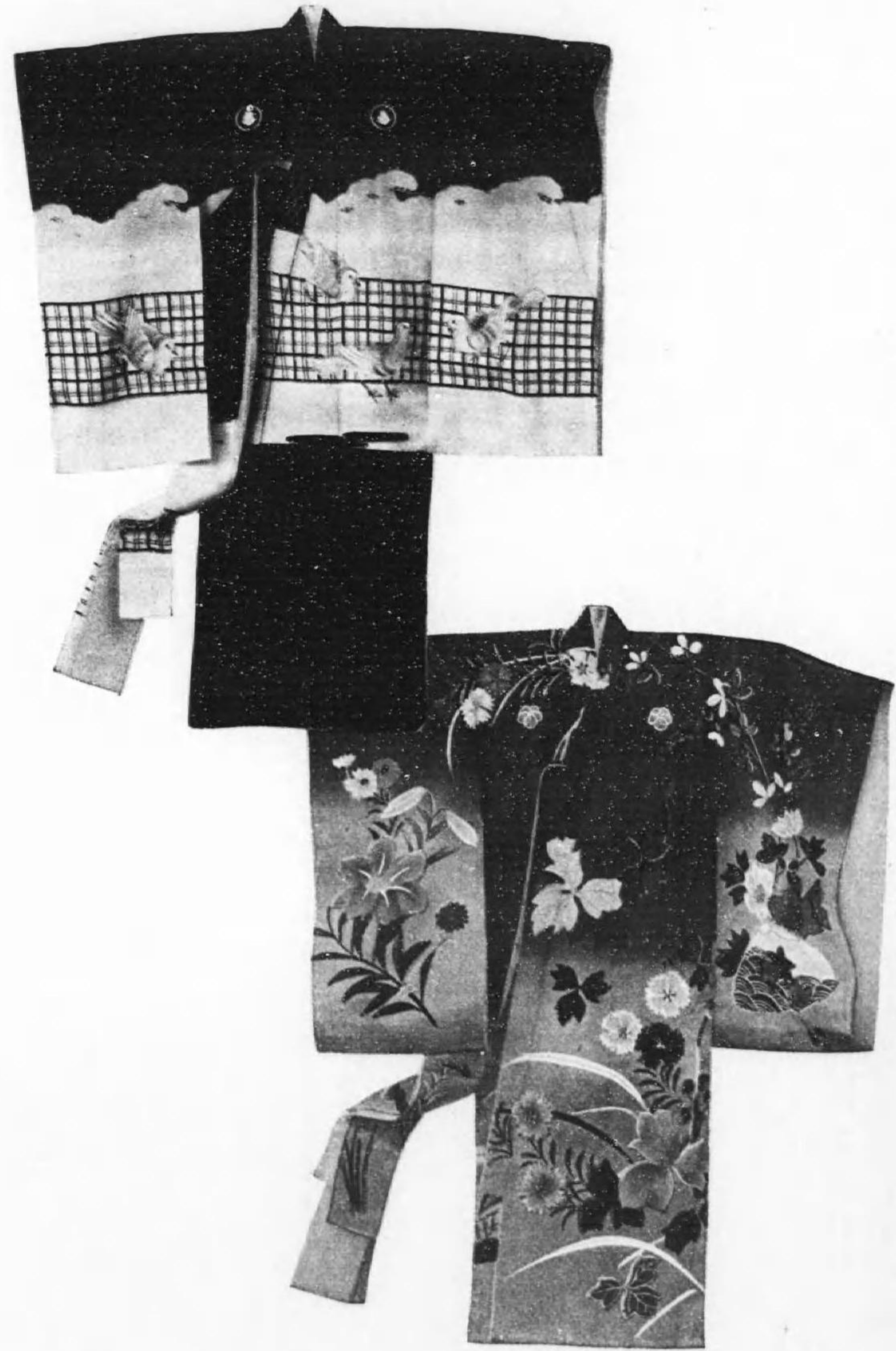
(3) 説明

普通一つ身に準じてなすべし。

第四 一つ身單衣重縫ひ方順序

袖

- 一、上着袖と袖口切を縫ひ合せ袖口切の幅を極めて折り袖下を縫ひ(袖口切のところは四つ縫ひ)袖口切の奥を拵け、
  - 二、下着袖は上着袖と同じく縫ひ袖下の縫ひ込みを袖口切のきわにて切込み縫代を表に出して袖下を縫ひ、
  - 三、上着下着の袖幅を極め袖下をもちふりを躰にておさへ、
- 身頃
- 一、上着の脇衽を縫ひ豎褸及び裾を拵け衿をつけ衿先を縫ひ幅を極めて拵けつけ、



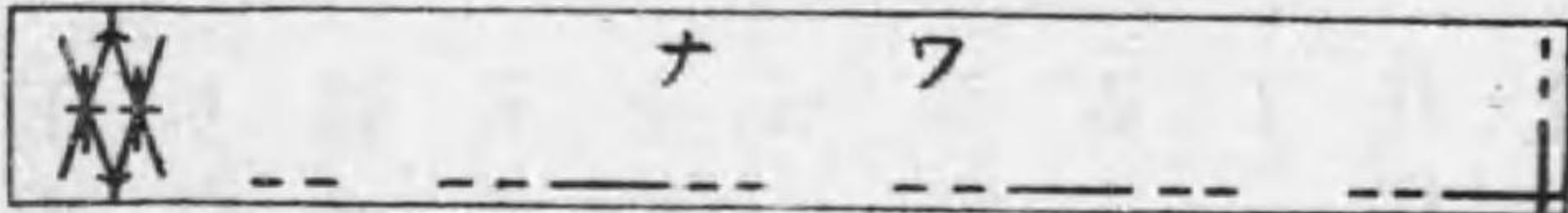
- 二、 下着を一布毎に裾拵けをなし衽の裾口及襷先十三糎位上りたる所まで拵けそれより上は襷にて抑へ置き、
- 三、 脇衽を表の方へ縫目を出して縫ひ衿をつけ(衿の附方は上着に同じ)衿を調へ、
- 四、 上着下着の脇綴ちをなし、身八つ口を留め其の絲にて身八つ口を縫ひ引きかへして襷をかけ、
- 五、 袖附を四つ留になし、其の絲にて、袖を付け、振り八つをとち(表と裏とに一針づゝ出してとちる此場合絲色に注意すべし)
- 六、 衽綴ちをなし、豎襷に拵け附け(一針置きとす)
- 七、 上着下着の衿奥を合せて拵け綴ちになす(衿先一糎を拵け残す)



八、紐をつけ仕上げをなす。

附紐

紐かざり



附紐は普通、並幅を二つ割になし、丈は九十五糎位とす、先づ幅を二つに折りて縫ひ表にかへし紐と配合よき色絲二本にて上圖の如き躰をかけ、紐かざりの箇所にイタメ紙(はがきの厚さ位を適當とす)を紐布の間より入れてまわりをかりとちなし置き、好みの紐かざりをなし二本の絲にてしつかりと衿にとち附け置く。

第二章 重ね物

第一節 各種重ね物下着寸法つめ方表

種類	名稱		一 つ 身		元祿	三 つ 身	四 つ 身	本 女	裁 男
	袖丈	袖口	潤袖	筒袖					
	一糎	一糎	一糎	一糎	一糎	八糎	八糎	八糎	一糎
			五糎	一糎	五糎	四糎	四糎	四糎	四糎
	袖附	袖幅	五糎	五糎	五糎	五糎	五糎	五糎	一糎
	同上着と	同上着と	五糎	同寸	五糎	五糎	五糎	五糎	五糎
	身丈	後幅	四糎	四糎	四糎	四糎	四糎	四糎	四糎
		前幅	四糎	四糎	五糎	七糎	四糎	四糎	四糎
	肩明	肩丈	四糎	四糎	五糎	三糎	八糎	八糎	八糎
	衿丈	肩幅	八糎	八糎	八糎	八糎	八糎	八糎	八糎
									廣五糎

備考

表中(イ)肩幅のみは上着より廣くすること。

- (ロ) 三つ身及四つ身の元祿袖と筒袖のつめ方は一つ身と同じくす。
- (ハ) 三枚重ねの時は中着の寸法を普通寸法とす。

第二節 本裁女重ね

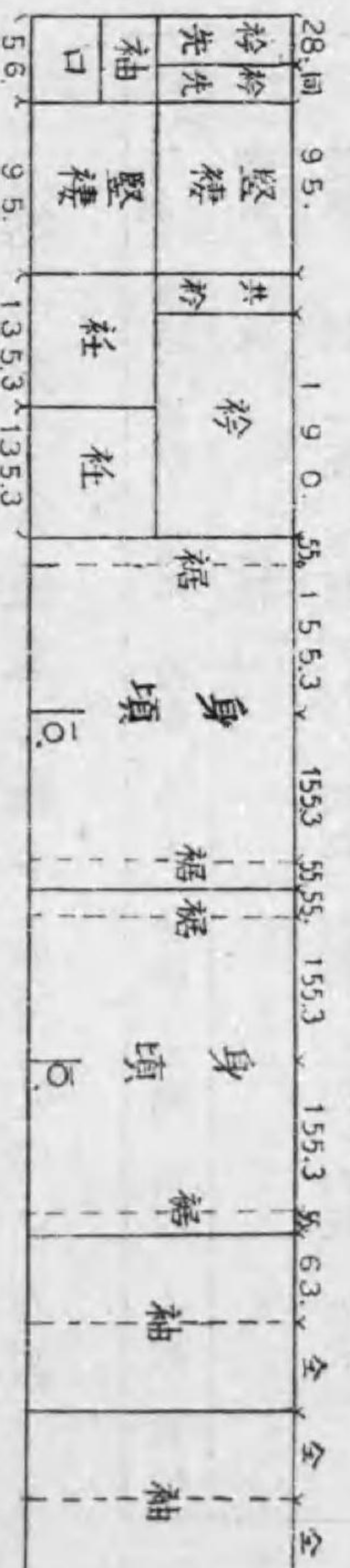
第一 普通仕立上げ寸法

普通仕立上げ寸法は上巻女服に同じ

第二 女重ね裁方積り方

方裁(し返引)垢無服女

(丈四) 纏五十米五十 幅並 (布用)



[用布] - {(袖丈 + 裾丈) × 4 + 堅縫 + 袖口丈} + 衤下リ × 2 ÷ 6 = 身丈  
 [1515. - {(63. + 55.) × 4 + 95. + 56.} + 20. × 2] ÷ 6 = 155.3

(分枚一)方裁垢無り廻着下服女

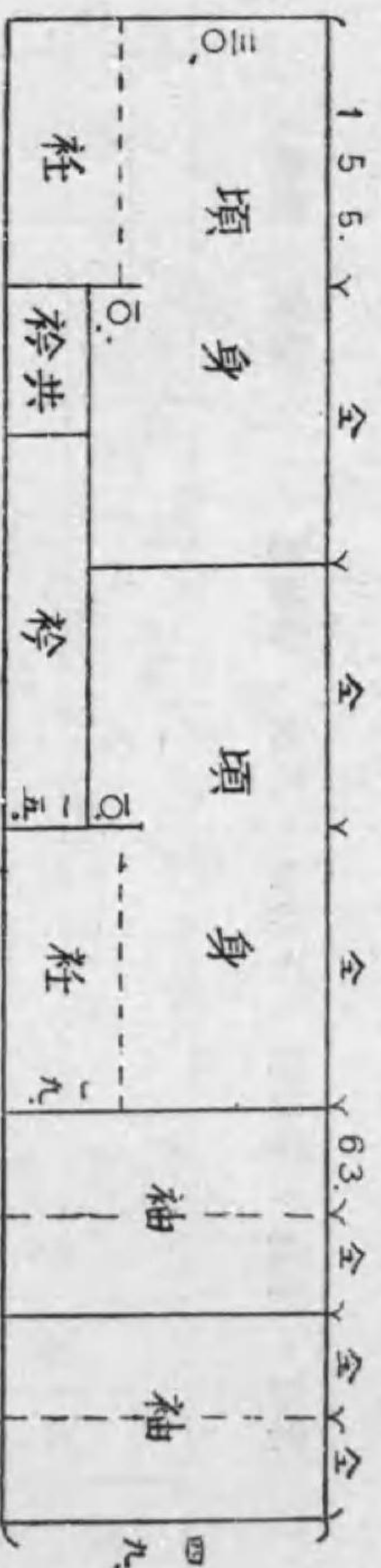
(位寸三尺三丈二) 纏一十八米八さ長 幅並 (布用)



(表裾 + 裏裾) × 4 + 裏堅縫 + 衤丈 + 共衤丈 + 袖口丈 + 衤先 = 用布  
 (53. + 55.) × 4 + 95. + 190. + 80. + 56. + 28. = 881.

### 方裁服女てに(幅種九十四)物幅中

(位尺三丈二)種二十七米八 (布用)



(袖丈 + 身丈) × 4 = 用布

(63. + 155.) × 4 = 872.

### 備考 縮緬類の布幅

- 大幅……六十五種一尺七寸位より 七十種一尺八寸五分位まで
- 中幅……四十五種一尺二寸位より 五十種一尺三寸位まで
- 普幅……三十五種前後九十二三分

### 方裁垢無服女てに(幅種五十四)物幅中

(寸九尺八丈二)種五十九米十さ長 (布用)



{用布 - (袖丈 + 身丈) × 4} ÷ 4 = 裾丈

{1095. - (63. + 155.) × 4} ÷ 4 = 55.5

### 方裁枚二垢無し廻着下服女

(寸四尺八丈四)幅三十三米八十三長 幅並 (布用)

93.	93.	55.	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
フ	表	全	全	全	全	全	全	全	表	全	全	全	全	全	全	全	全	全	表
マ	ハ	全	全	全	全	全	全	全	裾	全	全	全	全	全	全	全	全	全	裾

20.	20.	45.	56.	56.	63.	63.	80.	190.	95.	95.
き	ゑ	や	そ	そ	半	半	裾	裾	フ	裏
り	り	つ	で	で	袖	共	共	裾	マ	ハ
き	り	ち	ち	ち	袖	共	共	裾	マ	ハ

(表裾+裏裾)×8+表堅襷×2+裏堅襷×2+衤丈+共衤丈+半袖×2+袖口丈×2+やつ丈+衤先×2=用布  
 (53. + 55.)×8+ 93. ×2+ 95. ×2+190. + 80. + 63.×2+ 56. ×2+ 45. + 20.×2=183.3

### (ア)に布の定一)方裁枚二垢無し廻着下枚一)廻裾着上服女

(位寸六尺一丈六)幅十六米三十二三長 幅並 (布用)

93.	93.	62.	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
表	表	全	全	全	全	全	全	全	表	全	全	全	全	全	全	全	全	全	表
堅	堅	全	全	全	全	全	全	全	裾	全	全	全	全	全	全	全	全	全	裾
襷	襷	全	全	全	全	全	全	全	裾	全	全	全	全	全	全	全	全	全	裾

28.	28.	28.	56.	56.	45.	80.	190.	63.	63.	95.	95.	95.
ゑ	ゑ	さ	ゑ	袖	や	共	裾	袖	半	表	表	表
り	り	き	り	口	つ	共	裾	半	半	堅	堅	堅
さ	き	袖	袖	口	つ	共	裾	半	半	襷	襷	襷
き	き	口	口	口	つ	共	裾	半	半	襷	襷	襷

{用布一(表堅襷×2+裏堅襷×3+半袖×2+衤丈+共衤丈+やつ丈+袖口丈×3+衤先丈×2)  
 一裏ふき分×12}÷20=表裾丈  
 {2360.-(93. ×2+ 95. ×3+63. ×2+190.+ 80. + 45. + 56. ×3+ 28. ×2)  
 一 2. ×12}÷20=60.

方裁枚二垢無し廻着下枚一垢無服女にて(幅糧九十四物幅中)

(餘寸七尺二丈六)糧六十七米三十二 (布用)

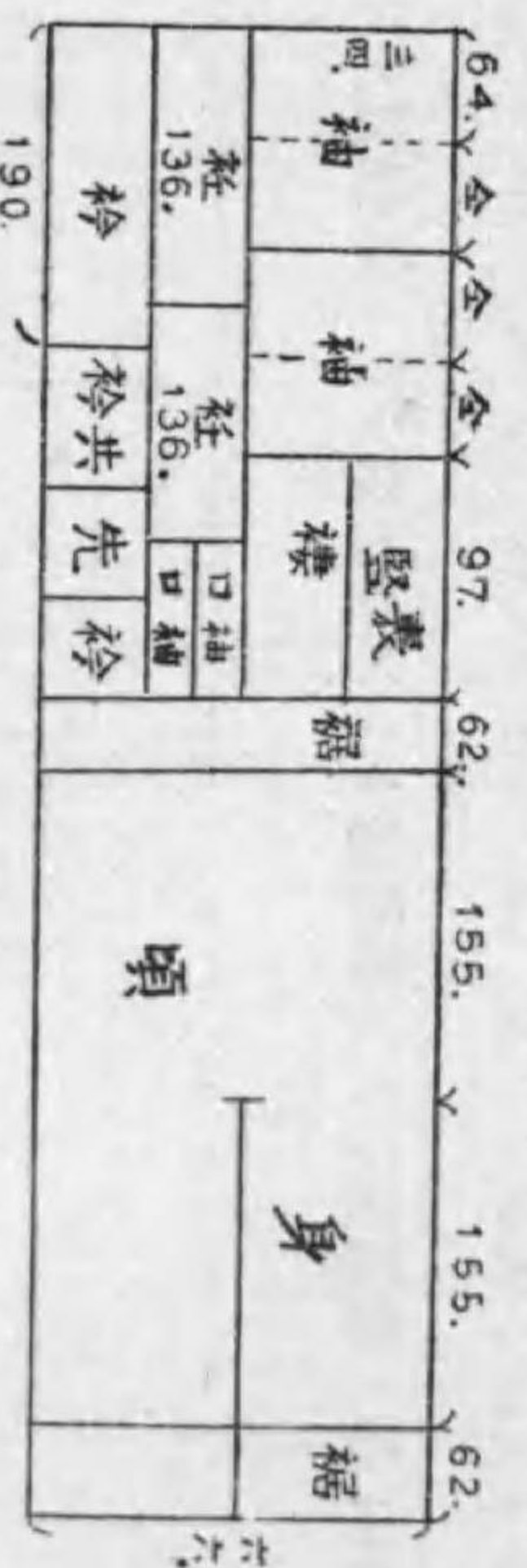


(袖丈 + 身丈) × 4 + 裏裾丈 × 12 + 表裾丈 × 8 + 表腰襷 × 4 = 用布

( 63. + 155. ) × 4 + 57. × 12 + 55. × 8 + 95. × 4 = 2376.

方裁枚二垢無し廻着下及垢無着上服女にて(幅糧六十六物幅大)

(位尺六丈四)糧十四米七十 (布用)

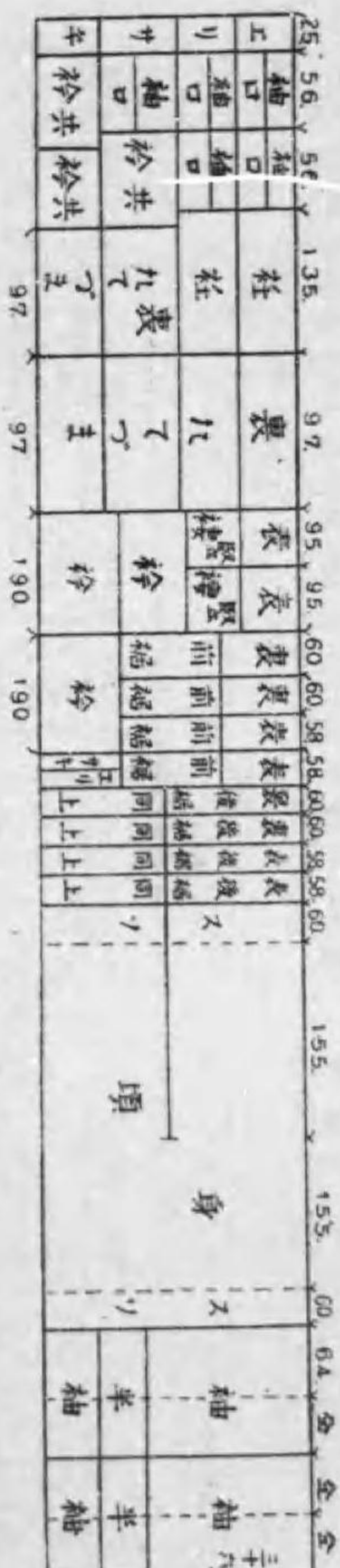


袖丈 × 4 + (身丈 + 裏裾丈) × 2 + (表裾丈 + 裏裾丈) × 8 + 裏腰襷 = 用布

64. × 4 + ( 155. + 62. ) × 2 + ( 60. + 62. ) × 8 + 97. = 1740.

方裁一枚二垢無り廻着下及垢無着上服女にて(幅種八十六)物幅大

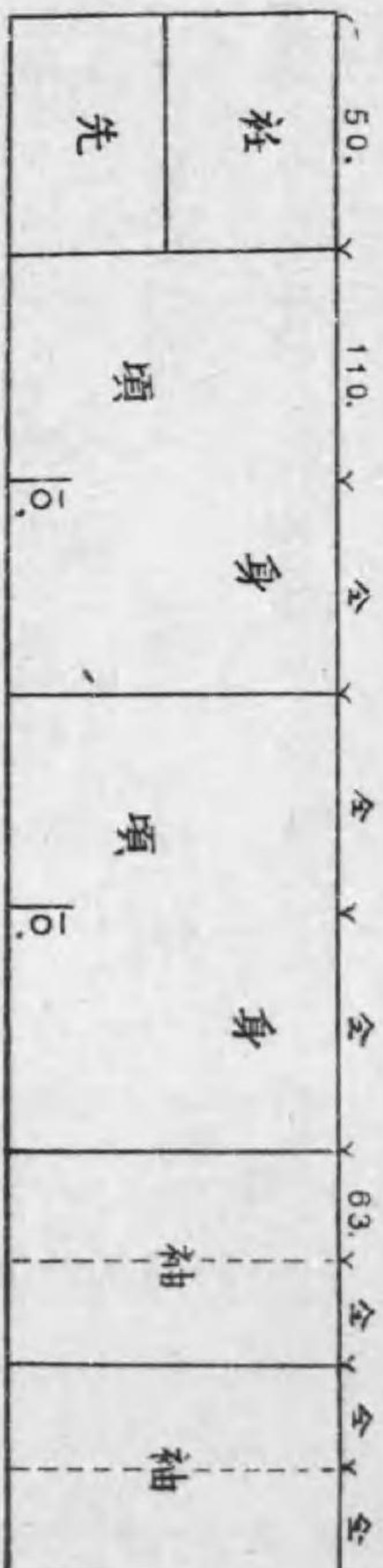
(分五寸三尺五丈四)種七十米七十 (布用)



袖丈×4+身丈×2+裏裾丈×6+表裾丈×4+表腰×2+裏腰+衿+袖口×2+衿先=用布  
 64. × 4 + 155. × 2 + 60. × 6 + 58. × 4 + 95. × 2 + 97. + 135. + 56. × 2 + 25. = 1717.

方裁 披胴着下重女

(寸五尺九丈一)種十四米七 幅並 (布用)



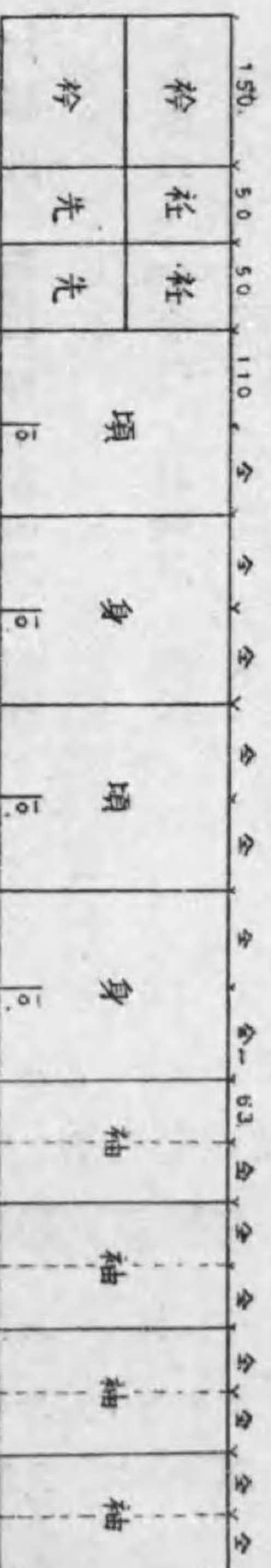
方り積の披胴

上着丈 - 裾廻し丈 + はぎ代 = 胴丈  
 155. - 55. + 10. = 110.  
 上着衿丈 - 腰裾丈 + はぎ代 = 衿先  
 135. - 95. + 10. = 50.  
 (袖丈 + 胴丈) × 4 + 衿先 = 用布  
 (63. + 110.) × 4 + 50. = 740.

上着裁切丈  
 袖丈 六十三糎  
 身丈 一米五十五糎  
 衿丈 一米三十五糎  
 下着廻り地裁切丈  
 袴丈 五十五糎  
 腰裾丈 九十五糎

### 方裁裏胴重枚二服女

(位分五寸一尺三丈四) 幅並 (布用)



#### 方り積分枚二地裏胴

表身丈一裏裾丈 + 出衿 × 2 + 胴交代 = 胴裏丈  
 155. - 57. + 1. × 2 + 10. = 110.  
 表身丈一衿下 + 肩明及衿先縫代 × 2 = 表衿丈  
 (155. - 76. + 15. ) × 2 = 186.  
 表衿丈一衿先 × 2 + はぎ代 × 2 = 裏衿丈  
 186. - 28. × 2 + 10. × 2 = 150.  
 表衿丈一裏縫丈 + 出衿 × 2 + はぎ代 = 衿先  
 135. - 79. + 1. × 2 + 10. = 50.  
 (袖丈 + 胴丈) × 8 + 衿先 × 2 + 衿丈 = 用布  
 (63. + 110.) × 8 + 50. × 2 + 150. = 1634.

表地裁切丈  
 袖丈 六十三  
 身丈 一米五十五  
 衿丈 一米三十五  
 裾廻し裁切丈  
 裾丈 五十七  
 縫丈 九十七  
 衿先 二十八  
 出 一

### 第三 女重ね標附方及縫ひ方

重ね物標附方及縫ひ方は、普通女服に準じてなすべし、下着は下着寸法つめ方によりて標附すべし。

#### 第四 紋附裾模様物について

##### 1 裁つ時の注意

- イ、紋所に注意して裁つべし(紋のさかさにならぬ様注意すべし)
- ロ、それぐの模様を合せ置き其上にて裁つべし。
- ハ、袖模様あらば多くの場合模様高き方を袖口にすべし。
- ニ、衿模様は普通模様高き方を豎襷とす。
- ホ、前身頃の模様は高き方を衿附とす随つて衿肩明は模様高き方に明くべし。

(但しハ、ニ、ホ、に記せし事は模様により一定せざれば全體の模様に注意し、模様の生きる様心掛くべし)  
へ、裾ふきの部分に模様の出づるものは、表裏を定むる時注意せざればあやまる事あり。

## 2 標附の時の注意

衽と前身頃の如く總べて模様の合ふべき所に注意し、模様の全體として特に目立つ所をよく合せる様になすべし。  
標附をなす前に各々模様を合せ、かり綴ちをなし、其ところに縫標及合標をし、これを標準として寸法を定むべし。  
縮緬類の如く伸縮の比較的多きものは、模様の合はざるヶ所を多少伸ばし、又は縮むる事あり、伸ばす時は裏より火熨斗或はこてをあて又は湯氣を通して引き伸ばす、縮めんとする時

は白布の清きものに霧を吹き、その布を裏よりあててアイロ  
ンか火熨斗をかくるものとす。  
又全體に丈の差あるものは腰揚げをなして其つまみによつて加減するも可なり。

## 3 紋の縫ひ合せ方模様の縫ひ方

袖紋は山より七糎五耗として幅の中央におさむべし、但し何かの關係にて袖附の方へ一糎位寄るは差し支へなし。  
脊紋は衿肩裁切より七糎下げ、左身頃を折りて右の上に重ね、紋のまがらぬ様、見苦しくなき様注意してまち針を打ち(此時分りにくき紋は袖の紋によつて正すべし)ゾベ絲にて極々淺く布の折山をかけて、かるくかゝり置き、改めて(イ)圖の如く裏より丁寧縫ふ紋白き時は白絲にて紋ぎわより二三糎はな

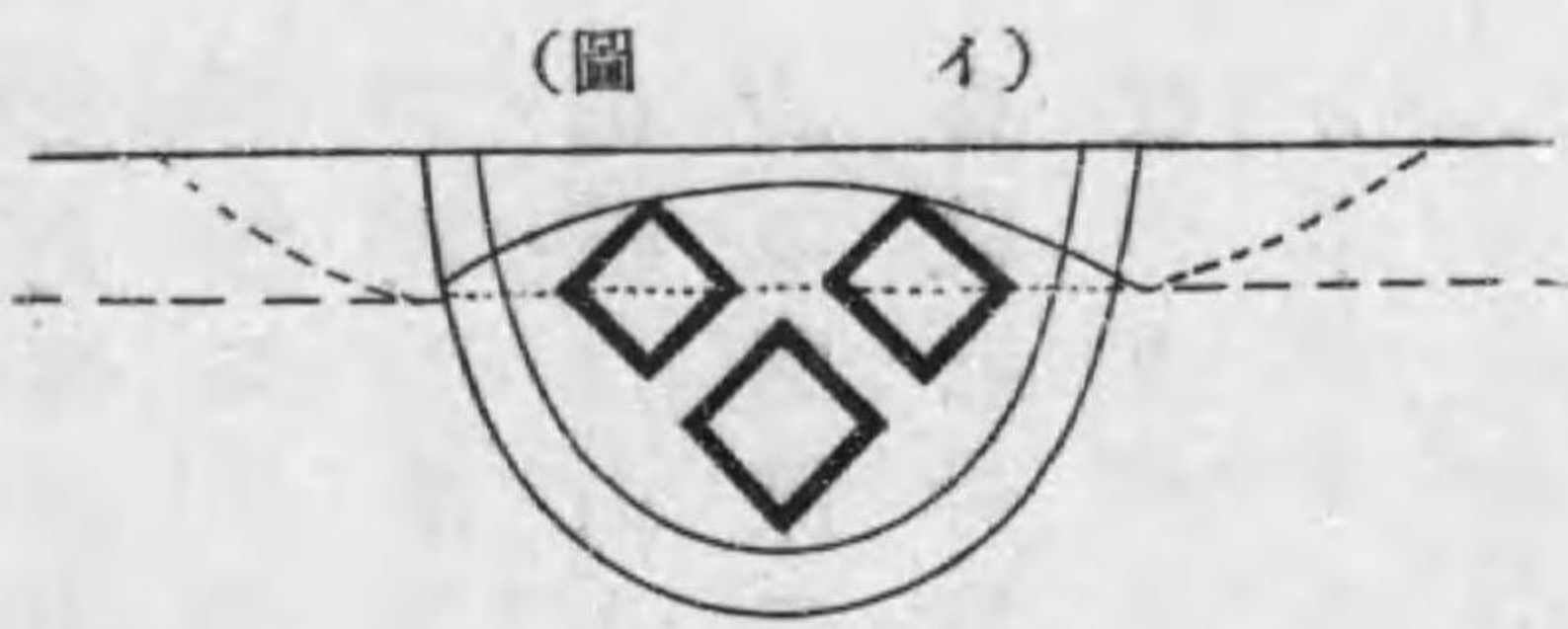


れたる布の耳の邊より縫ひはじめ、斜に紋ぎわに至りそれより紋の間をかへし針に糸をつらぬ様縫ひ(きせかけは糸一二本位とす)縫ひ終りのところも始めと同じく斜に縫ひ上げ置く。しかして更に地色の糸にて脊縫ひをし紋の間は始め終りの糸を一針かへして止め此糸を切らずしてつゞけ置くなり、又模様之ヶ所を縫ふ時も同じく此注意を必要とし、其模様の色合によりて縫糸を選ぶべし。

附記 女子禮服

(イ) 祝儀用女子禮服(冬期)

着物の裁方及縫ひ方は普通なれども仕立つる時左の點に注意を要す。



(圖 1)

袖附 帶を高く締むるため五纏乃至十纏を普通の寸法より少くすること(但し年齢による)  
 身八つ口 袖附少ければ身八つ口の明きを随つて多くす普通より五六纏多ければ可。  
 身丈 普通小袖の丈より七八纏長くす。  
 身幅 普通寸法より、後、前共一纏位廣き方好し。  
 衿下 普通衿下寸法より四五纏高き方好し。  
 くりこし 普通後へ二纏位をくりこす。

(一) 仕立方

- 1 着物 三枚重ね或は二枚重ねとして五つ紋又は三つ紋を附し無垢仕立となすべし。
- 2 襦袢 袷長襦袢とす。

- 3 帯 丸帯とす。
- 4 帯止 丸紵とす。

(二) 地質

- 1 上着 縮緬、錦紗縮緬、羽二重、紋羽二重等。
  - 2 下着 上着と同様。
  - 3 長襦袢 縮緬、紋縮緬、錦紗縮緬、紋錦紗縮緬、紋羽二重等。
  - 4 帯 綴織、絲錦、唐織、襦珍、厚板等。
  - 5 帯揚げ 縮緬、紋縮緬、紋羽二重等。
  - 6 帯止 白羽二重、白かべ羽二重等。
- (三) 色合
- 1 上着 祝儀用としては黒色を用ふれども又好みにより、年齢によりて、色物を用ふ。

- 2 下着 正式は白なれども場合によりては上着と同色或は同色系系統の色を用ふることあり(結婚式服三枚重ねの時黒白の間に赤を重ねるを正式とす)
- 3 長襦袢 下着白の時は白又は緋の無地又は緋の疋田紋りを用ふ、上下着同色の時は緋或は友禪縮緬にても可とす。
- 4 半衿 白地に金銀絲の繡取りあるもの。
- 5 帯 主として白地なれど、其他白茶地、青地等を用ふ。
- 6 帯揚げ 白又は緋無地、或は緋の疋田紋り。
- 7 帯止 白羽二重、又は白紋羽二重の無地、或は繡取りあるもの。

(四) 模様及柄合

- 1 上着の模様 多く江戸襦模様にして、松竹梅、桐に鳳凰、竹に雀、光林の松、千羽鶴、寶づくし、四季の花模様等の如きものを用ふ。
  - 2 下着の模様 正式は白無垢なれど上着と同色となす場合は、模様も亦上着に同じ(白の場合も上着と同じ模様或は通じたる模様を附すことあり)
  - 3 帯の柄合 菊牡丹、松葉ちらし、扇面ちらし、龜甲、千羽鶴等。
- (ロ) 祝儀用女子禮服(夏期)  
着物の裁方縫ひ方は單衣本重によつてなすべし。
- (一) 地質
- 1 上着 絹、絹縮緬、縮緬等。
  - 2 下着 絹、絹縮緬、縮緬、練絹等。

- 3 長襦袢 絹、絹縮緬、縮緬、紋絹、紋紗、紋縮緬、晒麻等。
  - 4 半衿 白絹に繡取りしたるもの。
  - 5 帯 絹、絹縮緬、紋紗、絹等。
  - 6 帯揚げ 冬期に同じ。
  - 7 帯止 冬期に同じ。
- (二) 色合
- 1 上着 黒を主とすれども好みによりてうす色を用ふ。
  - 2 下着 白。
  - 3 長襦袢 白。
  - 4 帯 白地、うす色等。
- (三) 模様及柄合
- 總て涼しげなる模様を附す。

(ハ) 女子凶禮の服装

近親者

- 1 上着 白 冬期は羽二重白絹、紬等。夏期は紹、縮緬、晒麻等。
- 2 下着 白 上着に同じ。
- 3 長襦袢 白 冬期は羽二重、紋羽二重、白絹等。夏期は紹、晒麻、練絹等。
- 4 半衿 冬期、羽二重。夏期、紹。
- 5 帯 白 冬期は羽二重、緞子、縹子、綸子等の無紋或は華麗ならざる織紋。夏期は紹、紗、晒麻等。
- 6 帯揚げ 白 紋羽二重、縮緬等。
- 7 帯止 白 羽二重等。

會葬者

- 1 上着 黒 冬期は羽二重、縮緬等とし模様なし。夏期は紹、紹縮緬等とし模様なし。
- 2 下着 白 冬期は羽二重、縮緬模様なし。夏期は紹、紹縮緬等模様なし。
- 3 長襦袢 白 冬期は羽二重、紋羽二重、白絹等。夏期は紹、紗、晒麻等。
- 4 半衿 冬期は羽二重。夏期は紹。
- 5 帯 黒 冬期は黒縹子、華麗ならざる織物。夏期は黒紹、黒紗。
- 6 帯揚げ 近親者に同じ。
- 7 帯止 黒 羽二重、年若き人は白も可。

其他會葬者は略して羽織黒紋附を着用す、此時着物は縞物を好しとす(縞形附等より縞の方正式なり)襦袢の半衿は白を用ふ。

(二) 模様の種類

(1) 腰模様

相袂の所より裾二十五糎(五六寸)乃至四十糎(一尺)位の高さに模様の廻りたるもの。

(2) 肩拔模様

肩の部丈けに模様なきもの。

(3) 島原模様(夜會模様、千代田模様とも云ふ)

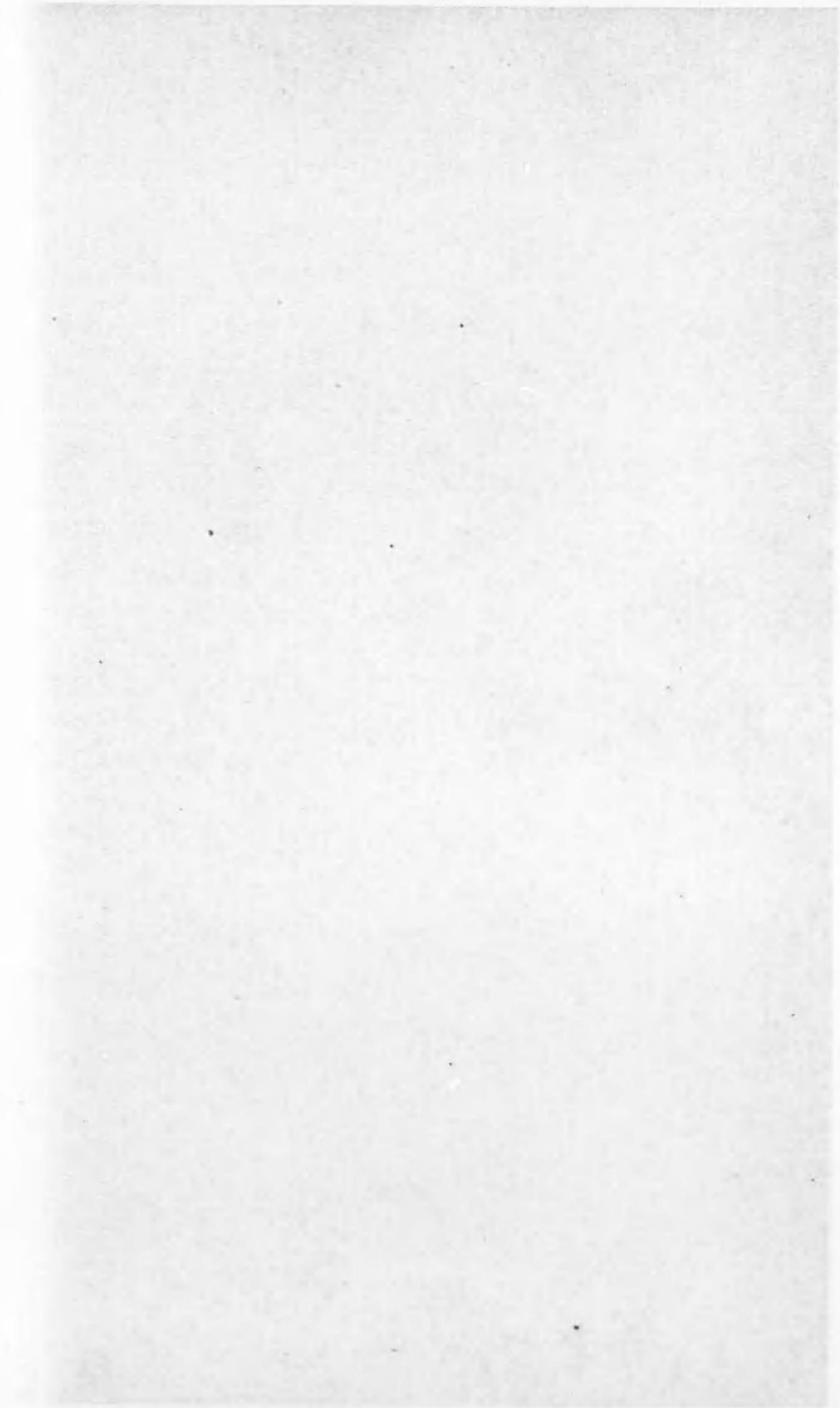
胸の邊まで高く模様のあるもの。

(4) 奴模様

左右の衽のみに模様のあるもの。

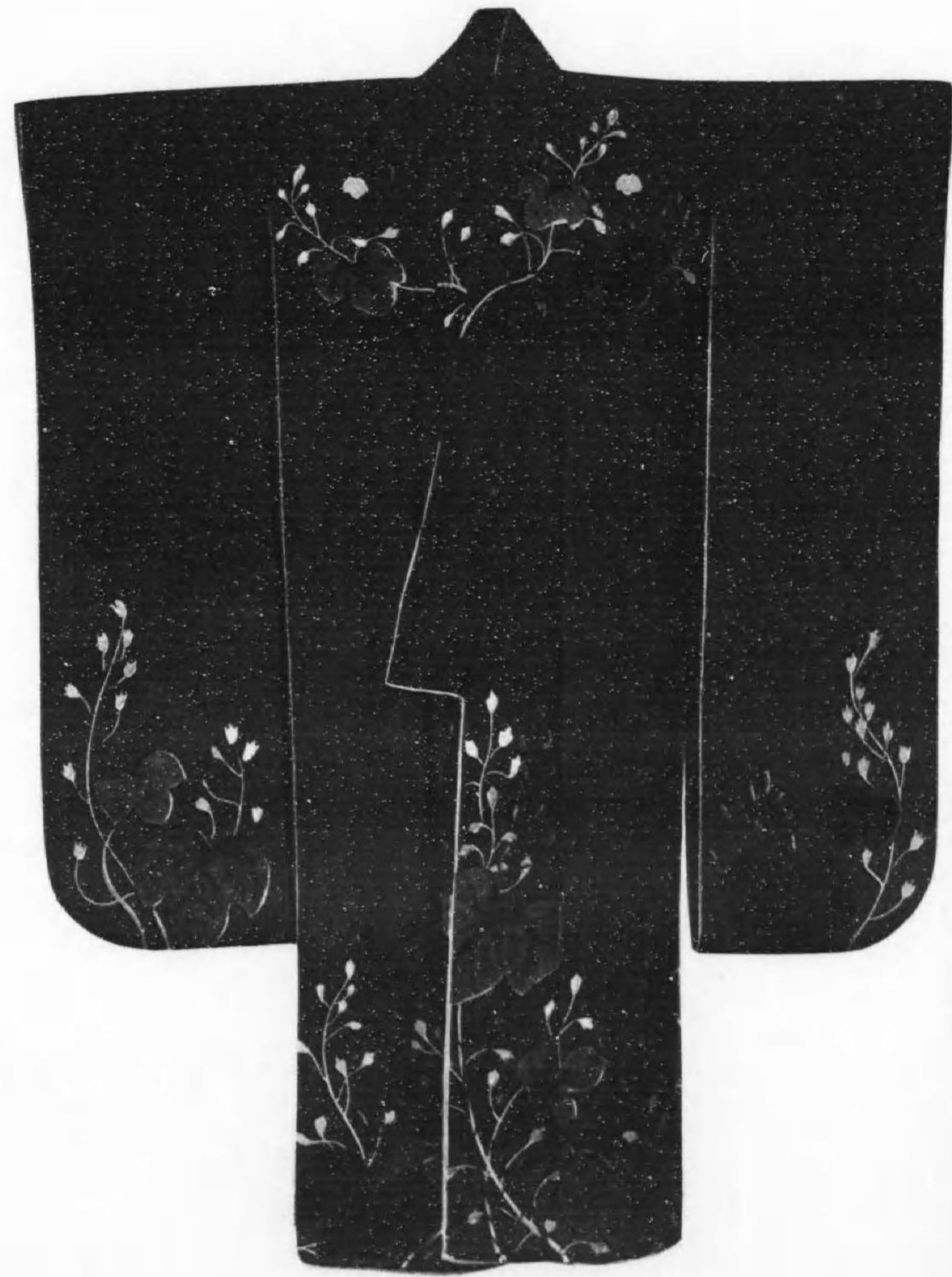


腰 模 様



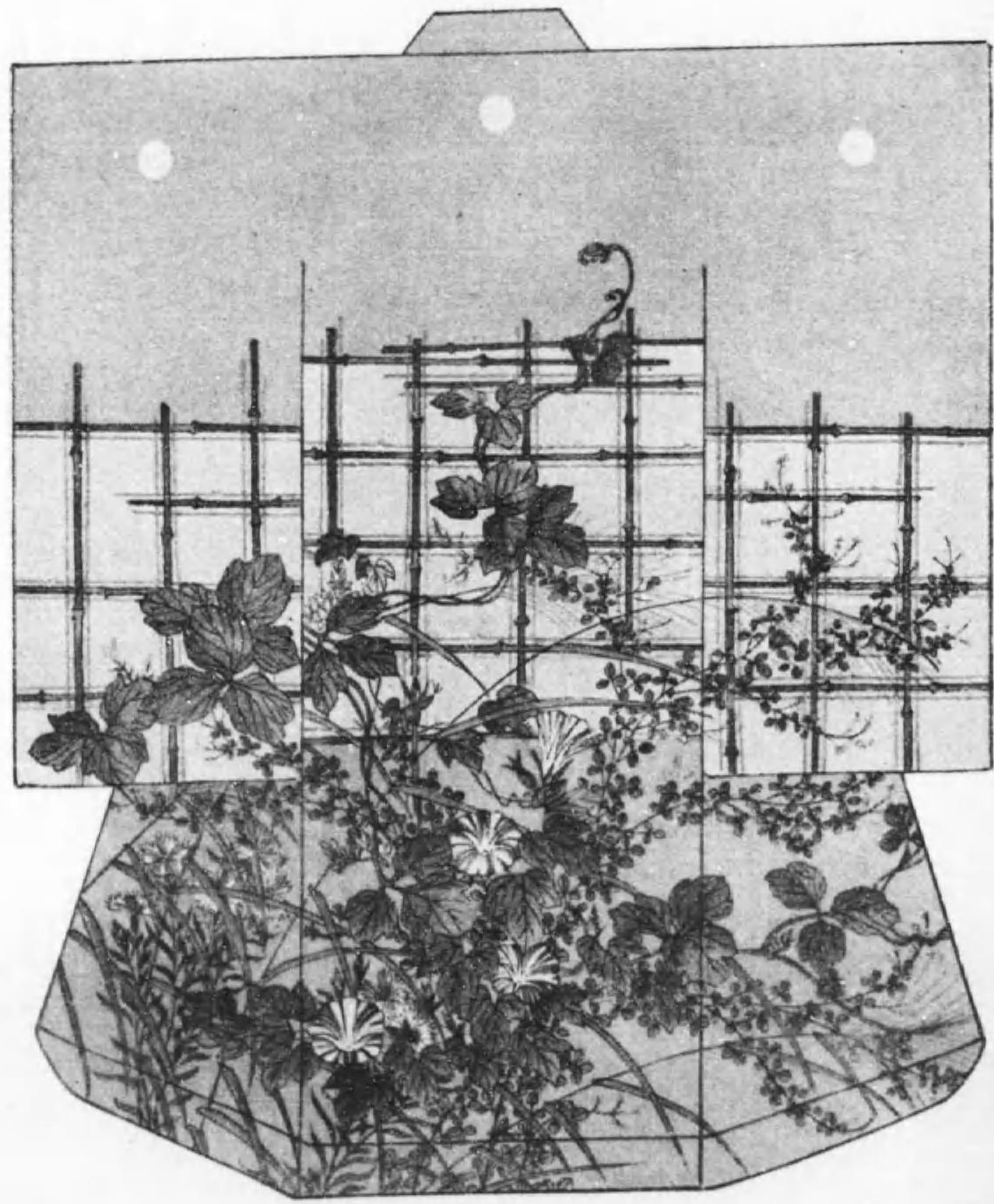


變り裾腰模様

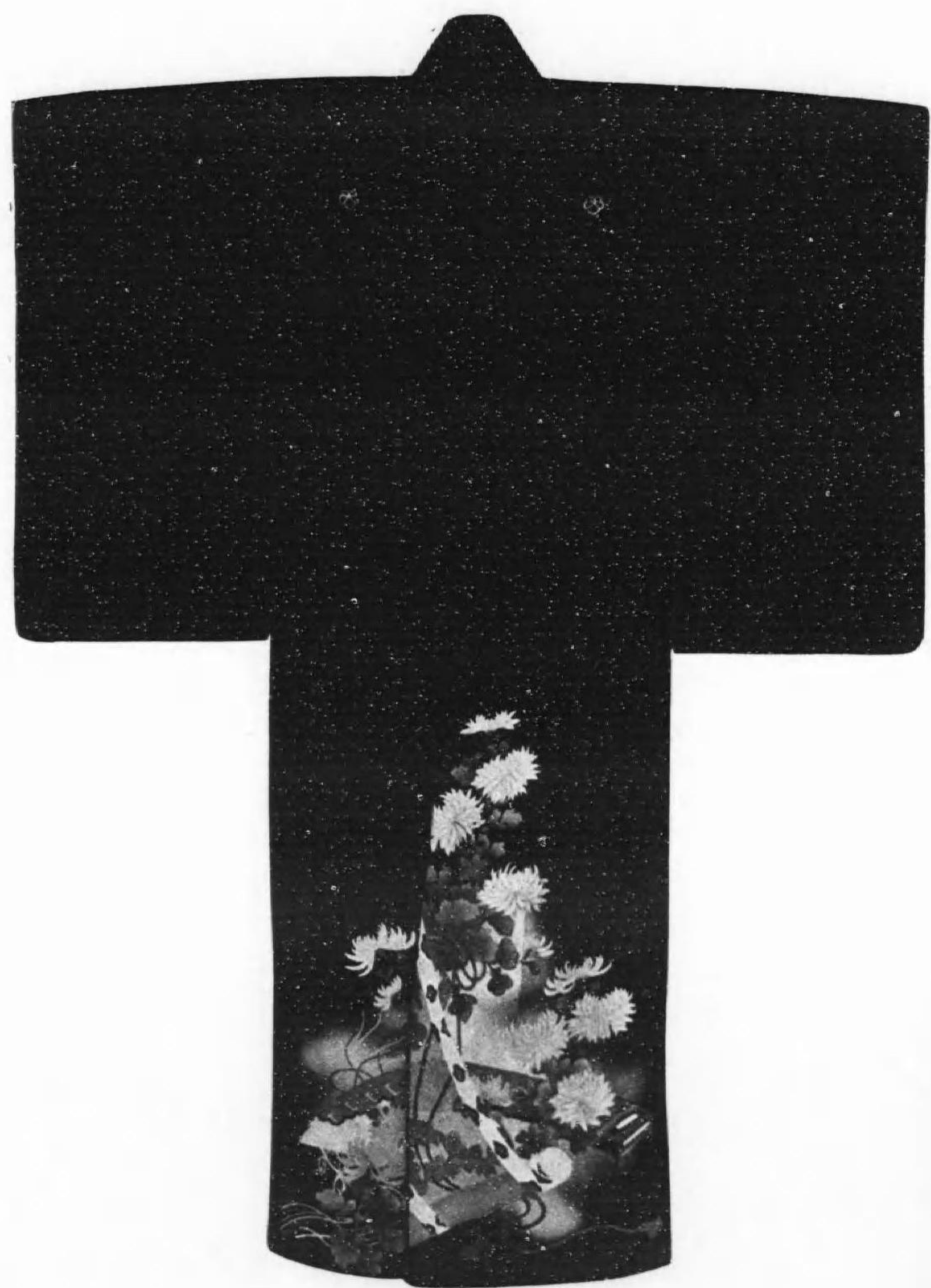


千代田模様





鬚目模様



江戸袷模様

(5) 片褙模様(下褙模様とも云ふ)

下前の衽のみに模様あるもの。

(6) 熨斗目模様

腰の部と袖下とに模様あるもの(模様は縞或は總模様の如き模様)

(7) 江戸褙模様

左右の衽より前身頃へ斜に模様あるもの。

(8) 後が、り江戸褙模様

左右の衽より前身及後身の一部に模様の掛りたるもの(振袖などは多く後か、りとす。

(ホ) つのかくし

婚禮に用ふるつのかくしは表を白練絹とし、裏は紅絹とす、表は

幅十五厘丈を八十厘として、圖の如く裏を二耗づゝふかしてく  
け、その幅を二つに折りて用ふ。

第三節 本裁男重ね

男物重ねは、普通仕立上げ寸法、裁方積り方、標附方  
縫ひ方等、大體上巻男服について記せしと同様な  
れば之を略す。

男重ね仕立方について特に注意すべきは、身丈及  
衿丈のそろひ具合にして、別記の下着寸法のつめ  
方表によるつめ方を標準とし、其の上着、下着、の地  
質によりよろしく斟酌して不揃ひならざる様注

つのかのく



意すべし。

重ね物地質大凡左の如し。

通常服			訪問服				種別		
名古屋大島	銘	米	結城	高貴お召	お召	高貴	大島	表地	上着
無地金巾	無地金巾	無地金巾	同	同	同	同	無地絹	裏地	地
上着に同じ	上着に同じ 或は紬等	上着に同じ 或は紬等	結城	高貴お召	お召 小紋羽二重	小紋羽二重	大島	表地	下着
同	同	上着に同じ	同	同	同	同	無地絹	裏地	地

附記 男子禮服

(イ) 男子禮服(冬期)

1 上着 黒羽二重無垢五つ紋。

2 下着 白羽二重無垢(或は上着表を黒羽二重とし下着を茶又は鼠色無垢とし上着裏を下着と同様となすことあり。

3 羽織 黒羽二重五つ紋、裏白綾、白羽二重等、紐白。

4 袴 仙臺平(正式は袴)

5 帯 博多角帯。

6 襦袢 白羽二重(半衿は下着白の時は白色、色がわりの時は黒、或は鼠色とす)

7 足袋 白。

(ロ) 男子禮服(夏期)

1 上着 黒紹或は麻の五つ紋。

2 下着 白紹、或は麻。

3 羽織 黒紹五つ紋、紐白。

4 袴 紹仙臺平。

5 帯 紹博多角帯。

6 襦袢 白麻。

7 半衿 白麻。

8 足袋 白。

(ハ) 男子凶禮の服裝

男子は凶禮の時も普通禮服に同じけれど、近親者は白の着物を着用す、夏は白麻、生麻、或は麻水淺黄色の五つ紋として着用す、羽織、袴、帯、襦袢、足袋等普通に同じ。

第四節 四つ身重ね

四つ身重ねは普通寸法、裁方積り方、標附方、縫ひ方等、上卷四つ身

着物について記せしところによりてなすべし、下着寸法つめ方は、つめ方寸法表によりて標付けすべし。

附記 七五三の祝着

七五三の祝として男児は三歳と五歳、女兒は三歳と七歳の祝儀あり、この時の着物は多く四つ身重ねを用ふ、最も七歳の着物は本裁にして縫ひ込み置く向きあれども、縫ひ込み多きため着苦しきを以て大四つ身裁として仕立置かば格好及經濟上都合好し、裁切寸法大凡左の如し。

袖丈七十纏乃至八十纏。

身丈一米二十纏位

五歳男児は袴着の祝なれば袴を着し、紋附羽織を着用す、此時長袖ならば着物羽織とも黒羽二重紋附熨斗目模様を正式とす、略

しては筒袖をも用ふ。

三歳は男女共普通四つ身裁とし、着用するに適當なる寸法によりて縫ふべし。

方裁衽別身つ四

(位寸一尺四丈二)纏三十米九さ長 幅並 (布用)



(用布一袖丈×4+衽F0)÷5=身丈  
(913.-65.×4+12.)÷5=133.

第五節 一つ身重ね

一つ身重ねは普通寸法、裁方積り方、標附方、縫ひ方等上卷一つ身

着物について記したるところによりてなすべし、下着は寸法つめ方表によりて標附けすべし。

附記 宮詣りに用ふる祝着

祝着は二枚或は三枚の重ねとし潤袖の仕立方とす。

地質 上着下着共に羽二重、紋羽二重、縮緬、錦紗縮緬、紋縮緬等を普通とす。上着下着を同種の地質によつて作る場合と別種の地質を用ふる場合とあり其時の都合によりいつれにても可し、男兒は羽二重を主とす。

染色 上着はエンジ、小豆色、青慈、時色、紫色等にして男兒は多く黒或は納戸を用ふ。

下着は上着と對布か、緋、時色等の縮緬、紋羽二重、或は八つ橋、紅絹などを用ふ、男兒は多くクリーム色の下着とす。

模様 模様は松竹梅、鶴龜、寶づくしなど總じて長壽を意味し或は芽出度きものなどを用ふるなり、模様は腰部以下と袖下及紐の先などに染め出しあり(此他はでやかなるものに友禪裾模様あり又略しては普通友禪を用ふ)男兒は熨斗目模様なり。紋所 紋は五つ紋、或は三つ紋とし、紋下りは左記の寸法とす。

袖、四纏五耗、脊四纏、前九纏。

裁方 一つ身別衽の裁方とすべし裁切寸法は大凡左の如し。

袖丈六十纏、身丈九十八纏、附紐半幅にて九十五纏。

縫ひ方 普通一つ身縫ひ方に準ず。

### 第三章 比翼

#### 第一節 女服比翼

##### 第一 女比翼裁方積り方

(るよに方裁し返引服女貞 は垢無着上) 方裁着下翼比垢無

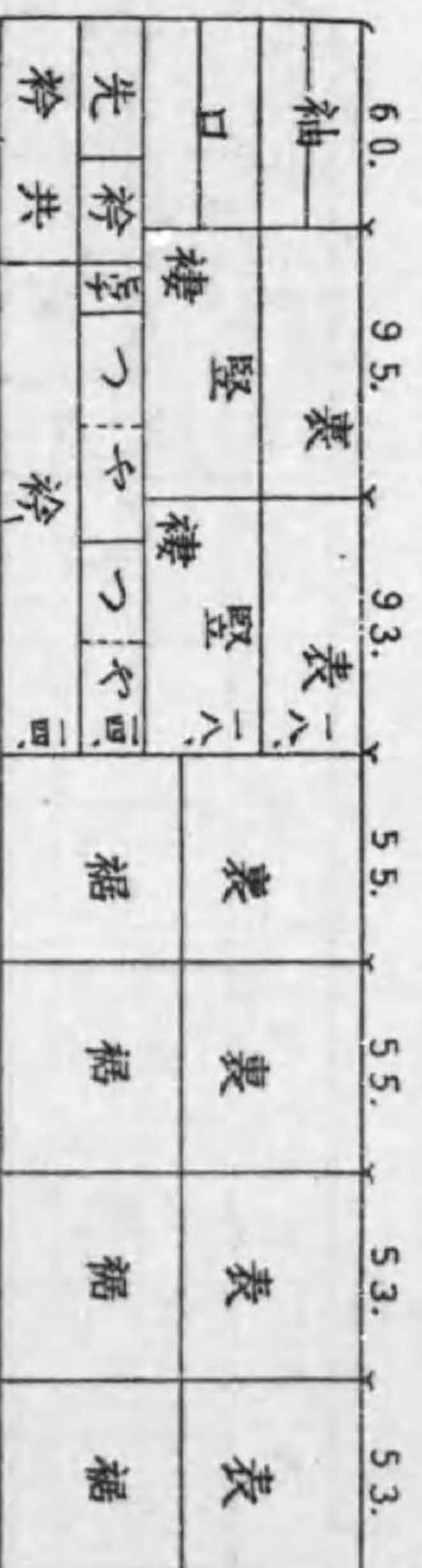
(分四寸五尺三丈二) 纏二十九米八 幅並 (布用)



(表裾 + 裏裾) × 4 + (表たてつま + 裏縦襷) × 2 + 衿先 + 袖口 = 用布  
 (53. + 55.) × 4 + ( 93. + 95. ) × 2 + 28. + 56. = 892.

##### 方裁着下翼比垢無てに(纏四十六)物幅大

(分五寸二尺二丈一) 纏四十六米四 (布用)

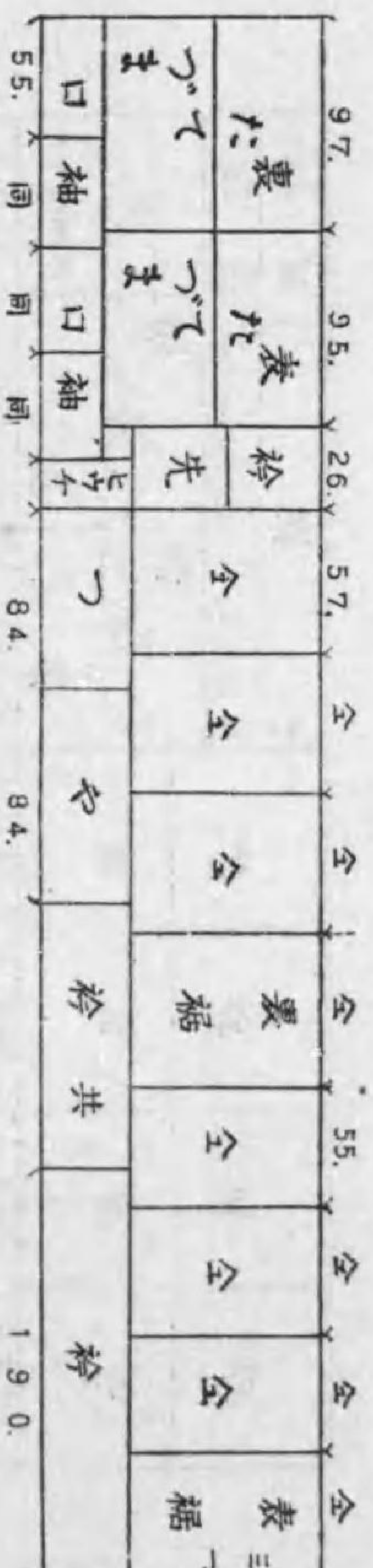


(表裾 + 裏裾) × 2 + 表たてつま + 裏たてつま + 袖口 = 用布  
 (53. + 55.) × 2 + 93. + 95. + 60. = 464.



方裁着下翼比垢無てに(幅糰五十四)物幅中

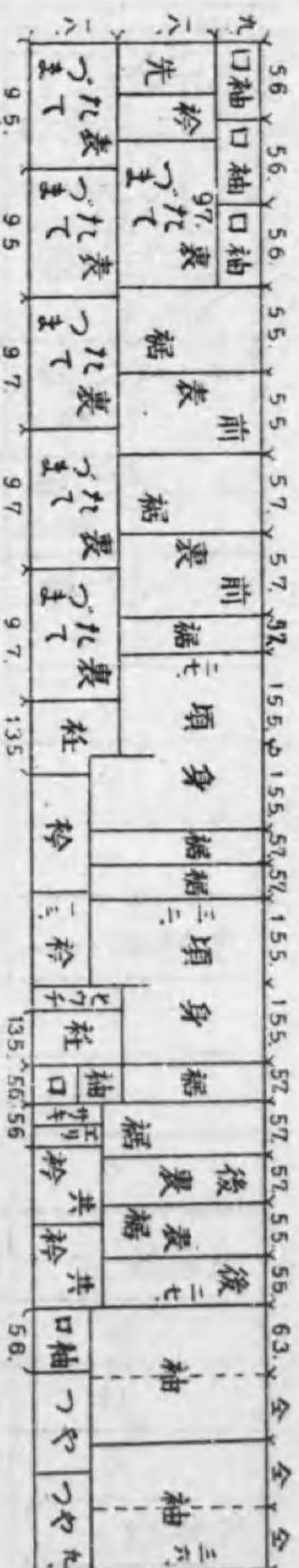
(寸六尺七丈一)糰十六米六 (布用)



(表裾 + 裏裾) × 4 + 表堅繰 + 裏堅繰 + 衿先 = 用布  
 (55. + 57.) × 4 + 95. + 97. + 26. = 666.

方裁の翼比垢無共てに(糰五十四)物幅中

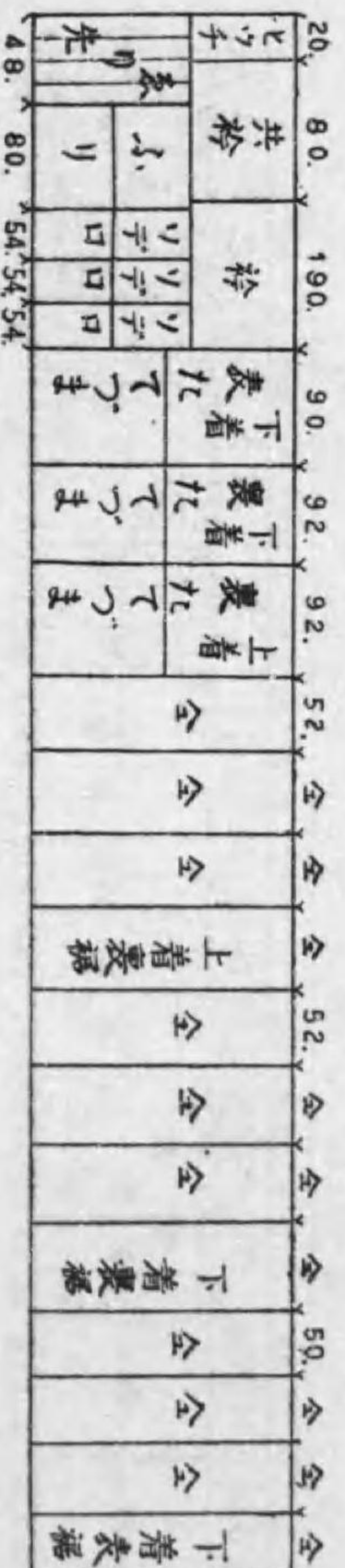
(寸三尺五丈四)糰六十米七十 (布用)



(袖丈 + 表裾 + 身丈) × 4 + 裏裾 × 8 + 袖口丈 × 3 = 用布  
 (63. + 55. + 155.) × 4 + 57. × 8 + 56. × 3 = 1716.

(てに布の反一)方裁の垢無り廻着下及し廻裾着上翼比服女

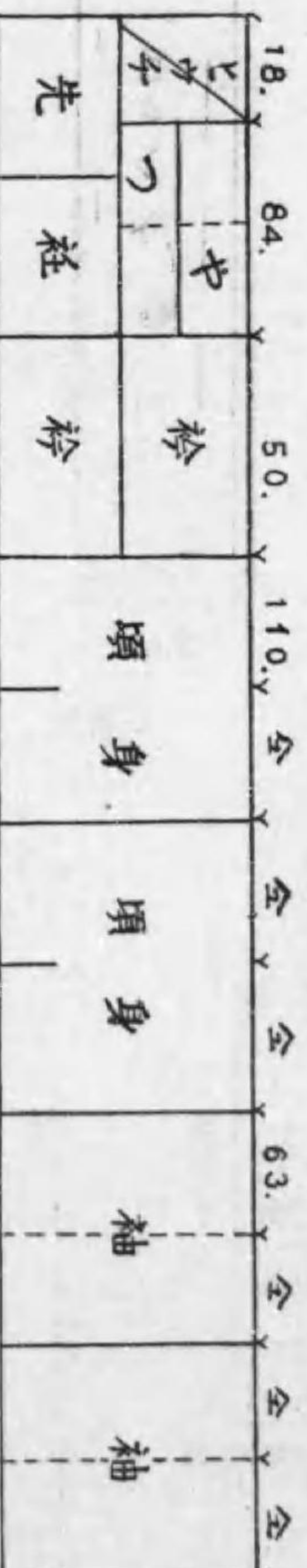
(位寸二尺一丈三)幅十八米一十 幅並 (布用)



{用布一(表 $\times$ 衿 + 裏 $\times$ 衿  $\times$  2 + 衿 + 共衿 + ひうち) - ふき  $\times$  8}  $\div$  12 = 表据丈  
 {1180. - ( 90. + 92.  $\times$  2 + 190. + 80. + 20. ) - 2  $\times$  8}  $\div$  12 = 50.

方裁の裏胴翼比服女

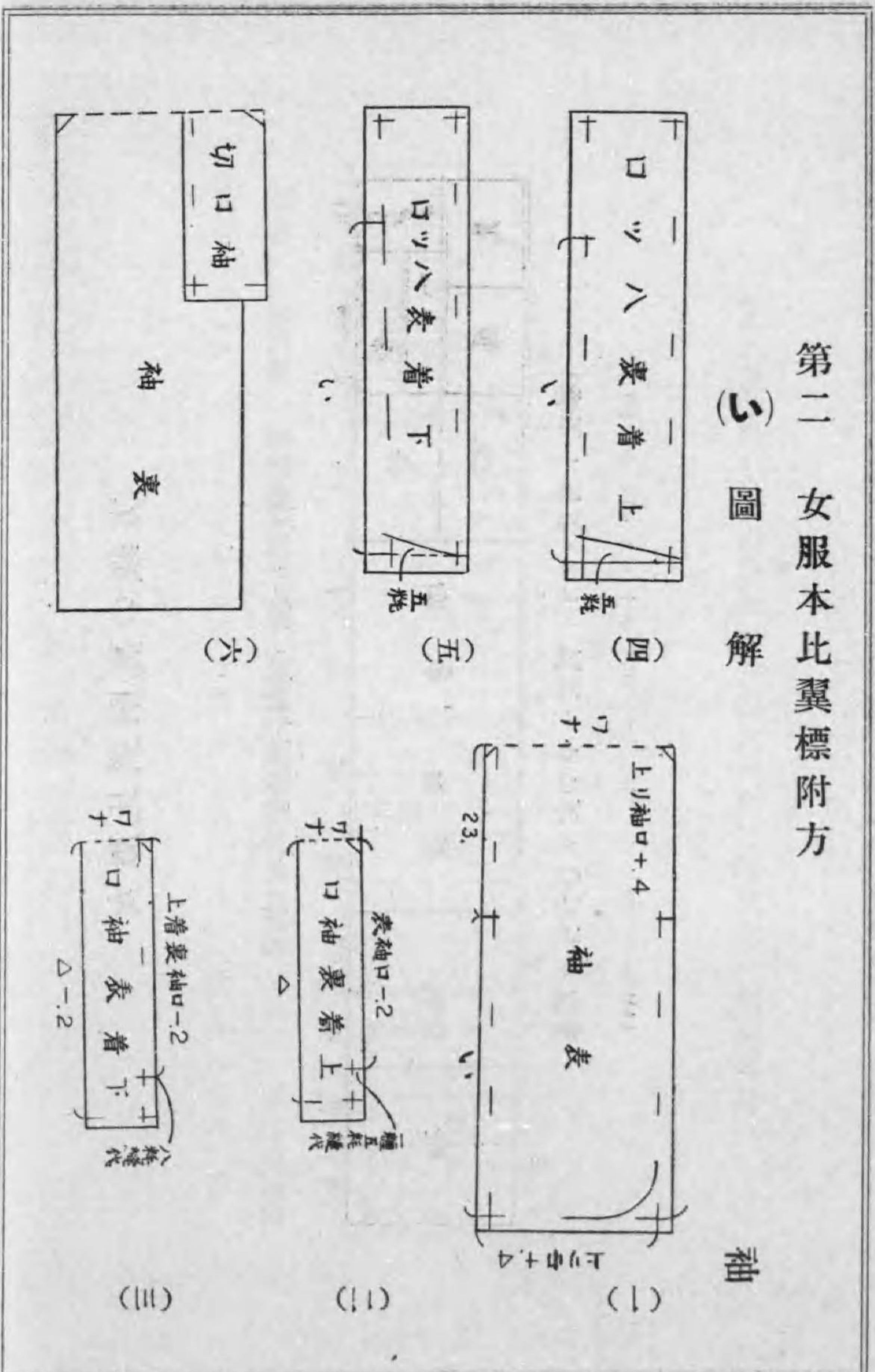
(位尺五丈二)幅四十四米九 (布用)



(袖丈 + 身丈)  $\times$  4 + 衿丈 + やつ丈 + ひうち = 用布  
 ( 63. + 110. )  $\times$  4 + 150. + 84. + 18. = 644.

第二 女服本比翼標附方

(二) 圖 解

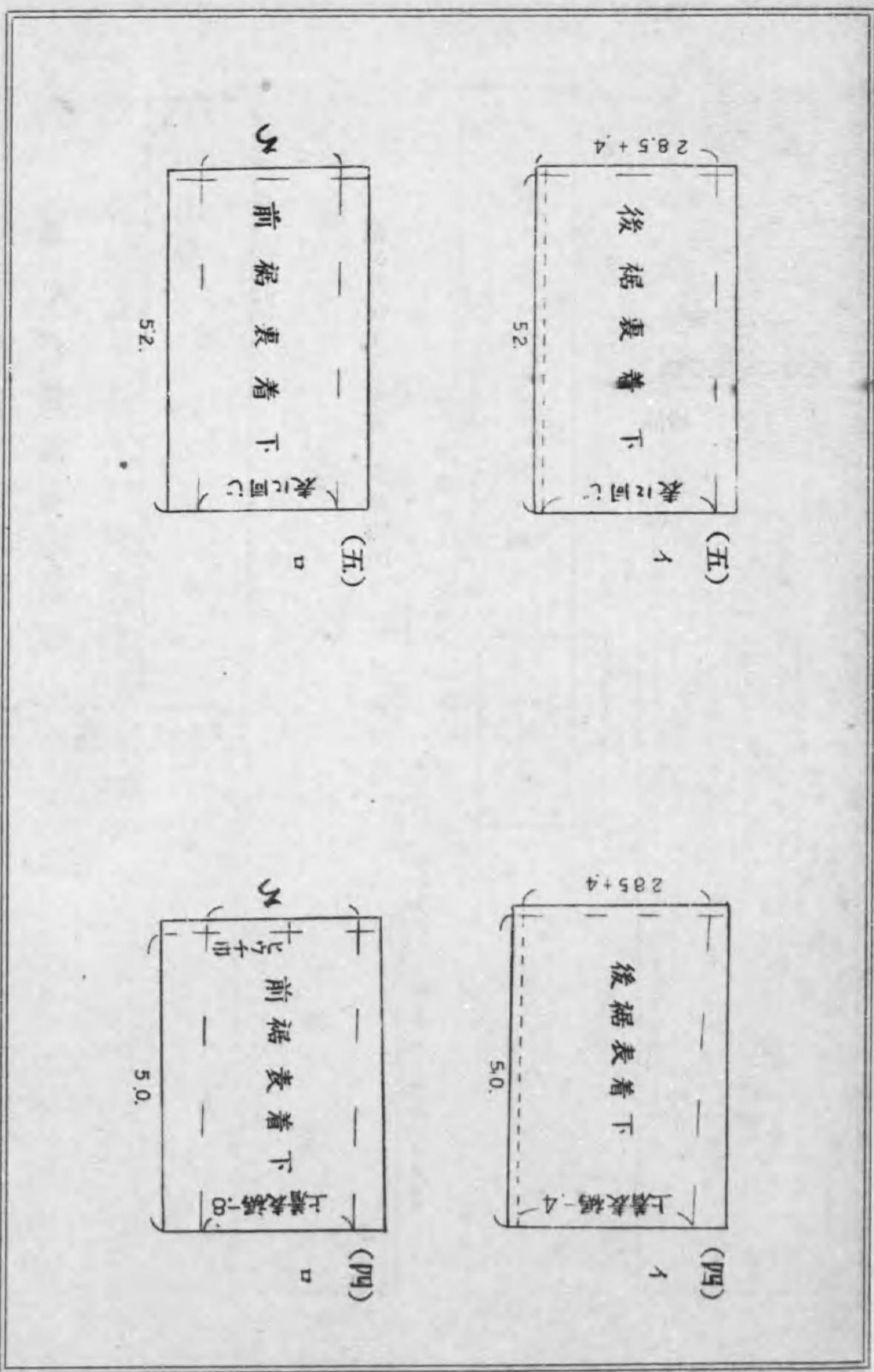
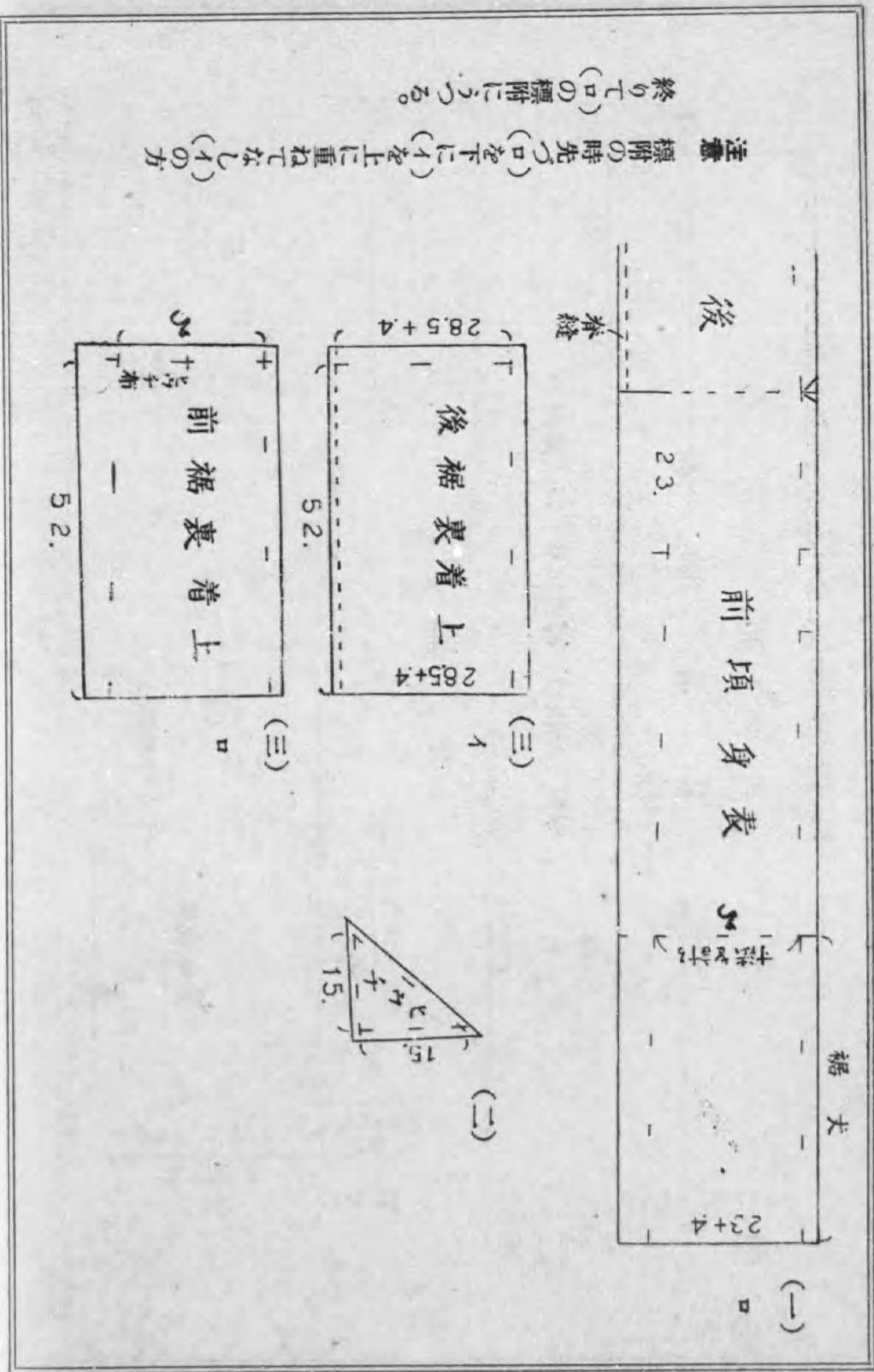


頭身

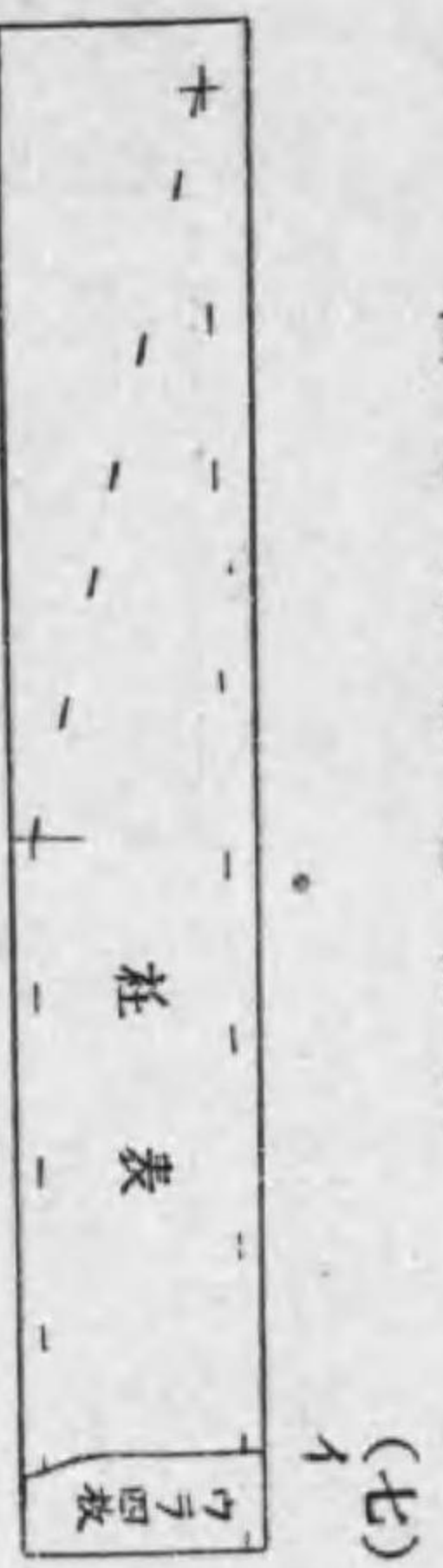
(一)

す附標てに、まの切裁は口標もと布各





八枚重ねるたねの図



(七)

上着表二枚をたさるの図



(七)

分キは寸ハ開大ニ着下着表ニ着上



(六)



(六)

注意  
社標附方は普通  
女物に同じ。

袖

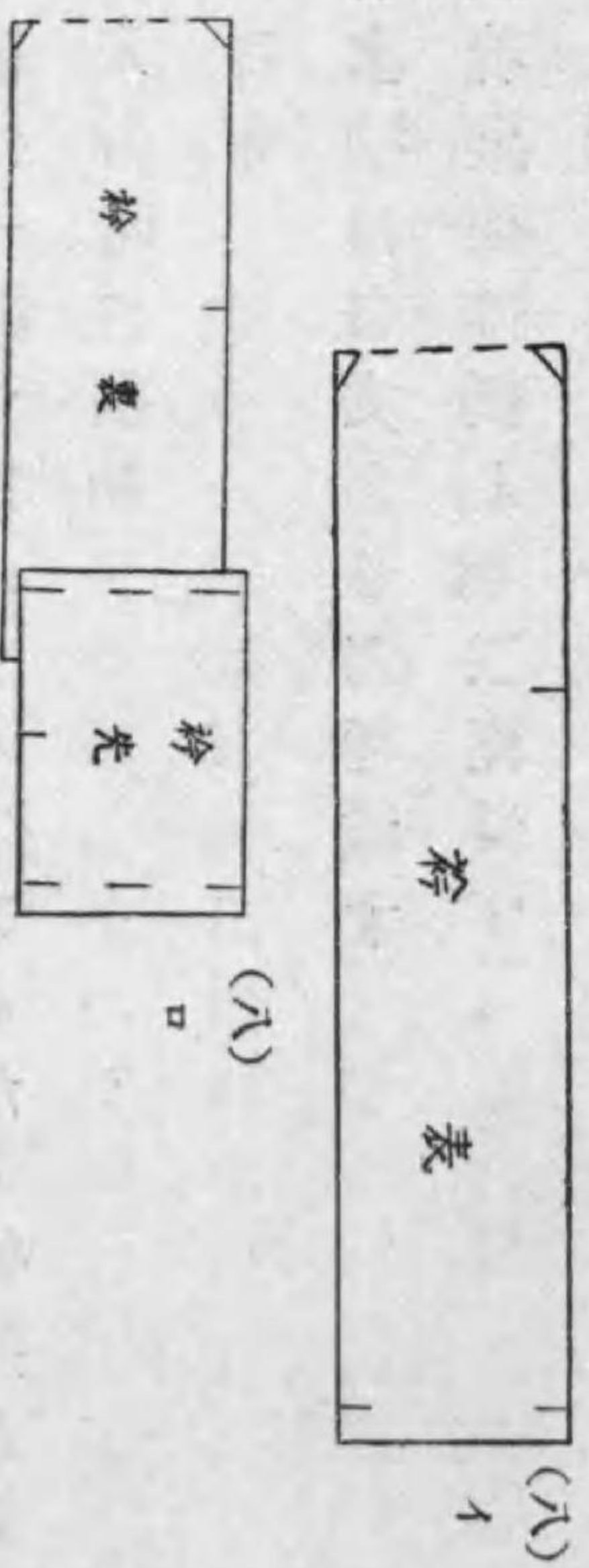
一、上着表袖

(1) 山標

(2) 袖丈(上り袖丈に四耗加ふ)

(3) 袖口(上り袖口に四耗加ふ)

(3) 説明



(八)

- (4) 袖附(上り袖附)
  - (5) 袖幅(上り袖幅に四耗加ふ)
  - (6) 袂丸み
- 二、上着裏袖口布
- (1) 丈(一ばい)
  - (2) 袖口(上着表袖口標より二耗減ず)
  - (3) 袖口下縫代一纏五耗(ふきの分あるため普通より多くす)但し綿入の時に限る。
- 三、下着表袖口布
- (1) 丈(上着裏袖口布丈より二耗減ず)
  - (2) 袖口(上着裏袖口標より二耗減ず)
  - (3) 袖口下縫代八耗

- 四、上着裏やつ布
- (1) 丈及幅を一ばいに標附す。
  - (2) 表袖にてふり丈を計り袖附の標をなす。
  - (3) 袖下にてふり丈を五耗減じ斜に標附す。
- 五、下着表やつ布は上着裏やつ布とすべて同じ。
- 六、裏袖に袖口布を一纏出してかさね袖口布の丈及幅を標附す。
- 七、袖口布をのぞきて裏袖の標。
- (1) 山標
  - (2) 袖丈(上着表袖丈と同寸)
  - (3) 袖口(三に於ける下着表袖口と同寸)
  - (4) 袖附(表袖附と同寸)

- (5) 袖幅(表幅より三耗減ず)
- (6) やつ布のところに標を附し、ふり丈を一纏つめて斜に標附す。
- (7) 袂丸み  
身頃
- 一、イ、上着表後身(前身を下に後身を上にして重ね裾口をそろへ裁ち切り置く)
- (1) 山標
- (2) 袖附及身八つ口
- (3) 後幅(上り幅に四耗加ふ)
- (4) 肩幅(上り幅に二耗加ふ)
- (5) 肩と下身八つ口の間を斜に標附す。

- 一、ロ、上着表前身頃
- (1) 後身頃にて附けし標をうつす。
- (2) 衽下り
- (3) 前幅(上り幅に四耗加ふ)
- (4) だき幅(下身八つ口のところにて衿肩明より七耗出して標附す)
- (5) 衽附の標(だき幅と前幅を結びて標附し上部は衿肩裁切とだき幅を結びけん先のところへ標附す)
- (6) 衽丈を計り裾丈だけ上りしところにて前幅を計り置く  
(これをろ印とす)
- 二、ひうち ひうち布の丈幅を附け斜に標附す。
- 三、イ、上着裏裾後(前裾を下に重ねて標附す)

- (1) 裾丈(表裾丈を凡そ定め置き、それより出衤の二倍長くす)
- (2) 後幅(上着表と同じく上り後幅に四耗加ふ)
- 三、ロ、上着裏裾前(後をのぞきて)
- (1) 後にて付けし標をうつし、
- (2) 前幅(上着表と同じく上り前幅に四耗加ふ)
- (3) 裾上部の幅標(身頃にて計りし<sup>ろ</sup>の幅を付け前幅と結び衤附の標をす)
- (4) ひうち幅標(上部衤附の方よりひうち幅を附く)
- 四、イ、下着表裾後(前裾を下に重ねて標附す)
- (1) 裾丈(裏裾丈より出衤の二倍短く)
- (2) 後幅(上部は上着と同じくし裾口にて四耗減ず)
- 四、ロ、下着表裾前(後をのぞきて)

- (1) 後にて付けし標をうつし、
- (2) 前幅(上着の標幅より八耗減ず)
- (3) 裾上部の幅<sup>ろ</sup>の幅を附し前幅と結びて標附す)
- (4) ひうち幅標を附く。
- 五、イ、下着裏裾後(前裾を下に重ねて標附す)
- (1) 裾丈(上着裏裾丈と同寸とす)
- (2) 後幅(下着表に同じ)
- 五、ロ、下着裏裾前(後をのぞきて)
- (1) 後にて付けし標をうつし、
- (2) 前幅(下着表に同じ)
- (3) 裾上部幅<sup>ろ</sup>の幅を附し前幅と結びて標附す)
- 六、イ、胴裏後



- (1) 山標
  - (2) 丈(上着表丈より下着裾丈を引き胴はぎのきせ分三耗を加ふ)
  - (3) 袖附及身八つ口
  - (4) 後幅(上り幅に四耗加ふ)
  - (5) 肩幅(表に同じ)
  - (6) 肩と下身八つ口の間を斜に標附す。
- 六、口、胴裏前
- (1) 後に付けし標をうつつす。
  - (2) 衤下り
  - (3) 前幅にてろの幅標をなし表と同じく標附す。
- 七、イ、衤

- 裏裾四枚を重ね置き上部に衤先二枚を縫代丈け重ねて置き、其上に下着表二枚を置く(出衤の二倍裏を出す)其上に上着表衤二枚を重ね普通衤の標附方に準じて標附す。
- 七、口、上着表衤二枚をのぞきて標附す。
- すべての標をうつつし胴はぎの標を付け衤附の方にて裾より表裾丈とひうち丈とを加へたる寸法のところ標を付け置く。
- 八、イ、衤
- 裏衤二枚置き縫代丈け重ねて衤先を二枚置き其上に表衤二枚を重ねて普通の通り衤標を附す。
- 八、口、表衤をのぞきて標附す。
- 表にて付けし標をうつつし衤先のはぎ標をなす。

注意 下着の衿丈は地質によりて二耗より四耗位までつめることあり。

第三 女綿入比翼縫ひ方順序

袖

- 一、表袖は普通綿入の如く縫ひ、
- 二、裏袖に口切を付け普通の如く縫ひ、
- 三、上着裏袖口及び下着表袖口の口明下を縫ひ、縫目を割り下着裏袖口及上着裏袖口に綿を含め下着の袖口を衞け、其上に上着裏袖口を載せ、袖口切奥の山にて上着袖口の方を四耗程襷を取り、袖口切の奥を縫合せ之を裏に綴ち付け、(裏袖に出ぬ様)
- 四、八つ口切の袖下を表裏共縫ひ、

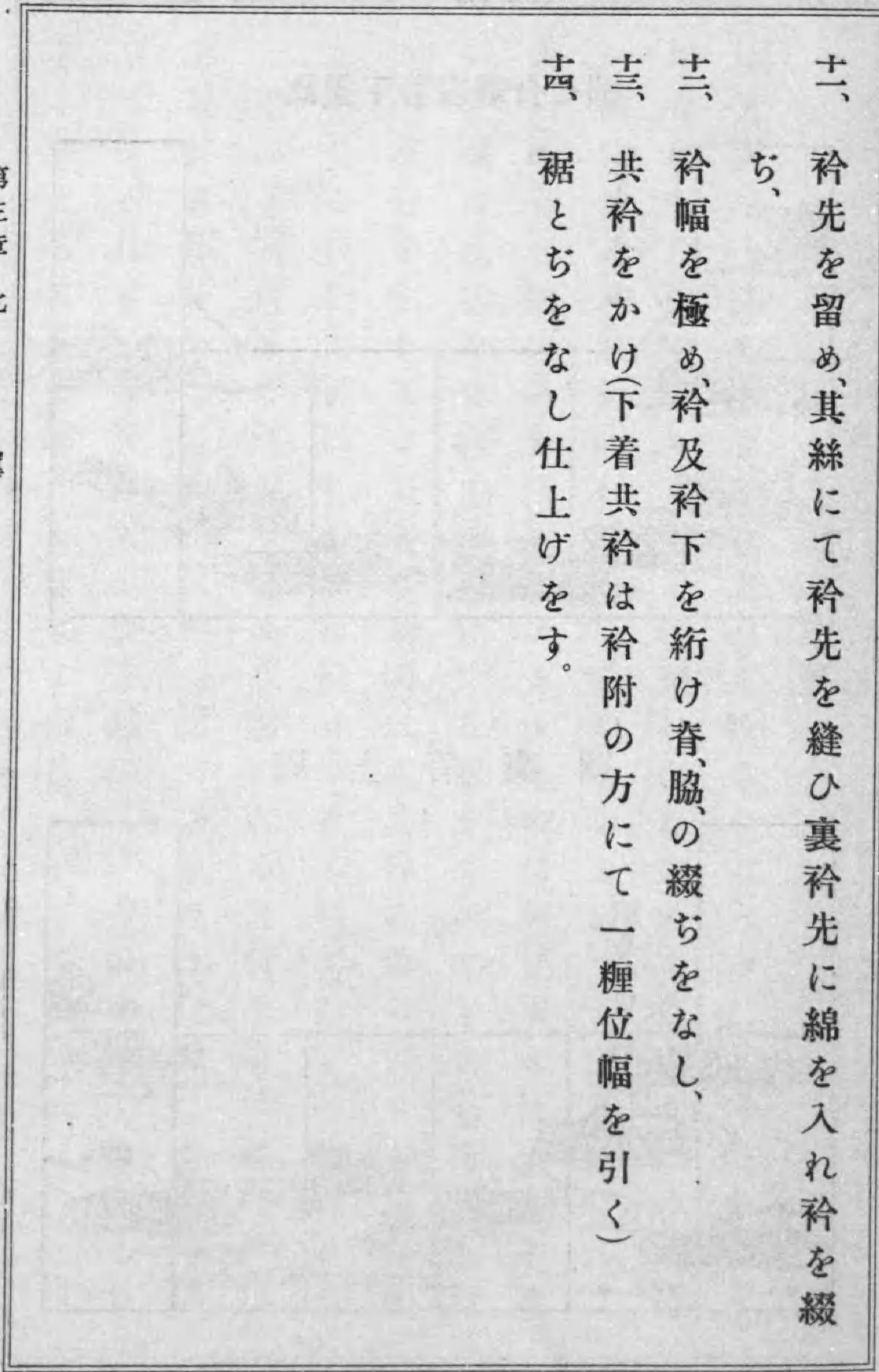
- 五、上着下着のふりを縫ひ合せ綿を含めて、襷をかけ八つ口切の奥を縫ひ、裏袖に綴ち付ける。

身頃

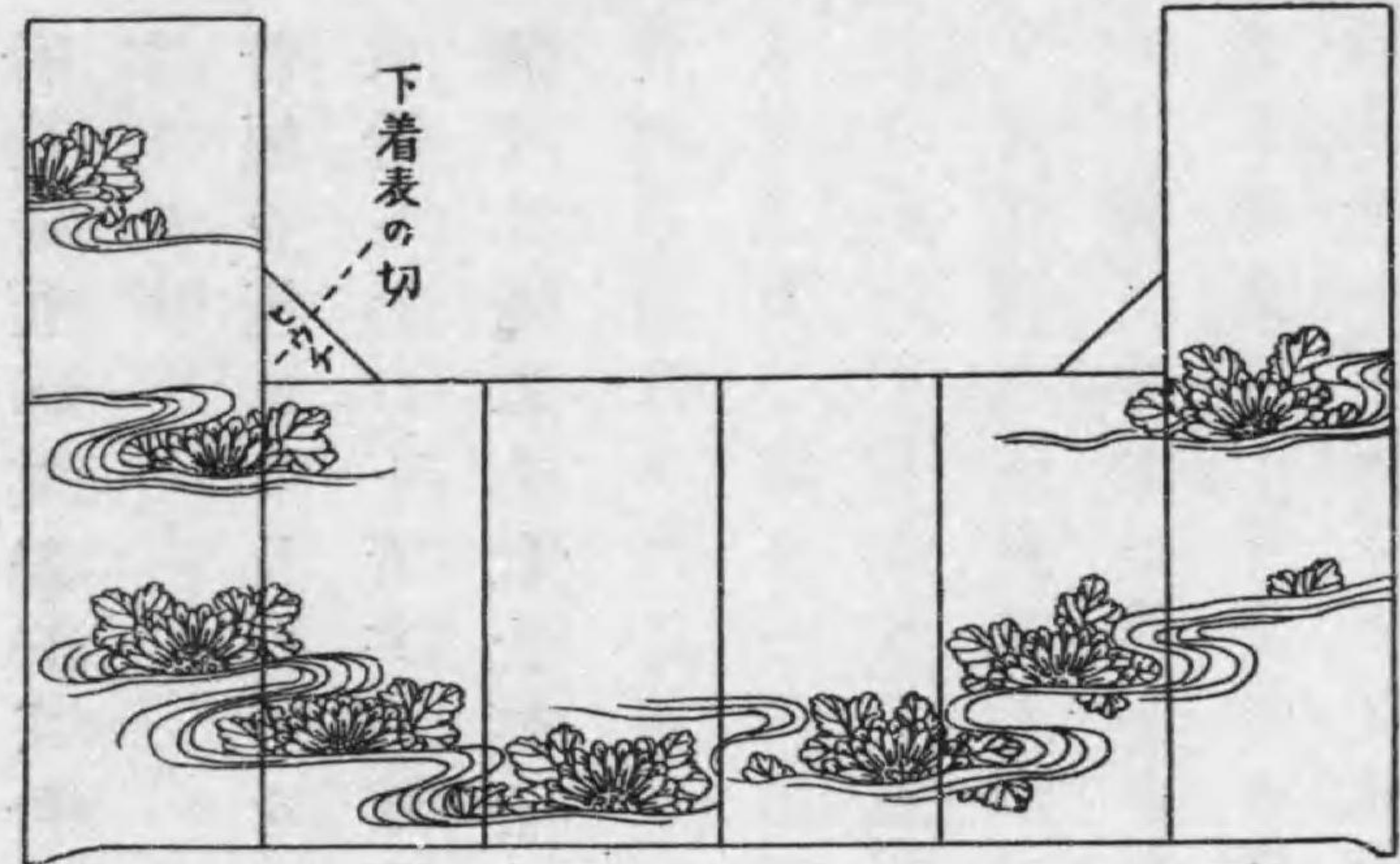
- 一、表は普通綿入の如く脊、脇、衿、附まで縫ひ、
- 二、上着裾廻、及び下着表裏裾の脊脇衿を縫合せ、下着表及上着裏の前裾の上に圖の如く、ひうち切を付け、上着裏の折はひうちの方へ返し、下着表の折は裾の方へ返し、上下襷をかけ、上着下着の裾を合せ、綿を入れふきを定めて襷をかけ下着の脊、脇、衿をとち、
- 三、
- 四、胴裏の脊縫及び脇縫をなし、
- 五、上着下着の裾を揃へ上着裏裾下着表裾及下着裏裾の三枚の丈をそろへて胴裏と合せ四つ縫になし、折は胴裏の方へ

- 返し、かくし、麩をかけ、裏堅褌に衽先を縫ひ付け、裏衽を付け、次に胴裏に下着裏衽を付け、ひうちの両端を止め、斜のところを縫ひ、堅褌の奥をも縫ひ、其の縫目は裏衽に綴ち付け、ひうちの斜を胴裏にとち、
- 六、上着裏衽、下着表衽を堅褌布のある所まで別々に付け、それより上は二枚を一緒に縫ひ、合せ衽肩の處に切込を入れ、裏衽附の縫目に綴ち付け、
- 七、身八つ口を縫ひ、綿をふくめ、袖附留をなし、其絲にて袖を付け、裏袖及び八つ口に麩をかけ、綿は普通綿入の如く入れる。
- 八、表にかへし、裾にかりこちをなし、
- 九、袖口を紵け、
- 十、衽を綴ち、褌先を縫ひ、衽下を麩にて抑へ置き、

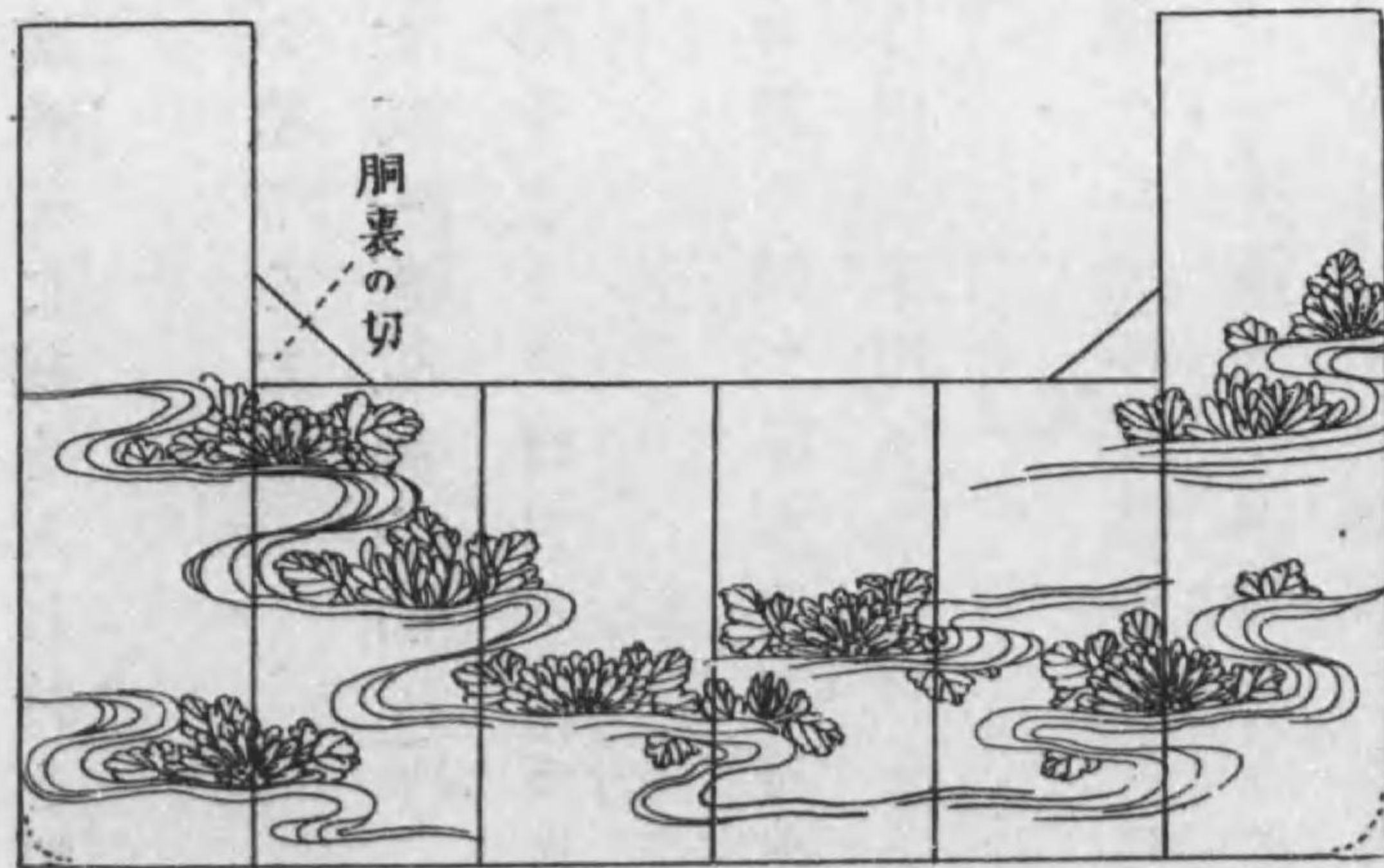
- 十一、衽先を留め、其絲にて衽先を縫ひ、裏衽先に綿を入れ、衽を綴ち、
- 十二、衽幅を極め、衽及衽下を紵け、脊脇の綴ちをなし、
- 十三、共衽をかけ、(下着共衽は衽附の方にて一糎位幅を引く)
- 十四、裾とちをなし、仕上げをす。



比翼下着表縫合せ圖



同上着裏圖



第二節 女服附比翼

本比翼は上述の如く二枚重ねて仕立つるものにして、いかなる場合にも二枚のまゝならでは用ひられざる不便あり、この不便を補ふため外見を同じくしてしかも取りはづし自在に、時に上着のみを一枚着として着用さるゝものに附比翼の仕立方あり。附比翼は上着を普通小袖に仕立て置き、これに下着袖口、及八つ口の部分を作りてごち付け、身頃は裾及衿の部のつゞきたるまま作りこれを上着にごち付け仕立つるものにして、一枚着として用ふる場合はこれ等の後より附けたる下着を取りはづせば容易に着用することを得、又再び綴ち附くれば比翼として用ひらる、故に仕立つる時は此の便を思ひて下着のすべてをまとめて置き、後、上着に綴ち附くる様なすべし。

裁方積り方及標附方は總べて本比翼に準じてなすべし。

附比翼縫ひ方(口綿入)

上着

先づ小袖一枚を仕立て置く。

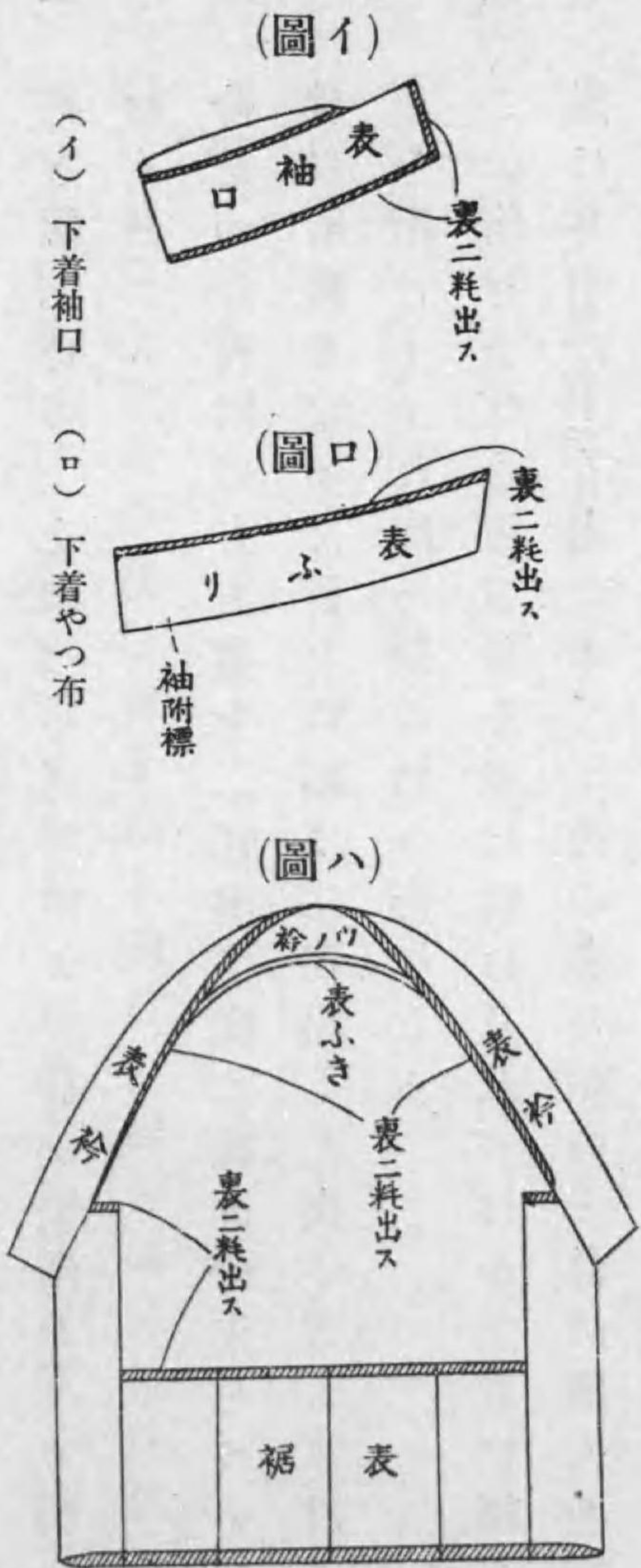
下着

袖

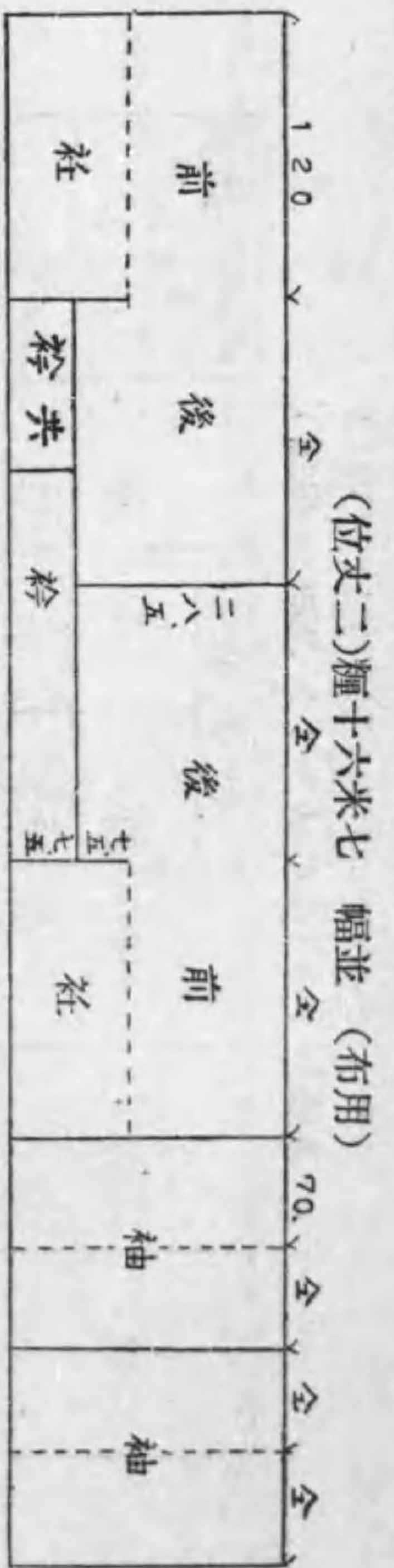
- 一、袖は袖口下を縫ひ、縫ひ目を割り袖口に綿をふくめ、袖口を  
 紵け、その廻り(は)イ圖の如く裏を二耗出して紵け置く(裏の  
 方にて上着袖口布と同じ幅、丈こなす)
- 二、八つは下を縫ひふりを縫ひ合せて綿をふくめ、躰にておさ  
 へ幅を極め(口圖の如く裏の方を二耗出して紵け置く。

身頃

- 一、身頃は表、裏の脊、脇、衽を縫ひ、裾を合せ、裾綿を入れふきを定  
 めてかりとちをなし、脊、脇を綴ち、表裾丈を定めて折り(上着  
 胴裏の折山と表裾丈とつき合せになる様定む)裏はそれよ  
 りも二耗出して紵け、
- 二、衽を綴ち衽の上を幅標の通り中より縫ひ、豎襖をくけ、圖の  
 如くおさめ、
- 三、衽をつけ(衽附の方も裏を二耗出す様に縫ふ)衽先をこめて  
 縫ひ、衽幅を定めて折り(衽幅は二耗出した裏の方より計る)  
 裏を紵け上げれば(ハ)圖の如き形となる、
- 四、この紵け上げたる下着を袖は袖口及八つ口を上着に綴ち  
 付け身頃は上着裏にあて、衽の奥及裾の上部の廻りを紵  
 けつけ仕上げこなす。

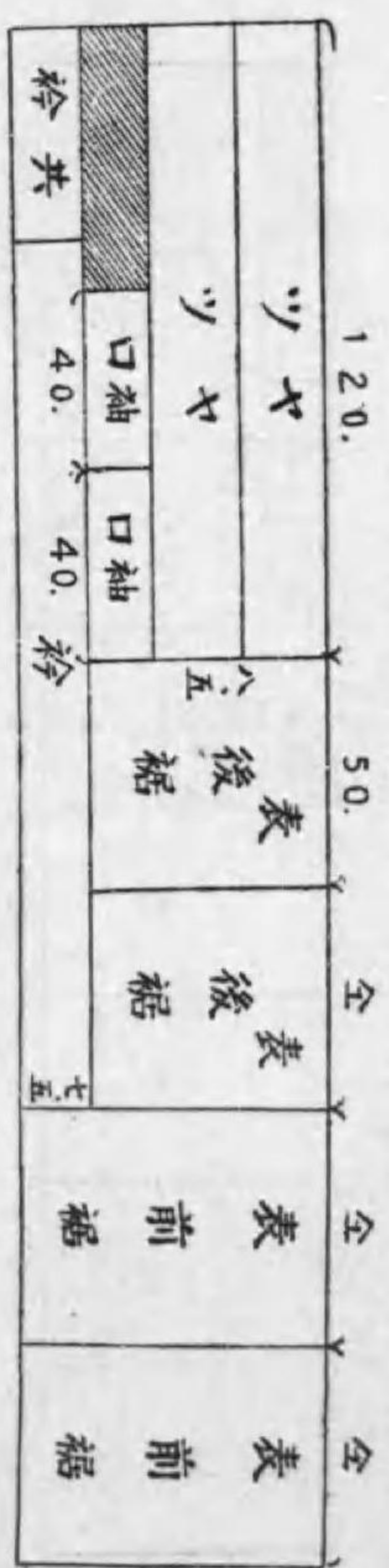


第三節 四つ身比翼  
第一 四つ身比翼裁方積り方

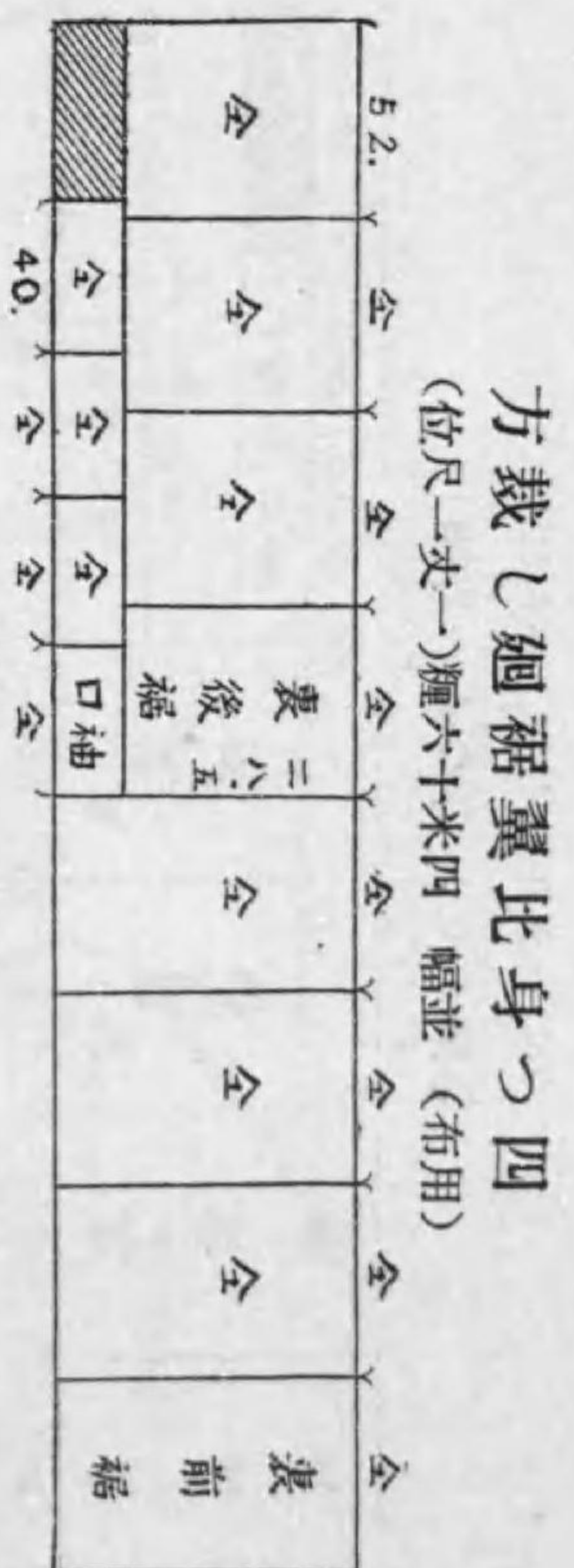


(位丈二) 幅七 幅並 (布用)  
(用布一袖丈×4) ÷ 4 = 身丈  
(460. - 70. × 4) ÷ 4 = 120.

方裁表着下翼比身つ四  
(寸四尺八) 幅十二米三 幅並 (布用)



(用布一やつ丈) ÷ 4 = 裾丈  
(320. - 120.) ÷ 4 = 50.



用布 ÷ 8 = 裾丈  
416 ÷ 8 = 52.

方裁裏胴翼比身つ四

(尺九丈一) 幅十二米七 幅並 (布用)



(用布—袖丈×4—やつ丈)÷4=胴丈  
(720—70×4—120)÷4=80.

第二 四つ身比翼標附方

四つ身比翼標附方は本裁比翼に準じてなすべし但し四つ身はひうち布を用ひず。

第三 四つ身袷比翼縫ひ方順序

袖

- 一、裏袖に口切をかけ上着下着の袖口を合せ袖口止めをなし袖口下を口切の終りまで四つ縫ひになし、上着下着の袖を重ねて口切より下袖幅の中央まで四つ縫ひにし、それよりふりの方は表裏別々に縫ひ、
- 二、上着袖口、下着表袖口の奥を縫ひ合せて裏袖口をかけたる縫目にごち附け、
- 三、やつ口の下を縫ひ、下着のふりを縫ひ合せ、裾をかけ、其上に

二 上着裏八つ口布をかさねて奥を縫ひ、裏袖にとち付け上着の八つ口を縫ひ合せ表にかへして躰をかけ(ふりは上着下着を合せ置き後、奥を縫ひて裏に綴ち附くるもよし)

身頃

一、上着表の脊、脇、衽を縫ひ、上着裏裾、下着表裾、及下着裏裾の脊、脇、衽を縫ひ、

二、上着、下着の裾を合せふきを極めてかりとちし上着下着の脊、脇、衽を綴ち、

三、胴裏の脊、脇、衽を縫ひ、

四、裾をそろへて躰にておさへ裾布三枚と胴裏とを四つ縫ひにして胴はぎし(衽附のところまで)かくし躰をかけ、

五、脊、脇の上部を綴ち身八つ口を止め身八つ口を縫ひ袖を附

け(八つ布の上は裏袖附にとち置く)

六、衽の上部を綴ち袷先を縫ひ堅袷を拵け、

七、上着下着の衽を付け衽幅を極めて衽を調へ共衽をかけ(下着共衽のある場合は衽附の方にて一纏位、幅をひかへてかける)

八、上着裏衽、下着表衽の奥を綴ち拵けにす(裾布のある所まで分れそれより上を綴ち合す)

九、裾綴ちをなし仕上げをす。



第四章 襦袢(打掛)

第一 襦袢普通仕立上げ寸法

袖丈	一米十糎	衿肩明	十一糎
袖口	二十五糎	身八つ口	十七糎
袖幅	上下三十三糎 下三十二糎	衿下り	二十五糎
袖附	二十三糎	衿幅	十七糎
袂丸み	十三糎	相袂幅	十五糎
身丈	一米七十糎	衿下	一米
後幅	三十糎	衿幅	十二糎
前幅	二十五糎	肩	六十二糎五糎
ふき	二糎乃至四糎	衿	

備考

袖丈大振一米二十五糎、普通一米十糎、中振一米位とし袖幅は袖下にて一糎廣くし袖附よりふりの間にて自然に出すこと。

地質

表地 鹽瀨、羽二重、緞子、縞珍、縮緬等に總模様、或は刺繡の入り

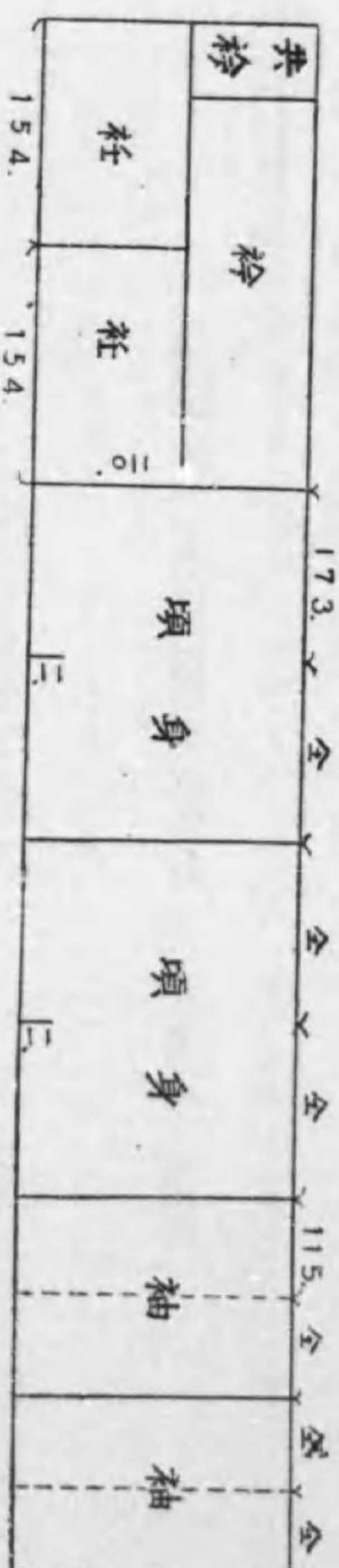
しもの。

裏地 緋鹽瀨、緋羽二重、紅絹等の通し裏とす其地白重ねの上  
に着用するものは同じく白地にして地質は前に同じ。

第二 襦袢の裁方積り方

方裁表襦袢

(位寸五尺八寸三) 幅十六米四十三長 幅並 (布用)

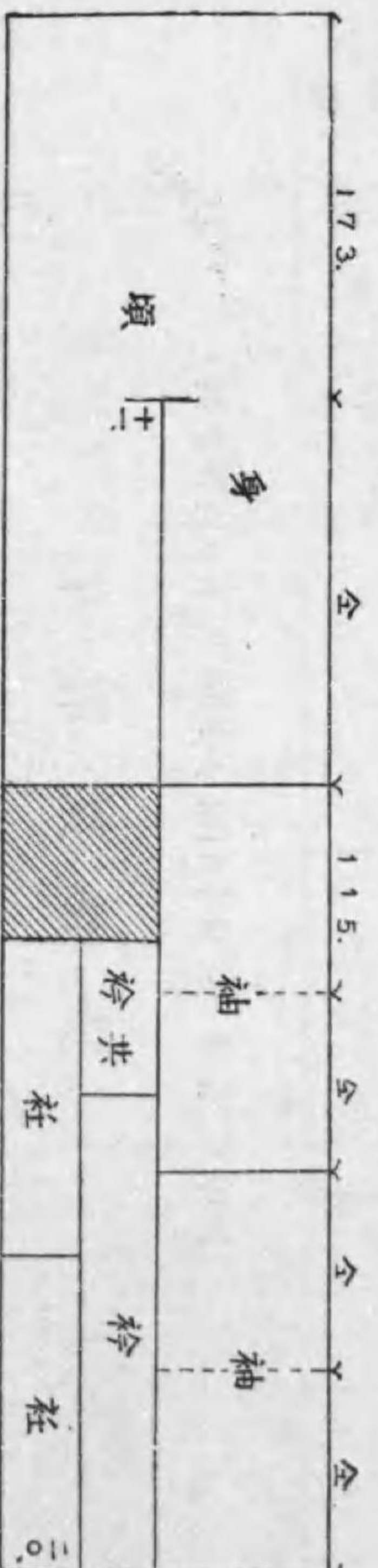


(用布一袖丈×4+衿F0)×2)÷6=身丈

(1460-115×4+19×2)÷6=173.

方 裁 襦 袢 襦

(位寸三尺一丈二) 幅六〇米八さ長 物幅廣 (布用)

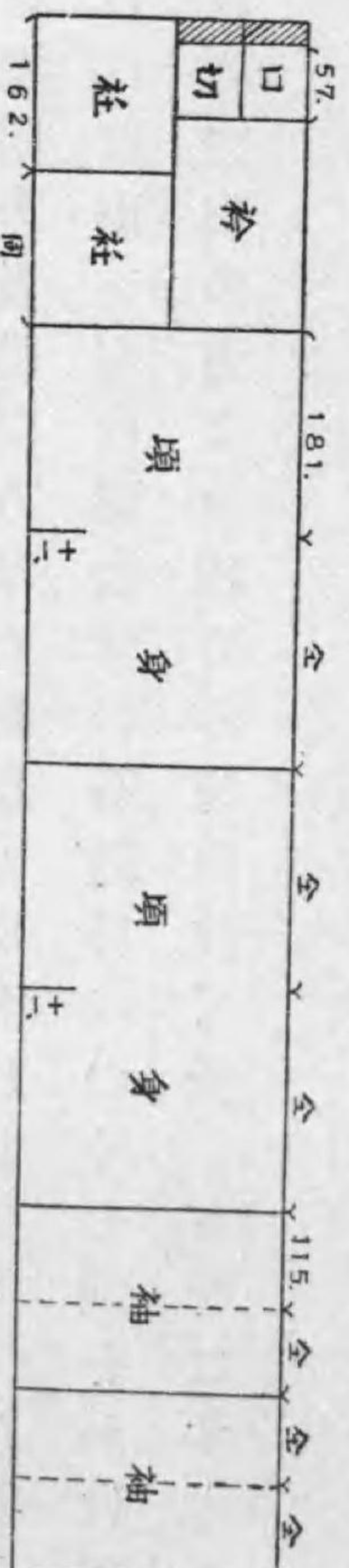


(用布一袖丈  $\times 4$ )  $\div 2 =$  身丈

(806. - 115.  $\times 4$ )  $\div 2 = 173.$

方 裁 裏 襦 袢 襦

(位寸八尺九丈三) 幅八米五さ長 幅並 (布用)



(用布一袖丈  $\times 4$  + 衿下巾  $\times 2$ )  $\div 6 =$  身丈

(1508. - 115.  $\times 4$  + 19.  $\times 2$ )  $\div 6 = 181.$

備考

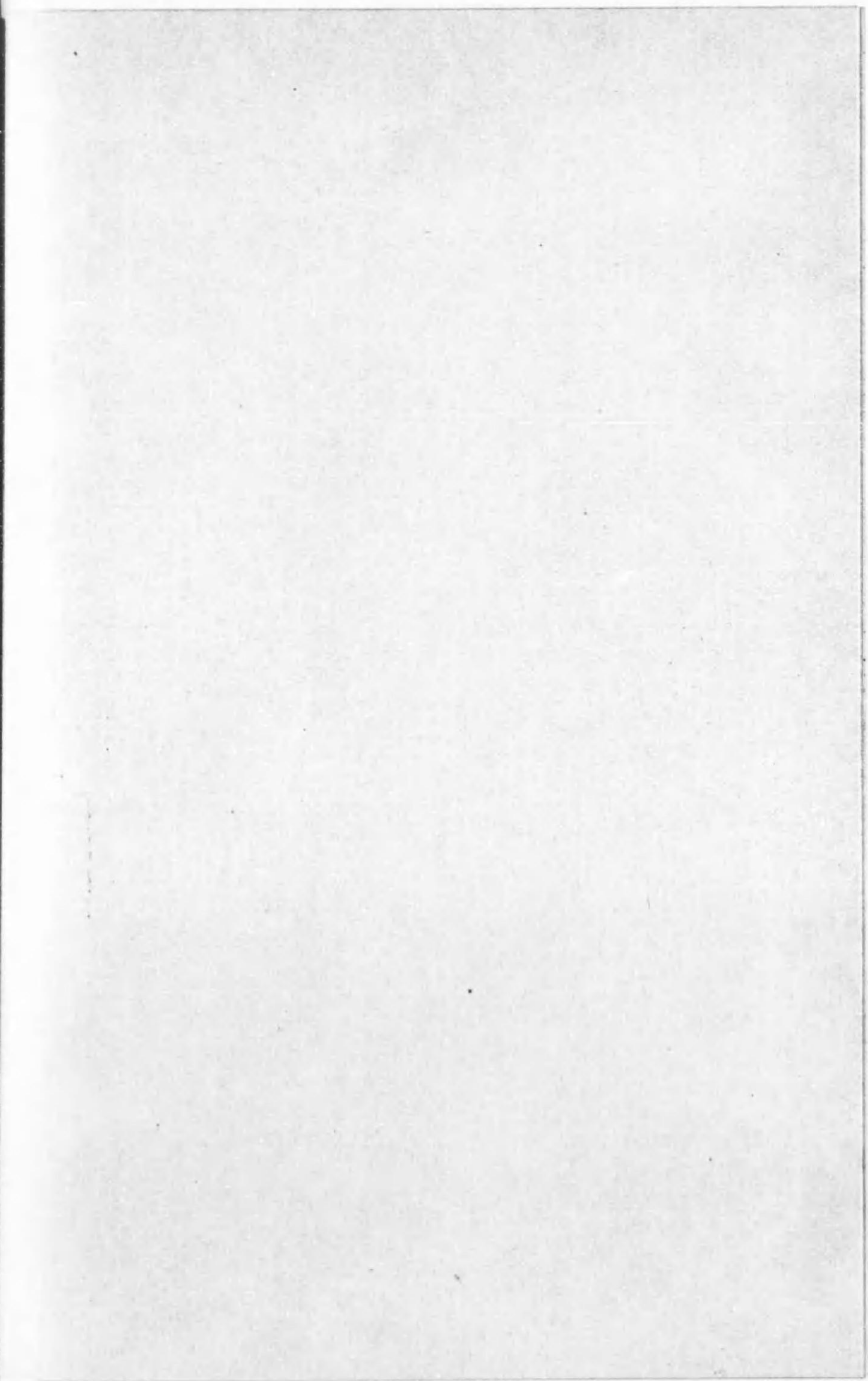
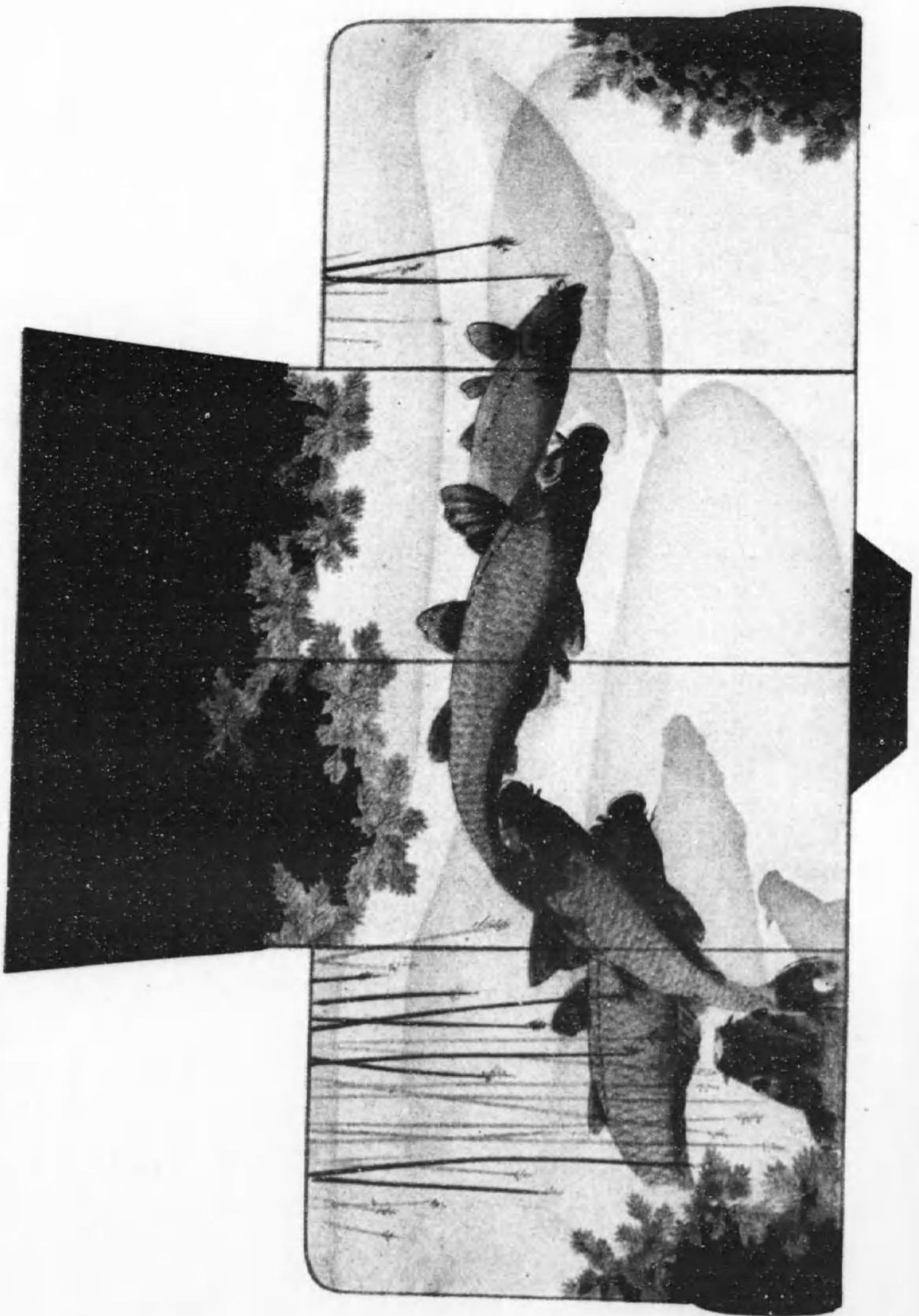
表地は大凡丸帯二本分の用布を要するが故に同地質の丸帯二本にて裁つ場合あり。

第三 襜褕の標附方及縫ひ方

襜褕の標附方及縫ひ方は女物長着に準じてなすべし但し裾ふき太ければ裾とちは裾合せの時縫目にかくし躡をかけ置き綿を入れし後裏の方より綿のみをかけて裾とちをなすものこす。



無 双 羽 織



第五章 男無双羽織

無双羽織は表地を引き返して仕立つるものにして、裏身頃胴接ぎのあたりより色を異にし模様を附す、裏袖は身頃より通じたる模様とし袖口のところは口布をかけたる如く表地と同色に染めぬくものなり。

第一 無双羽織裁方積り方  
方裁織羽双無男



(寸七丈四) 幅二尺四寸五寸五分 長 幅並 (布用)

(袖丈 + 身丈) × 8 + 前後の差 × 4 + 袴 = 用布

(55. + 103.) × 8 + 7. × 4 + 250. = 1542.

第二 無双羽織標附方及縫ひ方

無双羽織は標附方及縫ひ方とも普通羽織に準じてなすべし。

第六章 男 袴 袴

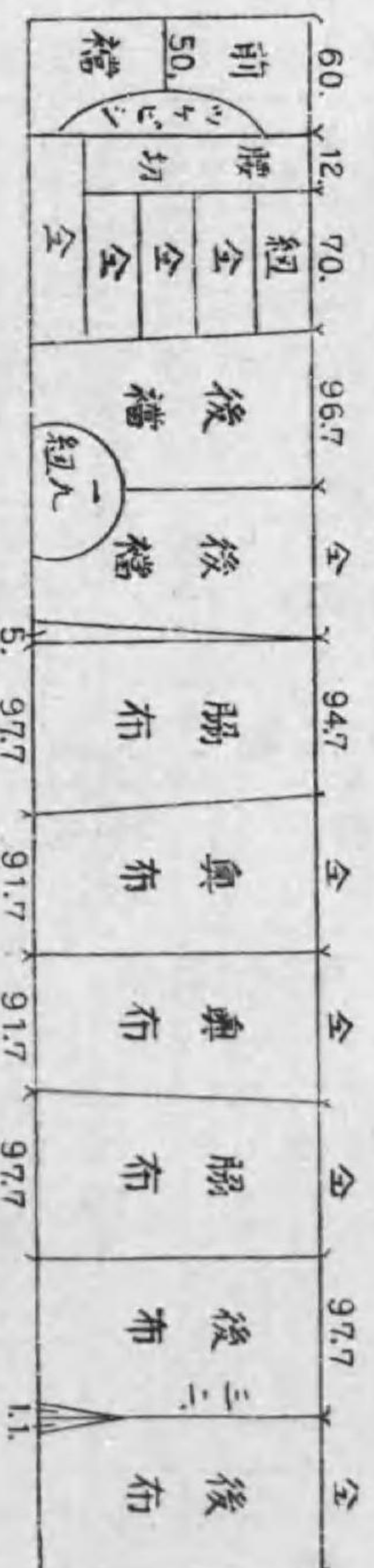
第一 大人男袴各部寸法割出し方及普通仕立上げ寸法

部分名稱	割出し方		普通寸法	部分名稱	割出し方		普通寸法
	着丈の十分の六	紐下の三分の二			前後幅	後幅に同じ	
紐下	着丈の十分の六	紐下の三分の二	八十三	前後幅	前後幅	三十一	三十一
後幅	着物後幅と同又は一程狭く	紐下の三分の二より五程位狭く	三十一	ふところ	ふところ	十二	十二
相引	紐下の三分の二	紐下の三分の二より五程位狭く	五十五	切上げ	切上げ	六	六
袴の高さ	紐下の三分の二より五程位狭く	紐下の三分の二より五程位狭く	五十	後布曲り	後布曲り	二	二
後腰幅	後幅の四分の三に二程乃至三程加ふ	後幅の四分の三に二程乃至三程加ふ	二五 (大天)	後重り	後重り	四	四
腰板高さ	幅の三分の一	幅の三分の一	九	後紐	後紐	三	三
腰板落し	幅の七分の一	幅の七分の一	三	前紐	前紐	三	三
附菱幅	腰幅の三分の一	腰幅の三分の一	八	幅	幅	七	七
附菱高さ	斜に計りし高さの二分の一に五程加ふ	斜に計りし高さの二分の一に五程加ふ	六	用布	用布	八	八
前の一の襷	後幅の五分の三	後幅の五分の三	十八	十番	十番	九	九
寄襷	後幅の十分の一	後幅の十分の一	三	十布	十布	十	十
上	後幅の五分の一より八程減す	後幅の五分の一より八程減す	五				
中折			四				
上り幅	一の襷の四分の一より四程減す	一の襷の四分の一より四程減す	四				
笹襷			二				

第二 男袴袴裁方積り方

方裁地表袴袴男

(尺四丈二) 幅十米九さ長 幅並 (布用)

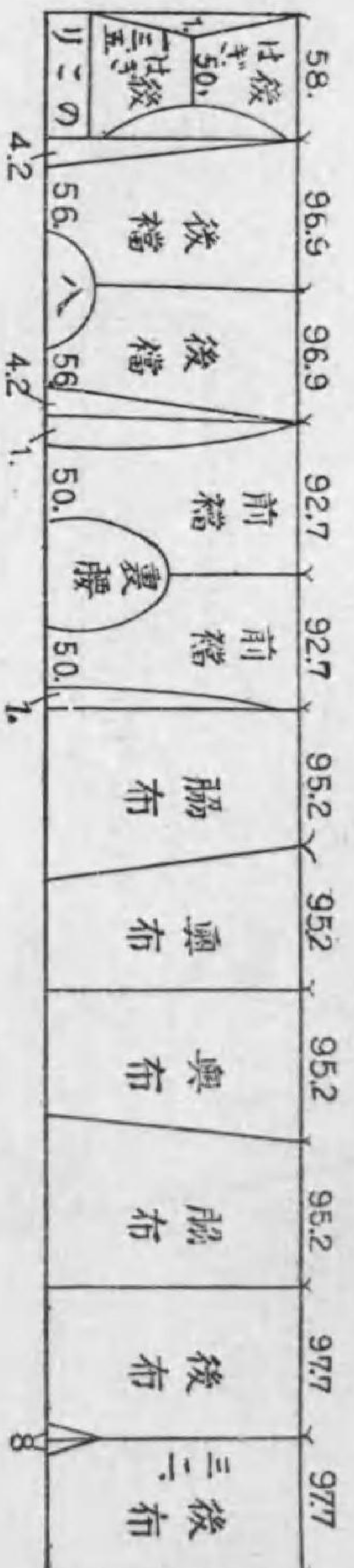


$$\{ \text{用布} - (\text{前襟} + \text{腰切} + \text{紐}) + \text{裁込} \} \div 8 = \text{後布丈}$$

$$\{ 910. - (60. + 12. + 70.) + 14. \} \div 8 = 97.7 \text{ 餘}$$

方裁地裏同

(寸八尺六丈二) 幅四厘三十米十さ長 幅四十三幅 (布用)



$$\text{後布丈} \times 10 + \text{後はぎ} - \text{裁込} = \text{用布}$$

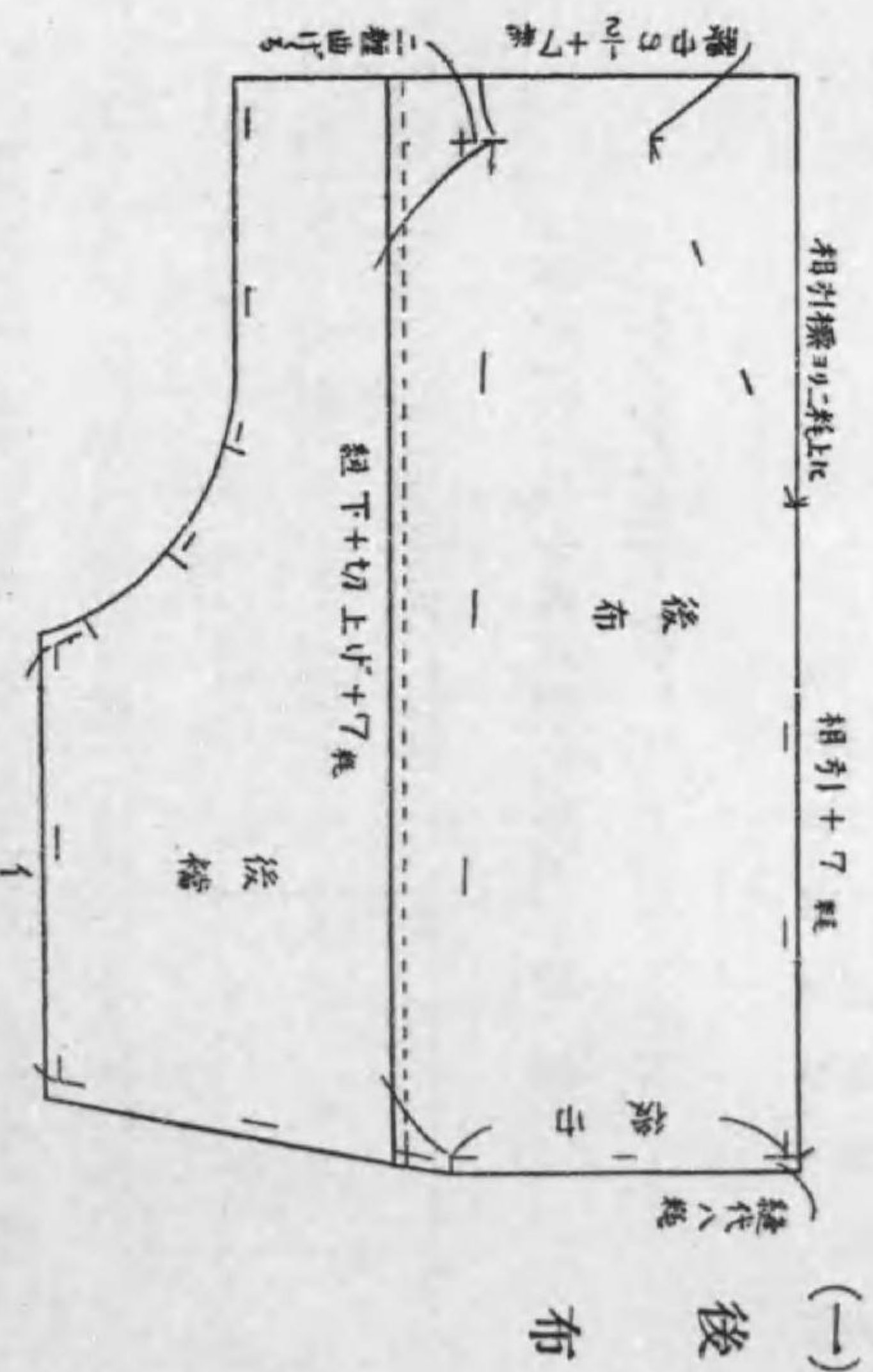
$$97.7 \times 10 + 58. - 21.6 = 1013.4$$

- 裁込み 脇奥四布にて
- 二纏五耗つ、
- 十纏
- 前襟二布にて
- 五纏つ、十纏
- 後襟二布にて
- 八耗つ、一纏
- 六耗



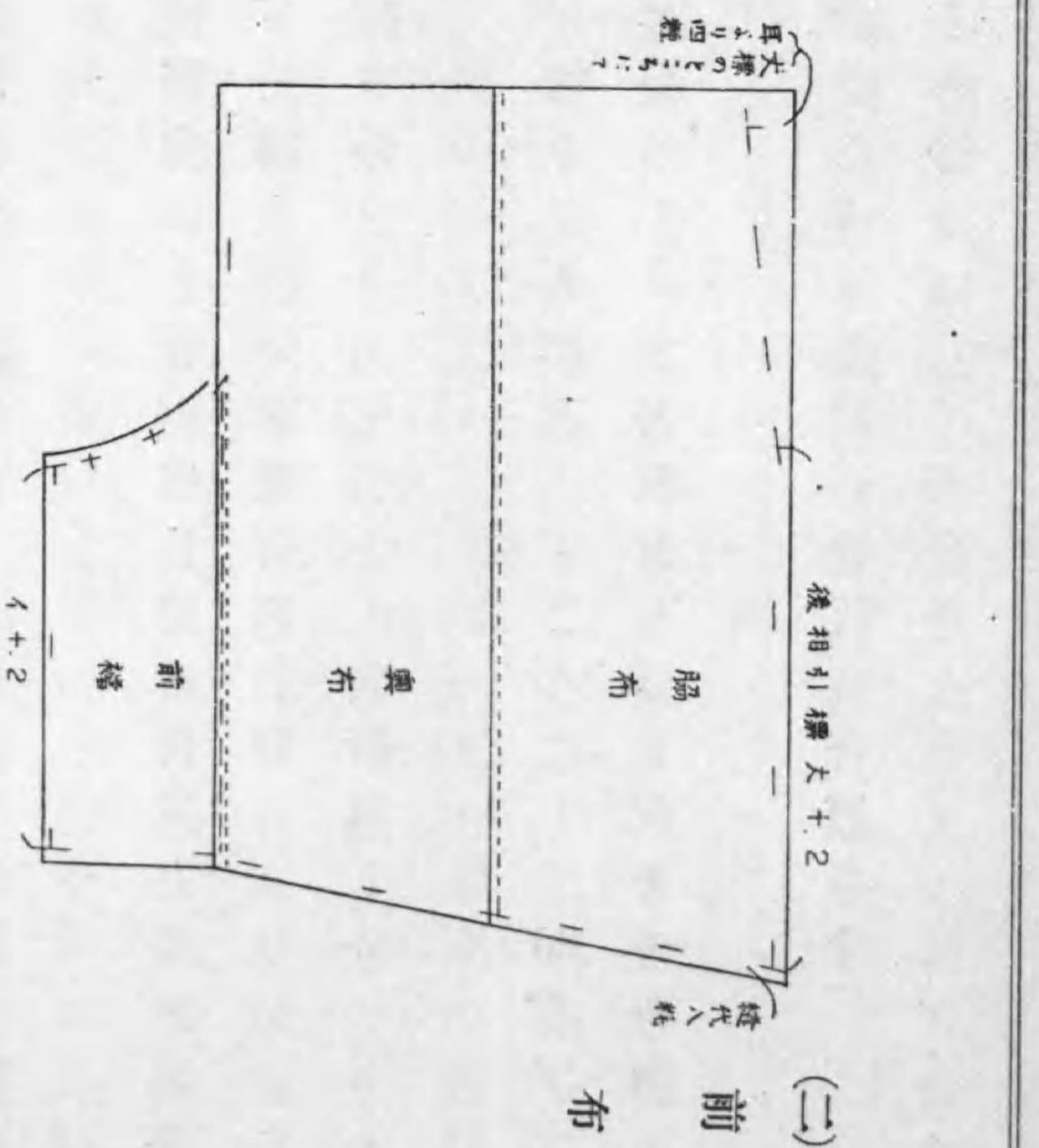
第三 男袴袴標附方

(い) 圖解



**注意**

1、相引、紐下、腰幅に  
 七耗加へ  
 あるいは表折  
 返し分五耗  
 とさせの分  
 二耗とのた  
 わなり。  
 2、裏は後布  
 及前布とを  
 分けて縫ひ  
 合せ表とか  
 さねて此標  
 附をなす。  
 3、表裏を重  
 ねて裾標を  
 なし表折返  
 し分の二倍  
 丈けを裾口  
 にて裏布を  
 上げ置きて  
 其他の標附  
 をなす。  
 4、或は表裏  
 を重ねて此  
 標を附し縫  
 ふ時裏を裾  
 口にて表折  
 返し分の二  
 倍丈け縫ひ  
 込打もよる  
 し。



(3) 説明

- 一、後、後布と後襠とを表裏ともはぎ合せ置き裾口をそろへてかさね、
- 1 裾縫代標裏の方を裾口にて表折返し分の二倍を上げる
- 2 丈(紐下に切上げ分と表折返し分ときせ分とを加ふ)
- 3 相引(紐下の2/3を相引とし表折返し分ときせ分とを加ふ)
- 4 後幅(後幅を定め腰附のところにて二纏曲げて標附す)
- 5 腰幅(腰幅の1/2に表折返し分ときせ分を加ふ)
- 6 なげ
- 7 乗間(襠丈を定め乗間の縫代及合標をす)
- 二、前、前布も後と同じく表裏をそれくはぎ合せ置きて裾

口をそろへて重ね、

- 1 裾縫代標(後に同じ)
- 2 相引(後布より二耗ゆるく附く)
- 3 笹ひだのところ(丈のところにて耳より四纏として標附けす)
- 4 前襠丈(後のまち丈より二耗長くし乗間の縫代及合標をなす)

第四 男袴縫ひ方順序

先づ表布は後布後襠を縫ひ合せ、前の方脇布、奥布、前襠を縫ひ合せ置く、裏布は後布、後襠、後襠はぎを縫ひ合せ、前の方脇布、奥布、前襠を縫ひ合せ置き、標附をなす(これまで標附の前になす)

1 後の左右とも表裏をそろへ裾を縫ひ合せ表を五耗ふかし

て躰をかけ(裏の甲斐絹の如きもの、場合は幅二糎位の紙を揉みて當て、縫ひ合す)

2 前の左右の裾合せも後と同様になす。

3 投を表は標通り裏は表ふきの二倍即ち一糎を入れて縫ひ(相引のところより四五糎にて消す様に縫ふ)表を五耗ふかして躰をかけ(此時も裾口と同様紙を當て、縫へば投の延びるうれひなし)

4 後乗間のところ右脚を左脚にて挟み、襠のところ十糎ばかり縫ひ残り四つ縫ひになし、

5 後襷を單袴と同様に取りて躰をかけ、

6 後襠と前襠を縫ひ合す此時右の襠は後襠を前襠にて挟み四つ縫ひになし左の襠は同じく後襠を前襠にて挟み丈の

7 中央まで四つ縫ひにして上は表裏別々に縫ひ、

8 乗間を後の縫ひ残りよりつゞけて前まで縫ひ、

9 相引は脇布にて後布を挟みて四つ縫ひになし其絲にて表は標より五耗出し裏は標より五耗縫ひ込みて笹襷の中縫ひをなし(相引より四五糎のところにて消す)

10 前襷を單袴と同様に取り笹襷を折り相引のきわにかゝり留めをなし、

11 三つに畳み壓を置き前後の紐を締め腰板を拵へ(腰板の拵へ方は單衣袴に同じ但し裏腰は裏布を用ふ)

12 前紐を單袴の如く付け後腰を付け仕上げをなす。

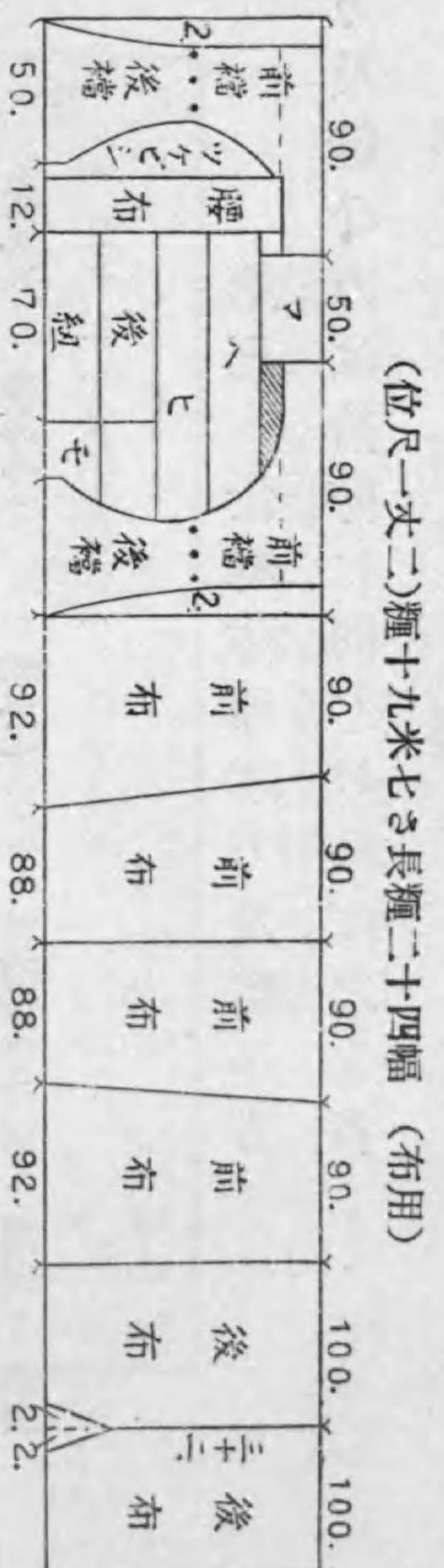
# 第七章 仕舞袴

## 第一 仕舞袴仕立上げ寸法

後丈	九十二	種	前一の襷	十八	種	五耗
後幅	三十一	種	寄襷 上 下	五	種	五耗
相引	四十	種		三	種	
後腰幅	二十六	種	笹襷	四	種	二耗
腰板高さ	九	種	前腰幅	二十九	種	
前丈	八十	種				

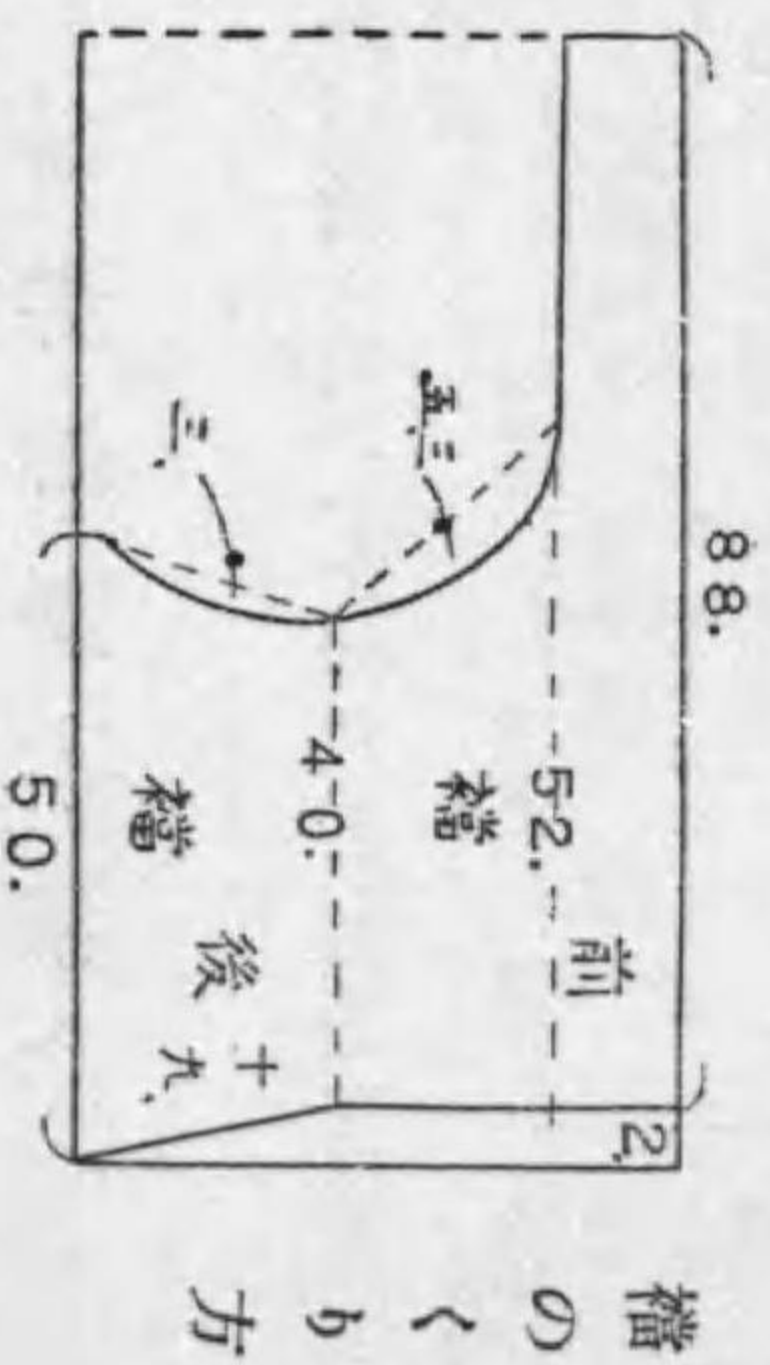
## 第二 仕舞袴裁方積り方

### 方裁地表袴舞仕



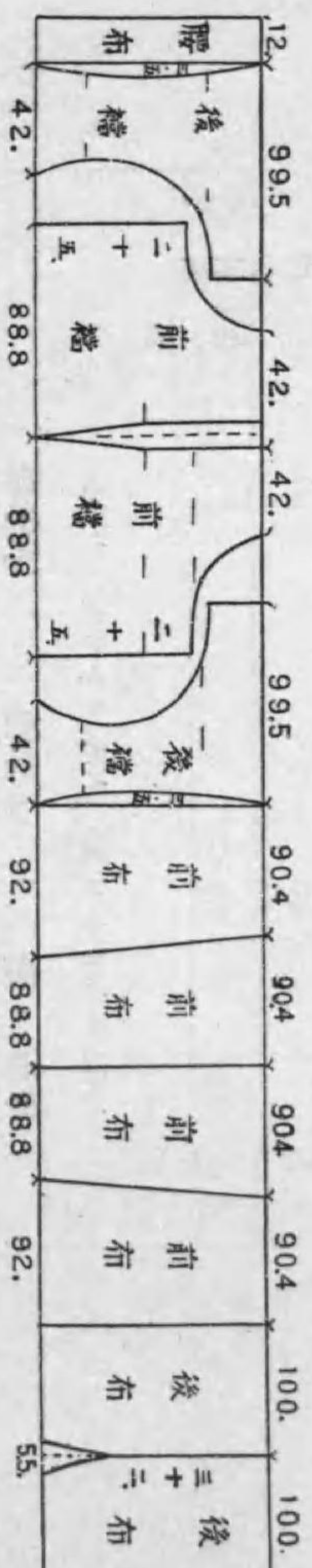
後布丈 × 2 + 前布丈 × 6 + 紐 = 用布  
 100. × 2 + 90. × 6 + 50. = 790.

備考  
 単袴の時は腰布を一枚取る  
 こと。



方裁地裏袴舞仕

(寸二尺三丈二) 耗八糶八十七米八三長糶四十三幅 (布用)



$$\begin{aligned} & \text{(後布丈 + 後糶丈)} \times 2 + \text{前布丈} \times 4 + \text{前糶及むだ布} + \text{腰布} = \text{用布} \\ & (100. + 99.5) \times 2 + 90.4 \times 4 + 106. + 12. = 878.6 \end{aligned}$$

第三 仕舞袴標附方及縫ひ方

標附方及縫ひ方は袴袴に同じければ之を省く。

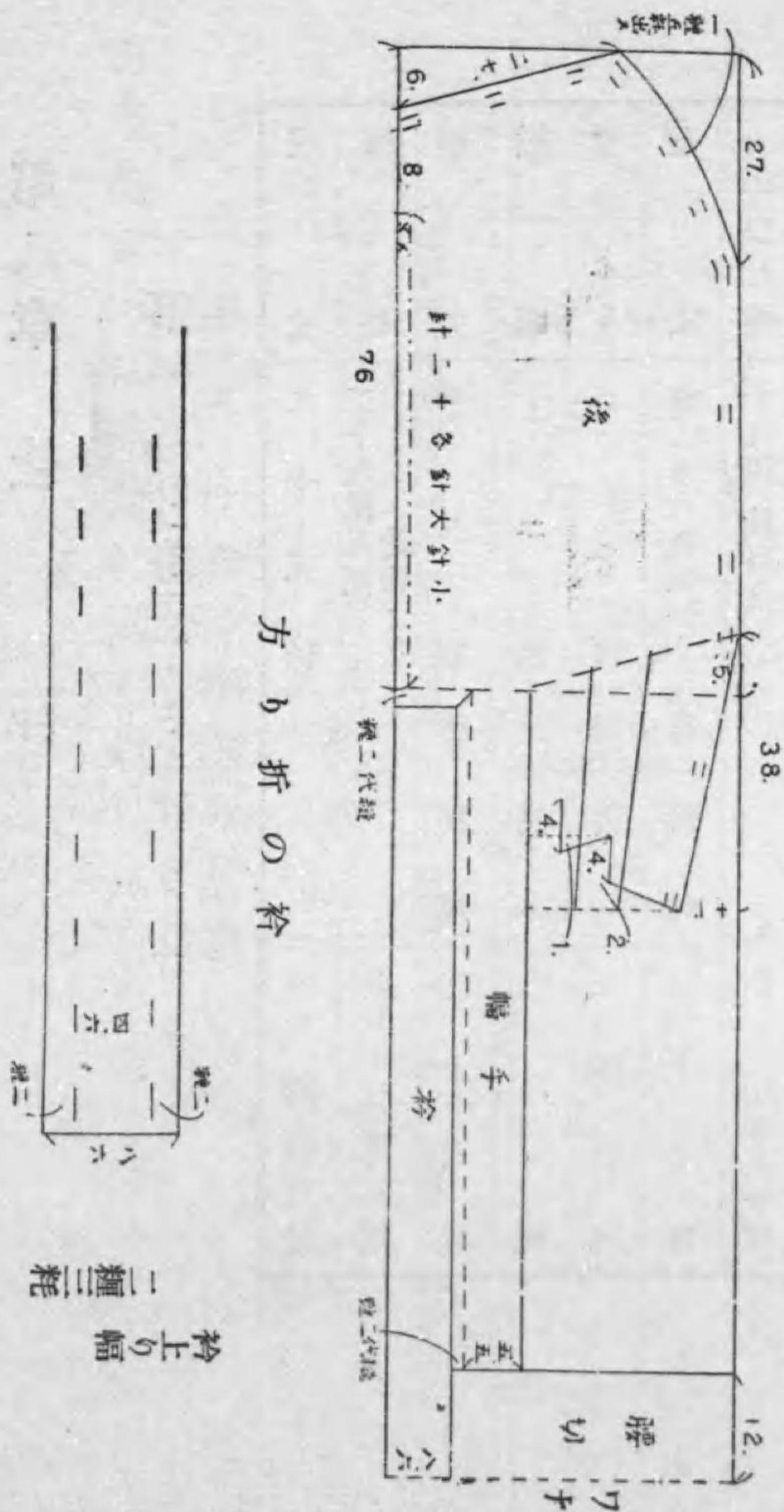
第八章 社 袴

第一 袴(袴)仕立上げ寸法

後丈	九十五糶	笹ひだ	中	四糶五糶
後幅	二十八糶五糶 裁切より	後腰幅	上り	三糶五糶
相引	十五糶	後腰幅	二	十三糶
糶幅	十三糶	同高さ	八	糶
糶の上り	八糶	斜落し	三	糶五糶
前丈	後より八糶短かく	前腰幅	二	十七糶
一のひだ幅	十九糶(裁目より)	組丈	前	三米五十糶
寄ひだ	上三糶 下六糶		後	七十糶

第二 社(肩衣)の裁方

方裁の社にて布の(尺九)糎十四米三(分五尺一)糎十四幅

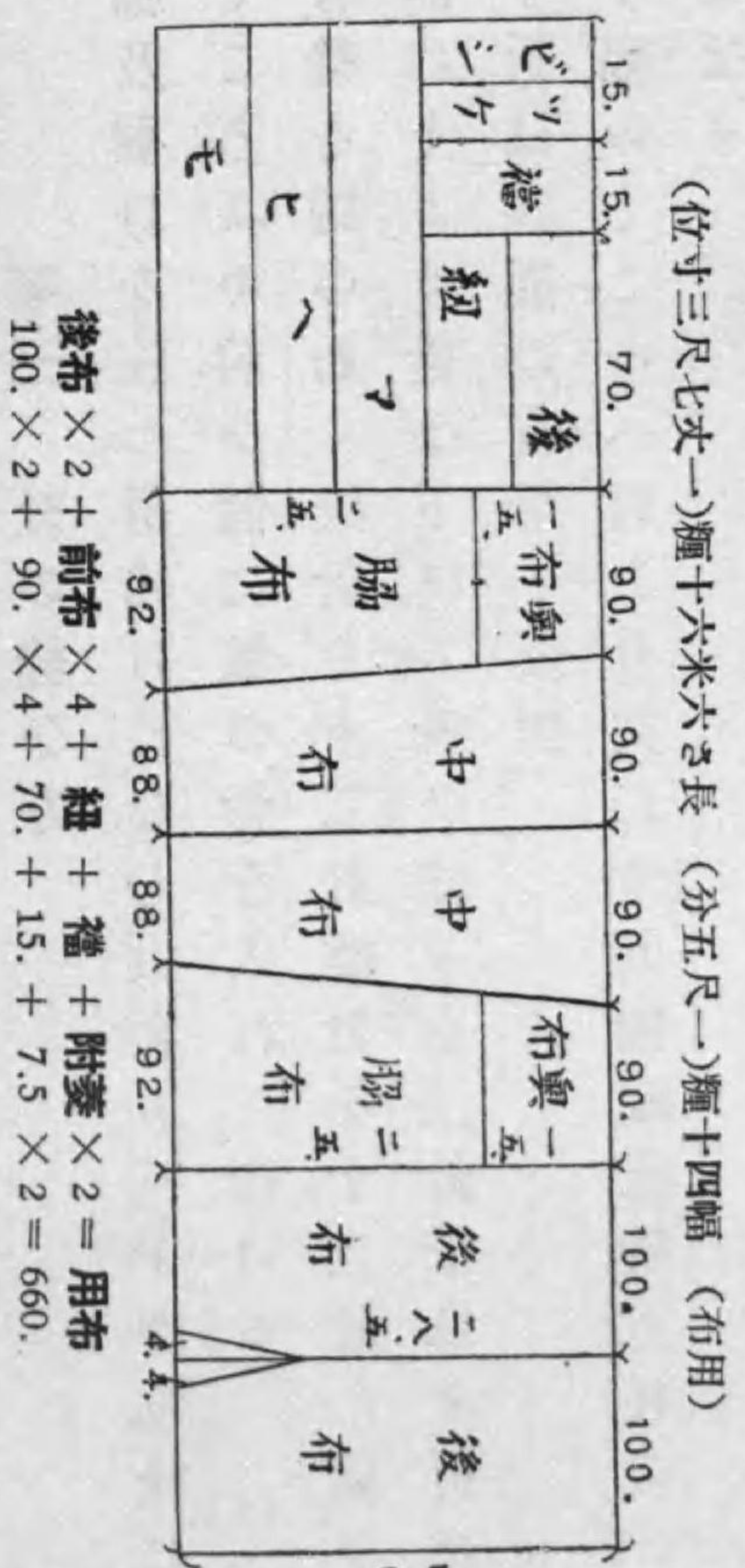


第三 社の縫ひ方

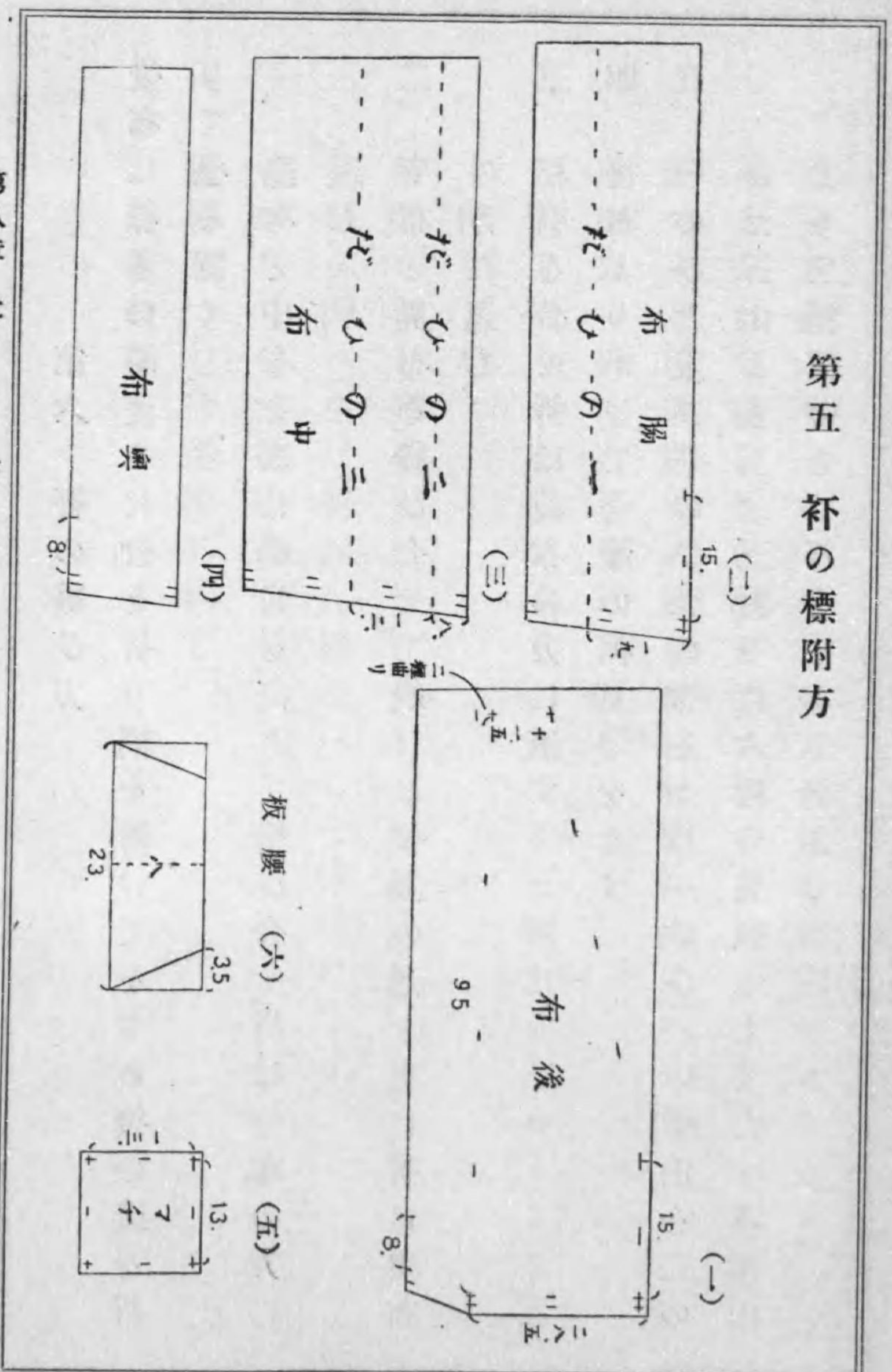
- 一、脇及裾口を三つ折拵けになし(山より三十糎位後によりしところより前全體に鯨の骨を入れて拵ける)
- 二、脊縫を圖の如く雄針を十二針雌針を十二針に縫ひ(脊を手前に上より縫ひ下げる)縫ひ終りを三針千鳥り、折は右に返す(折は普通の脊折と反對)
- 三、手幅のところへ肩より丈二十五糎幅七糎五耗のいため紙をはり、
- 四、手幅を七糎五耗の四倍として残りを裁ち落とし四つに折りて疊み躰にて抑へ、
- 五、肩より二十三糎下りしとり手のところにて襷を集めて止めをなし、
- 六、手幅の裾口にてわなの方を下にて一糎のつまみ代とし十

- 一纏のところにて消す様返し針に縫ひ折を裏に返し裾口を二纏位中に折り込む。  
 七、 衿を折り衿を付け(裾口より四五纏位のところまで裏をはなして縫ふ)  
 八、 衿を裏にて締め仕上げをなす。

第四 袴の裁方



第五 袴の標附方



第六 袴の縫ひ方

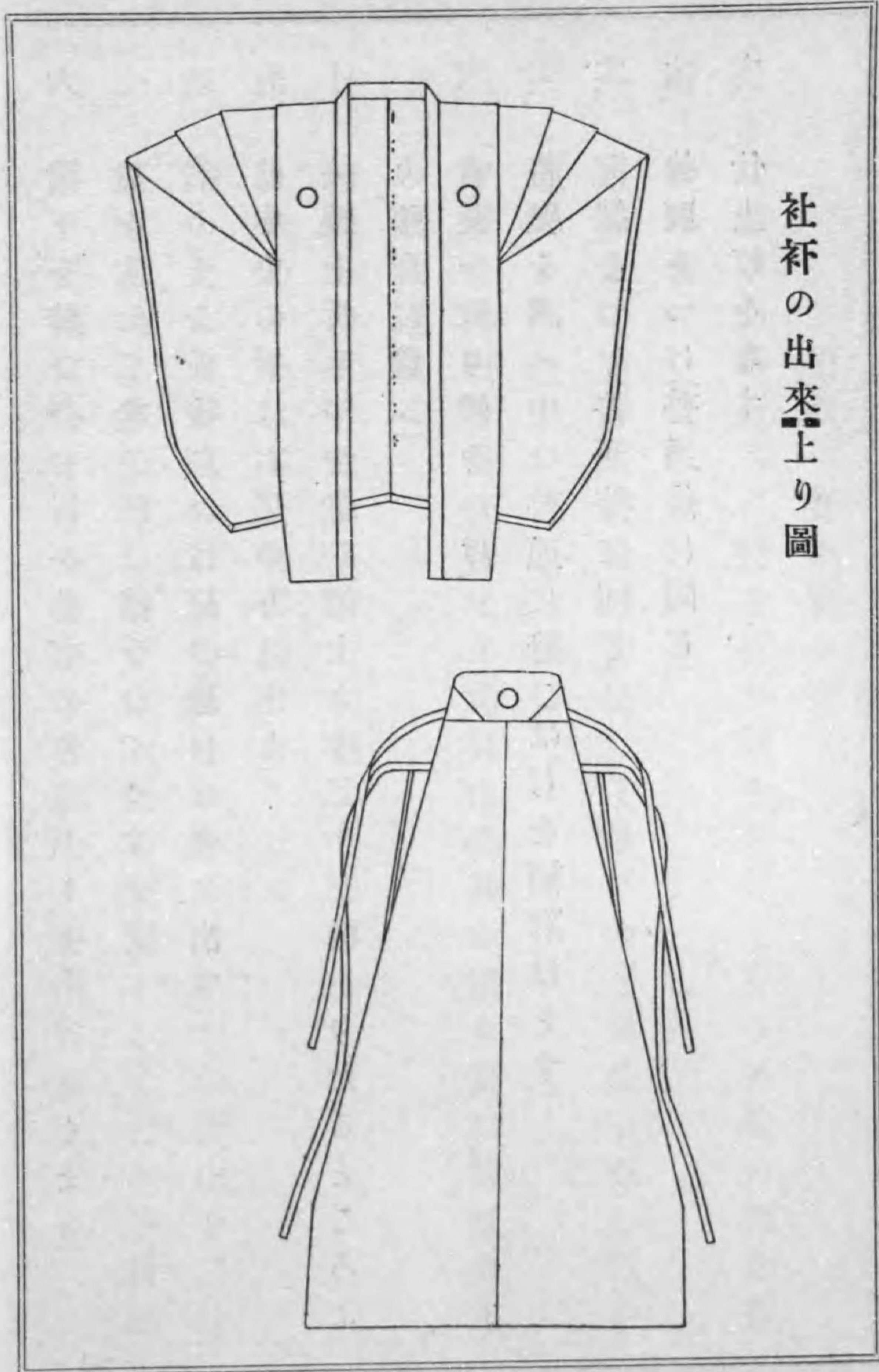
後布は標附の時直ちに投を折り糊を附けてをさめ後の襷を折りて疊み置く。

- 一、脇布と中布を表に縫目を出して縫ひ合せ、折は中布の方に返し、
- 二、中布と奥布を縫ひ合せて(縫目は普通の通り裏に)折は奥布の方に返し、
- 三、相引を合せ折は前布の方に返す。
- 四、後布よりかけて全體の裾ぐけをなす。
- 五、一のひだ及び二のひだの折をつけ一のひだの折山を二のひだ折山より上は三纏、下は六纏の襷幅としてたゝみ折山より二耗位のところを中より縫ふ。

- 六、襠下を縫ひ合せ折を前布の方に返し(裾紘けせしまゝ)
- 七、襠を入れて縫ひ、折は襠をひくくす。
- 八、襠の上を前後別々に縫ひ(縫目は表に出す)
- 九、前中央の折は右足の方に返し、
- 十、後襷を折り中を縫ひ(襠上より二十三纏上りたるところより襠形に縫ふ)
- 十一、前襷を取り躰をかけ、
- 十二、笹襷を調へ(中は普通に縫ひはじめを糊附けとす)
- 十三、前紐をつけ(普通袴に同じ)
- 十四、後腰をつけ(普通袴に同じ)
- 十五、仕上げをなす。



社衾の出来上り圖



社衾着用の圖

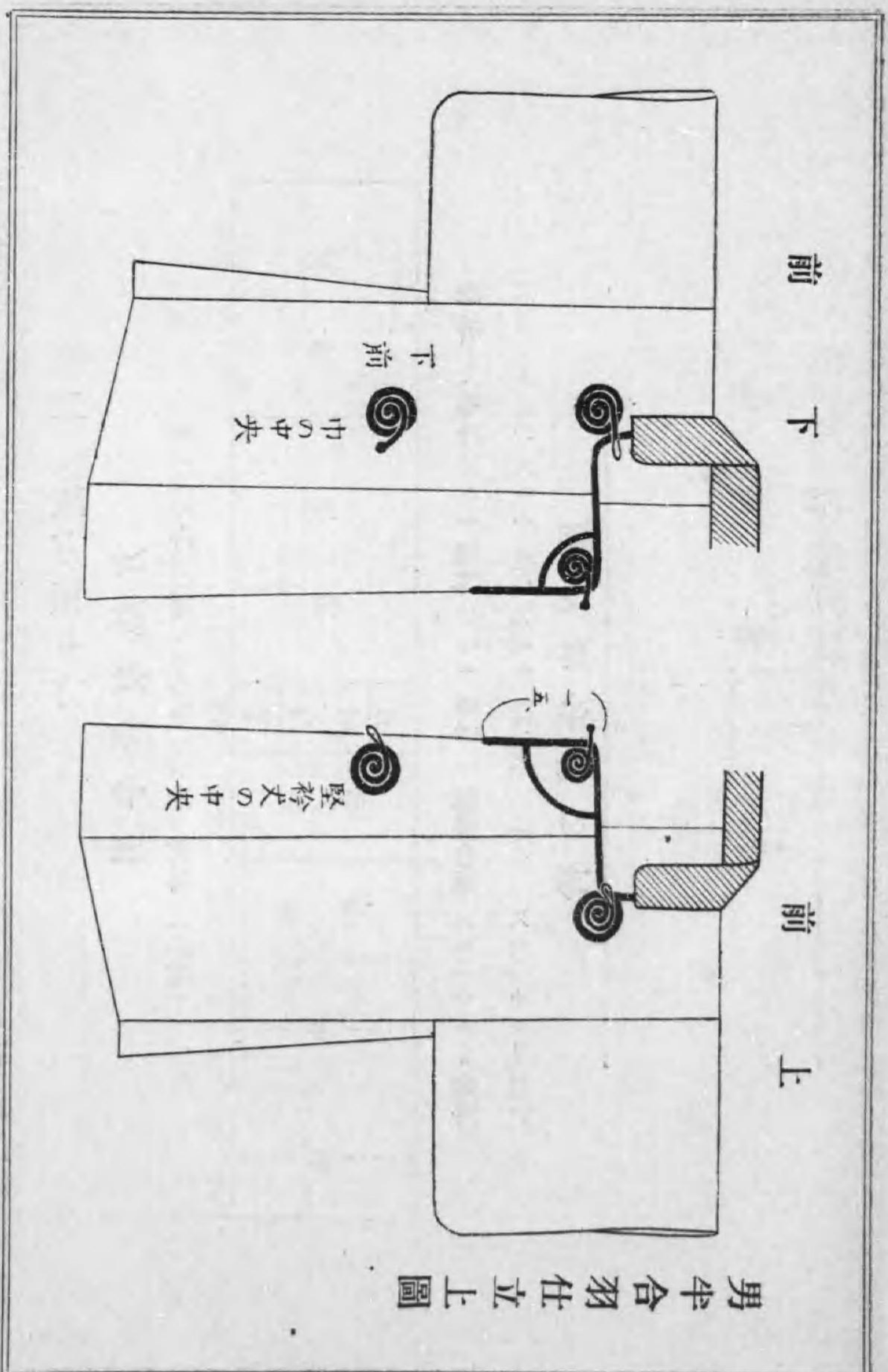


第九章 男 合 羽

第一節 男半合羽(裝束附)

第一 男半合羽仕立上げ寸法

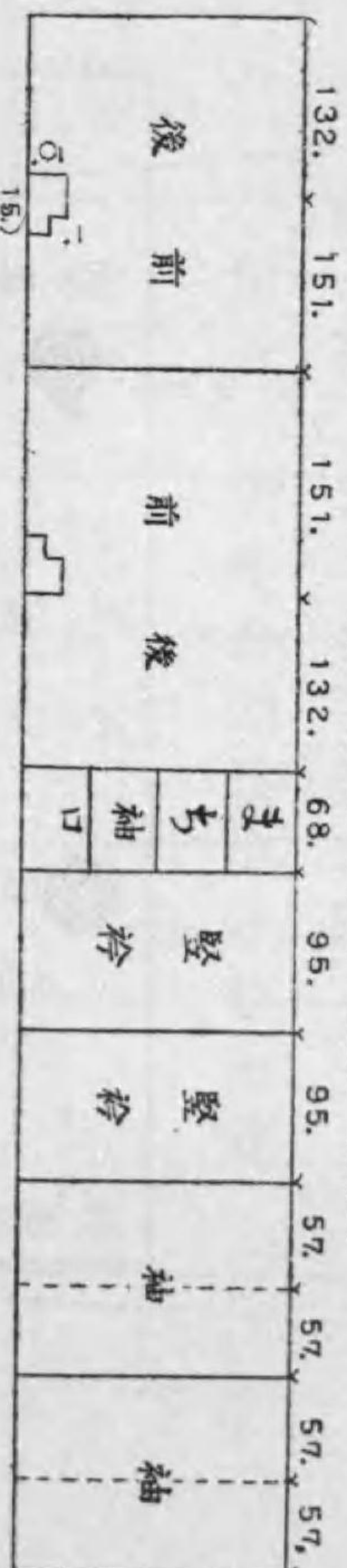
袖丈	五十三	袖口	三十三	袖幅	三十四	袂丸み	二	身丈	一米二	後幅	三十
前幅	三十	襟幅	上下	立襟幅	上下	紵					
袖丈	三十三	袖口	三十三	袖幅	三十四	袂丸み	二	身丈	一米二	後幅	三十
前幅	三十	襟幅	上下	立襟幅	上下	紵					
袖丈	三十三	袖口	三十三	袖幅	三十四	袂丸み	二	身丈	一米二	後幅	三十
前幅	三十	襟幅	上下	立襟幅	上下	紵					
袖丈	三十三	袖口	三十三	袖幅	三十四	袂丸み	二	身丈	一米二	後幅	三十
前幅	三十	襟幅	上下	立襟幅	上下	紵					



第二 裁方積り方

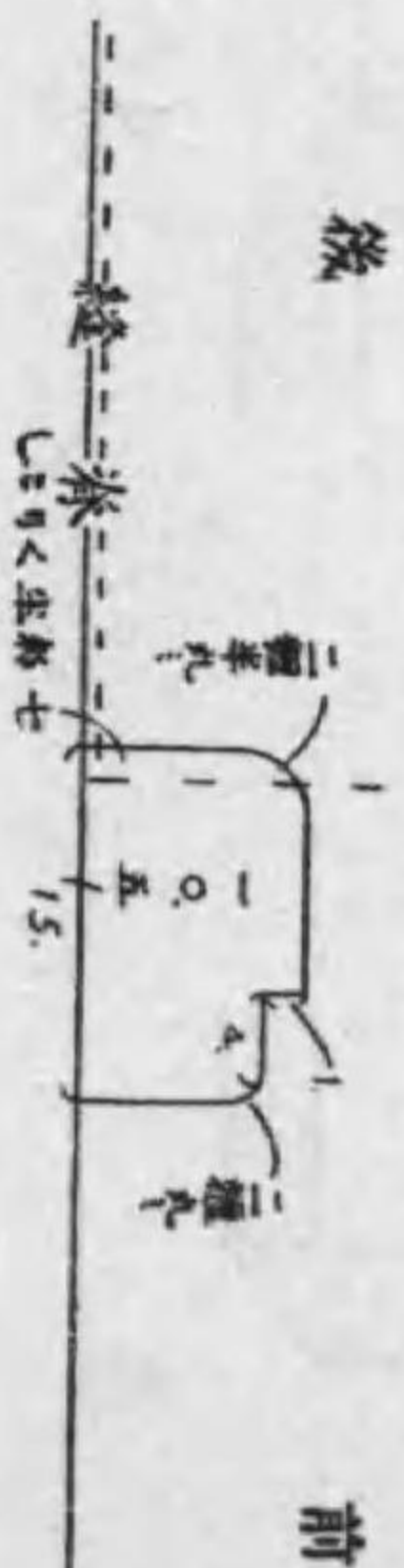
方裁羽合半男

(寸八尺七丈二) 羅三十五米十さ長 幅並 (布用)



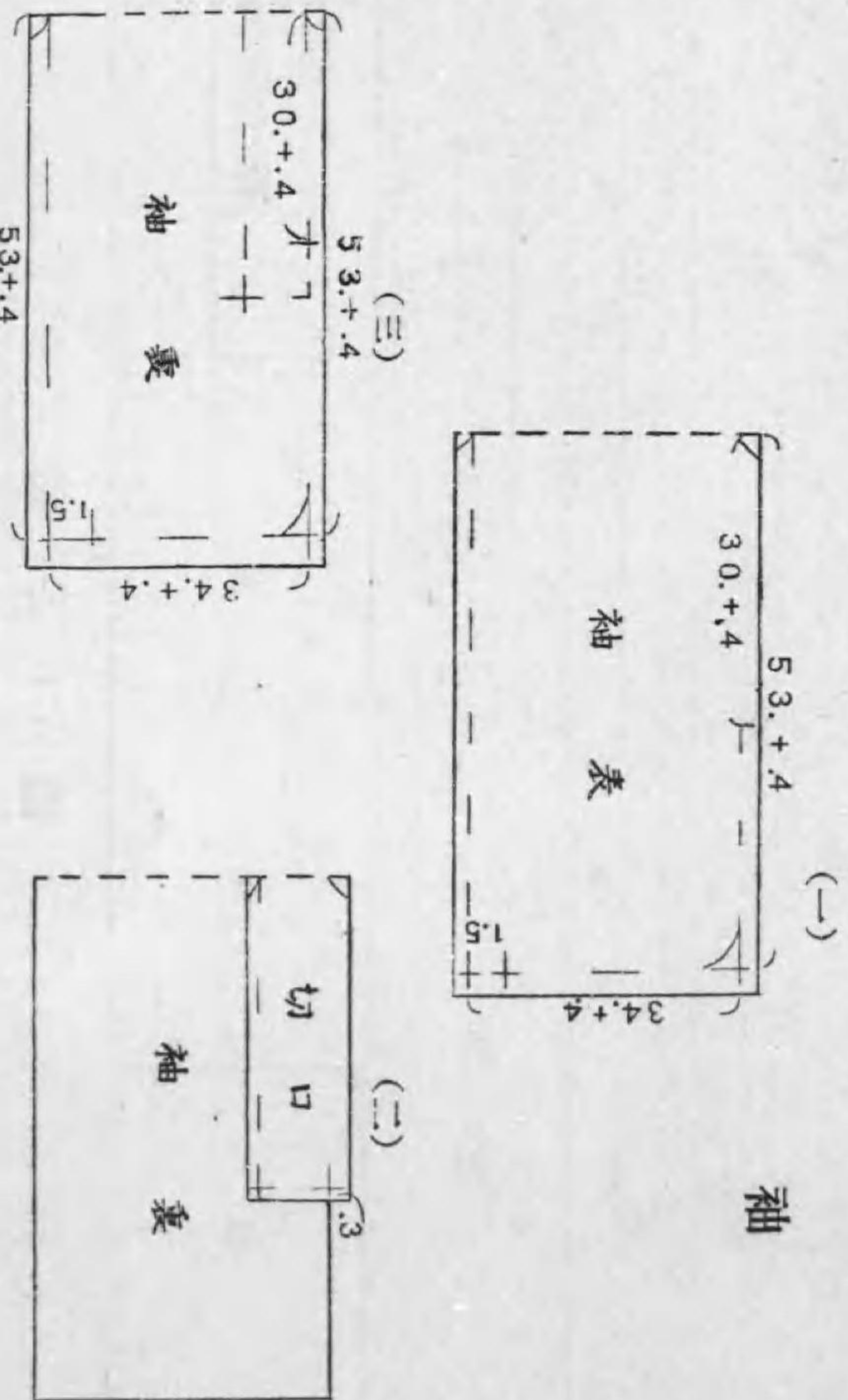
{用布一(袖丈×4+ 脇袴×2+ まち+ 前後の差×2)} ÷ 4 = 後丈  
 {1053. - (57. × 4 + 95. × 2 + 68. + 19. × 2)} ÷ 4 = 132.

圖方裁分部の衿

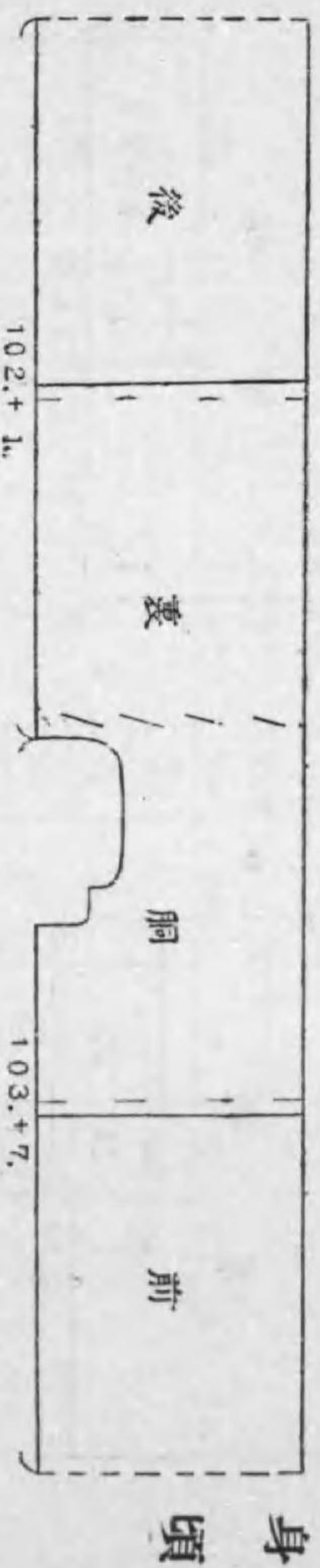


第三 男半合羽標附方

(い) 圖 解



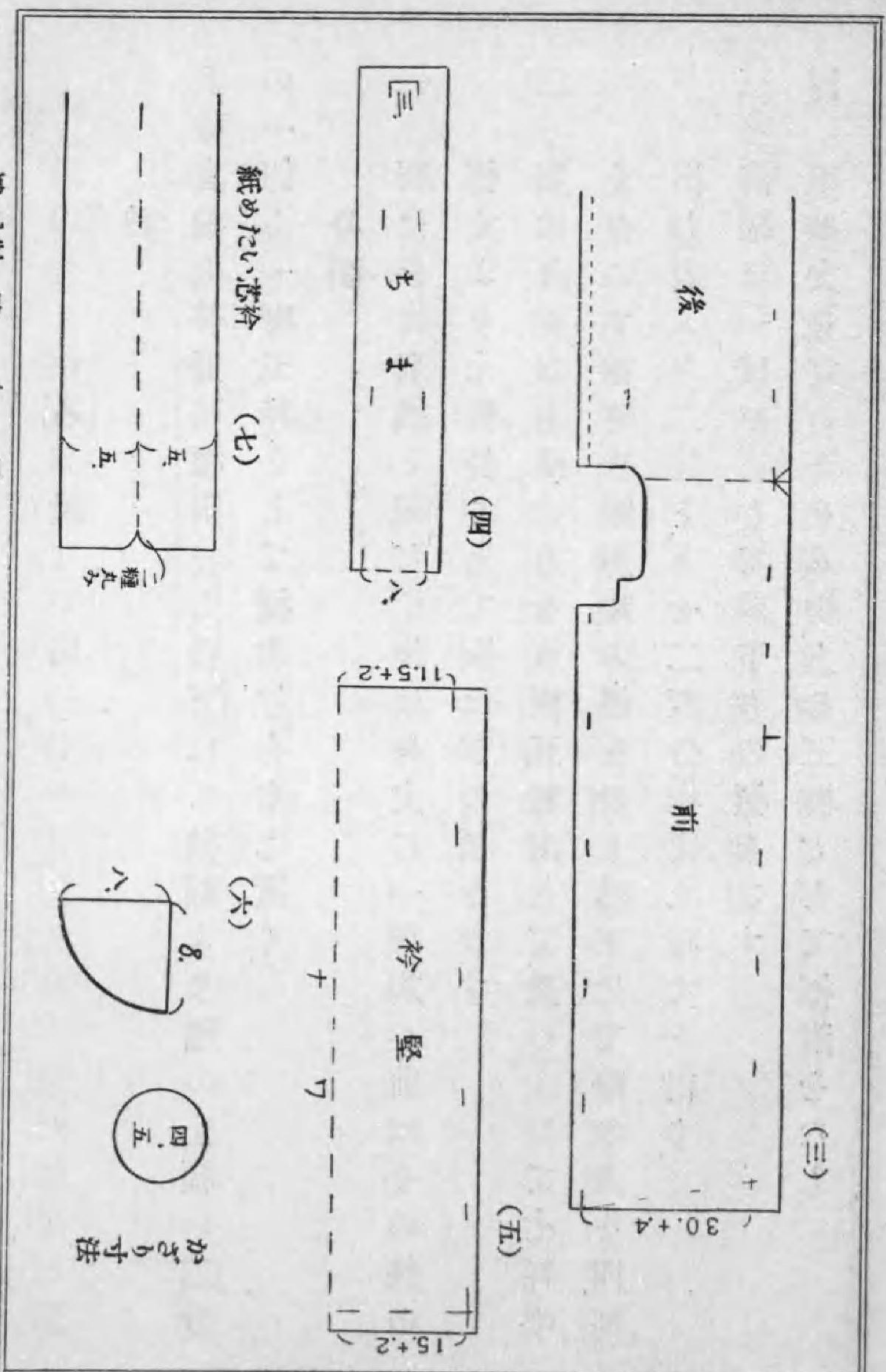
標 ぎ は 胴



(一)



(二)



袖

(3) 説明

表袖裏袖共普通に標付けし、袖下にて袖幅より襷の上幅の二分の一即ち一纏五耗として標付けをなし置く。

身頃

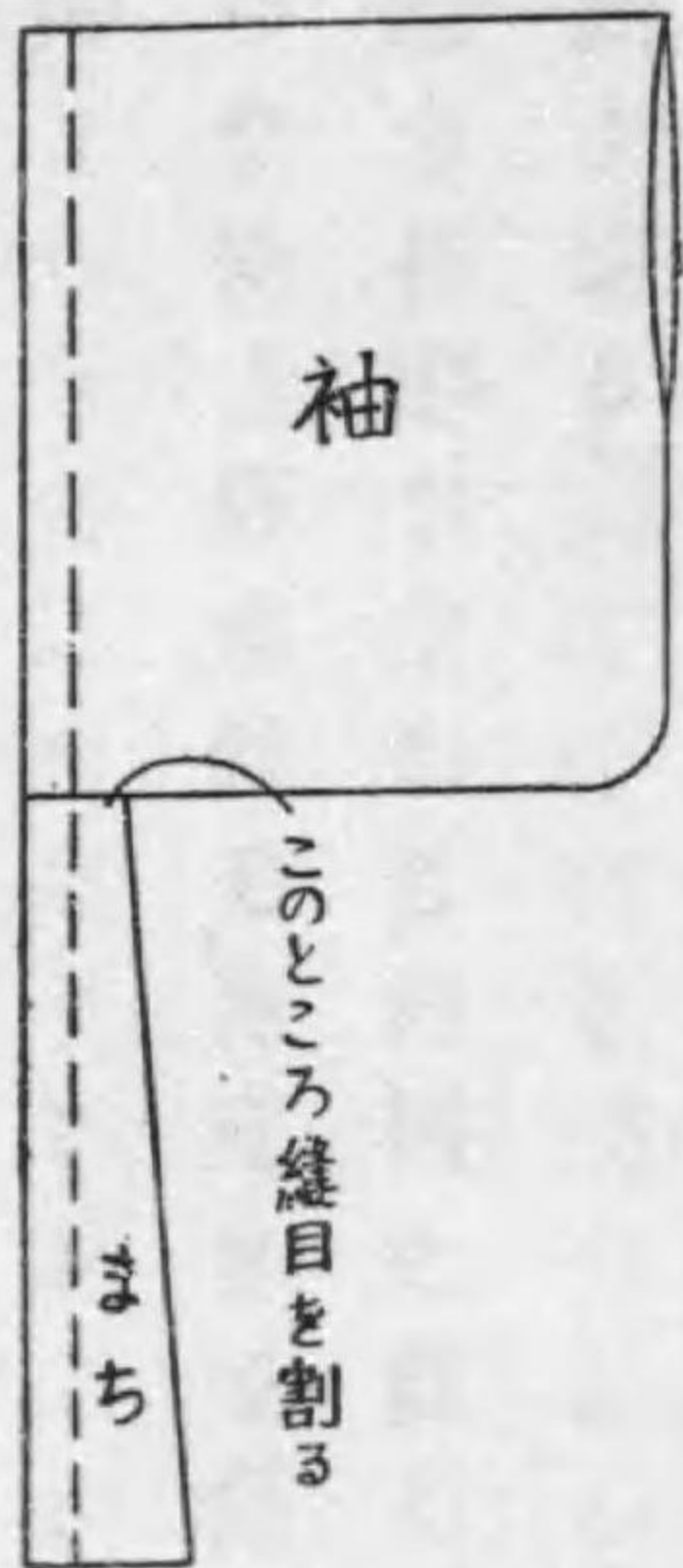
- 一、 胴はぎは羽織と同じく後は身丈に一纏加へ前は其の後の標丈より七纏長くして胴はぎの標をなす。
- 二、 胴はぎをなし前の方を五纏五耗出して重ね(山にて七耗半くりこす)袖附、後幅、肩幅、の標をなし襷下にて前の方を四耗出し(表ふき二耗と、きせ二耗分)標附し襷丈を計り、
- 三、 前幅は一ばいにして前下りの標をなす。
- 四、 襷は丈を定め下を八纏、上を三纏として標附をなし、

五、 整衿の幅を二つに折り丈幅の標をなす。

第四 男半合羽縫ひ方順序

袖

- 一、 裏袖に口切をかけ、袖口を合せ、四つ止めをなし其絲にて袖口下を四つ縫ひになす(但し袖幅中央まで)



- 二、 襷の上と袖下のところとを合せて圖の如く縫ひ袖下の縫

三、 衿残しをまとめ、袂丸みをととのへて表にかへす。

身頃

一、 胴はきをなし脊を縫ひ、前下りを袷羽織の如く縫ひ、  
二、 袖及襟を身頃にてはさみ、四つ縫ひになす(袖附の折は身頃の方高くなる)

三、 堅衿の下を縫ひ身頃にて堅衿をはさみ縫ひ表に返し、

四、 出来上り圖の如きケ所に装束(かざり)をつけ笹へりをつけ、

五、 小衿の芯にいたため紙を入れて附け、角をまるめ縫ひ、裏にて締める。

かざりの作り方

かざりは四纏五耗直径のまるみに切りし、いたため紙に表布

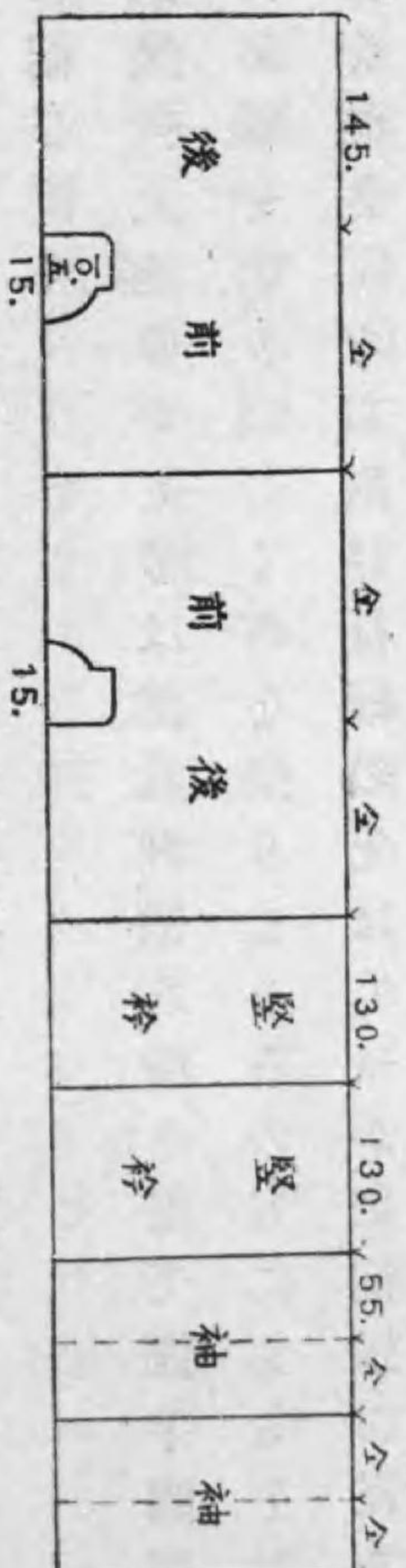
を糊にてはりつけ其周囲を毛繻子を斜に裁ちし切にて細くふちを取り、其中へ打紐を巻きて細き絲にて上から見えぬやうに縫ひつけ置く、此かざりは全部にて四個を要し二個は打紐の先をわなになし他の二個は打紐の先をしゃかに結び置く。

又堅衿上角のかざりは縦八纏横八纏として四半圓形にいたため紙を切り、同じく布を張りまるみの方にふちを取り打紐を巻きてとち附け(打紐の先はしゃかに結ぶ)これを上前下前の堅衿上の角にあて置きて毛繻子にて笹へりを取る、四個のまるき方は出来上り圖に示す如き位置に附す。

第二節 男單長合羽

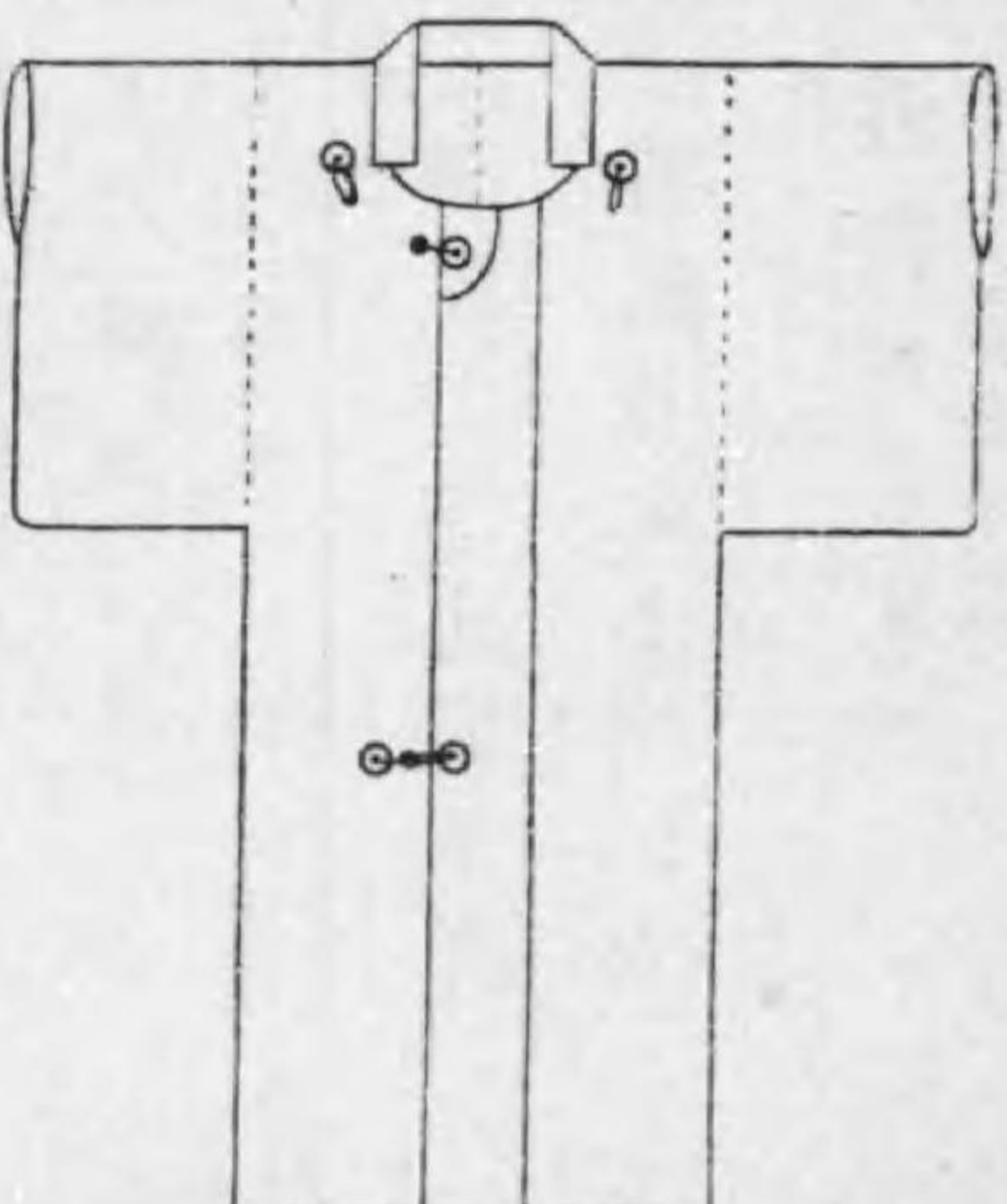
方裁羽合長男

(尺八丈二) 纏十六米十寸長 幅並 (布用)



(用布一袖丈  $\times 4 +$  罫約下  $\times 2$ )  $+ 6 =$  後丈  
 (1060.  $- 55. \times 4 + 15. \times 2$ )  $+ 6 = 145.$

圖上立仕



男單長合羽縫ひ方順序

- 一、表袖に袖口切をつけ、袖口を四つ留になして、袖下を縫ひ、
- 二、脊を二度縫になし肩當のたち目の一つ折になし、肩當をつ
- け、
- 三、前幅の標より四耗出して折をつけ、前幅の裾口を三つ折に

- なし、かりにしつけにて押へ、
- 四、 堅衿にて前身を挟みてつけ、堅衿下を縫ひ、表に返し、
  - 五、 脇を縫ひ、脇をとち、裾ぐけをなし、前の縫目をとち、
  - 六、 袖をつけ、袖附の縫目に肩襠を拵附け、
  - 七、 小衿の芯に厚紙を入れてつけ、半合羽の如く装束をつけ、仕上げをなす。

### 第十章 折衿コート

#### 第一 普通仕立上げ寸法

#### 折衿コート普通仕立上げ寸法

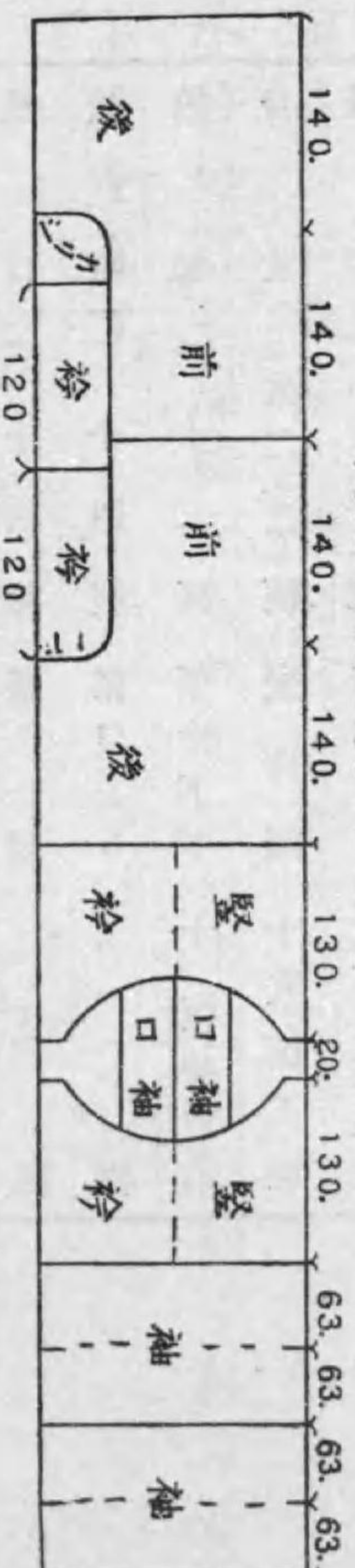
袖	袖	袖	袖	袖	袖
丈	口	附	幅	丈	後
六十一	二十三	二十四	三十三	一米二十五	二十八
種	種	種	種	種	種
前	線	裾口上り	縦衿下り	縦衿幅	拵
幅	越	二	十	十五	六十二
十九	一	種	種(裁切り)	種	種
種	種				
(裁目より)					



第二 裁方積り方

方裁トローコ衿折てに幅並

(十八尺八丈二) 幅二十九米十 (布用)



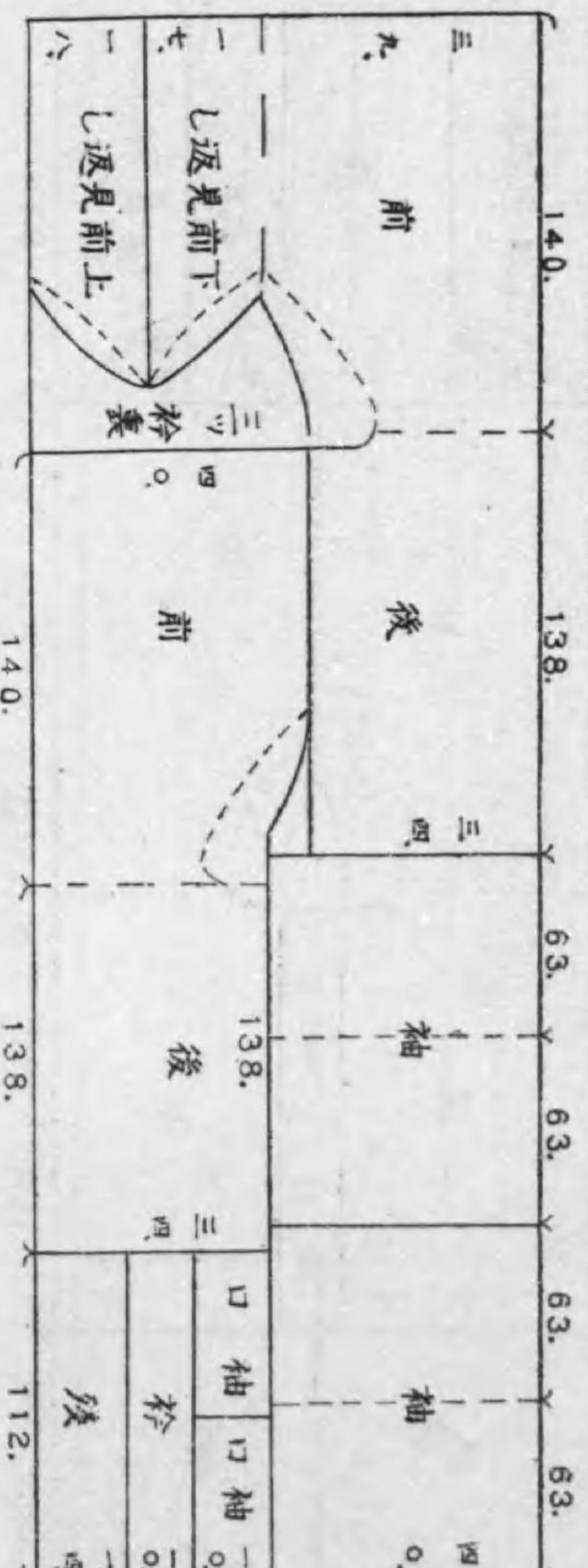
用布—(袖丈×4+ 頸約丈×2+ むだ切)÷4= 身丈  
1092.—(63.×4+ 130.×2+ 20.)÷4= 140.

方附標及方裁衿堅物幅並



(種一第物幅廣)方裁トローコ衿折しな目縫衿堅

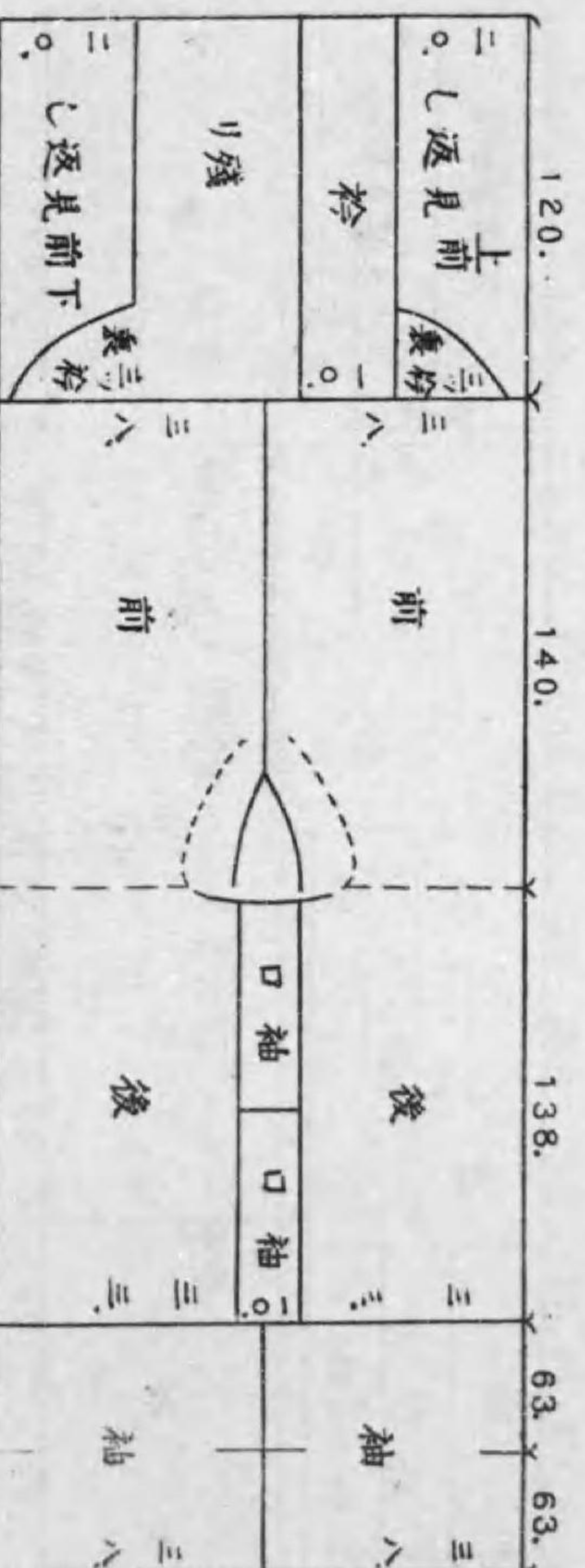
(位尺四丈一) 幅十三米五さ長 幅四十七幅 (布用)



袖丈×4+ 身丈×2+ 前後の差= 用布  
63.×4+ 138.×2+ 2. = 530.

(種二第物幅廣)方裁ト一コ衿折

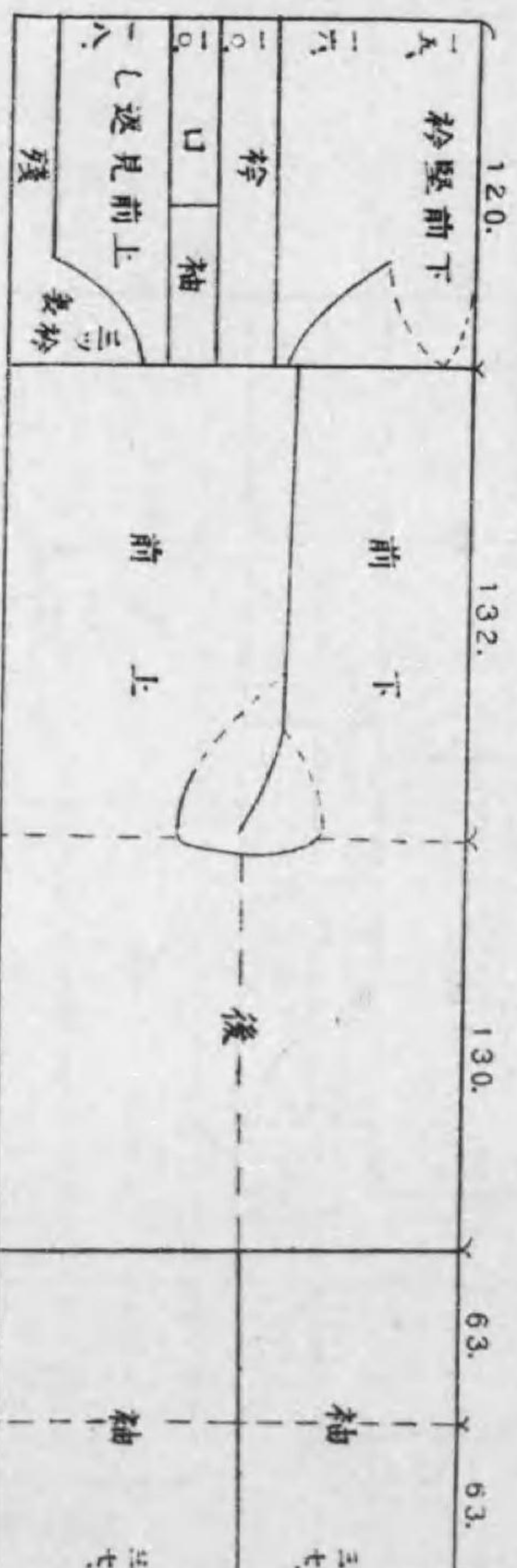
(位分五寸八尺三丈一)櫃四十二米五さ長 櫃六十七幅 (布用)



袖丈 × 2 + (身丈 × 2 + 前後の差) + 頸袴 = 用布  
 63. × 2 + (138. × 2 + 2. ) + 120. = 524.

(種三第)方裁ト一コ衿折にて物幅廣

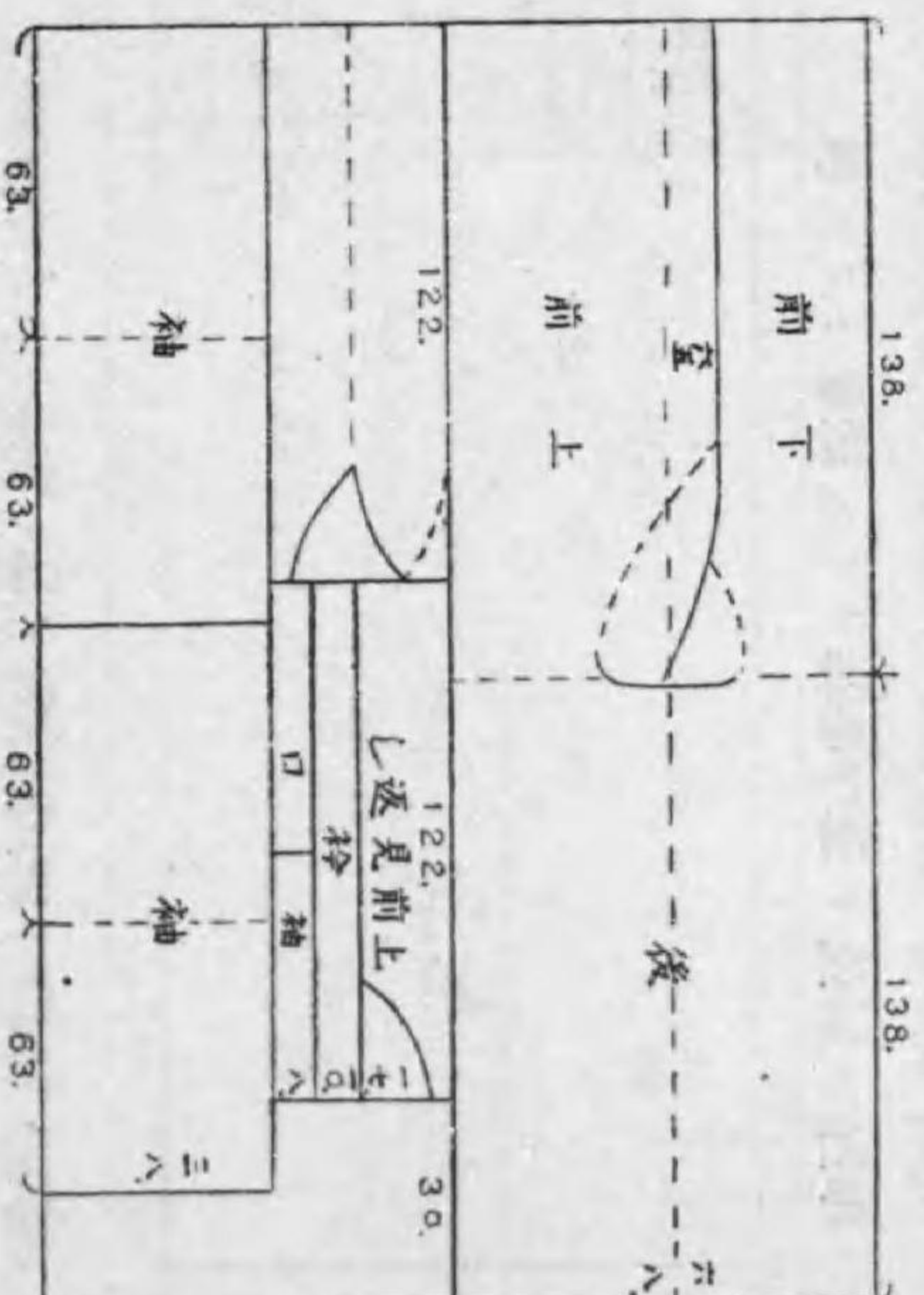
(寸四尺三丈一)櫃八米五さ長 櫃四十七幅 (布用)



袖 × 2 + 身頃 × 2 + 前後の差 + 頸袴 = 用布  
 63. × 2 + 130. × 2 + 2. + 120. = 508.

(種四第) てに幅紗羅

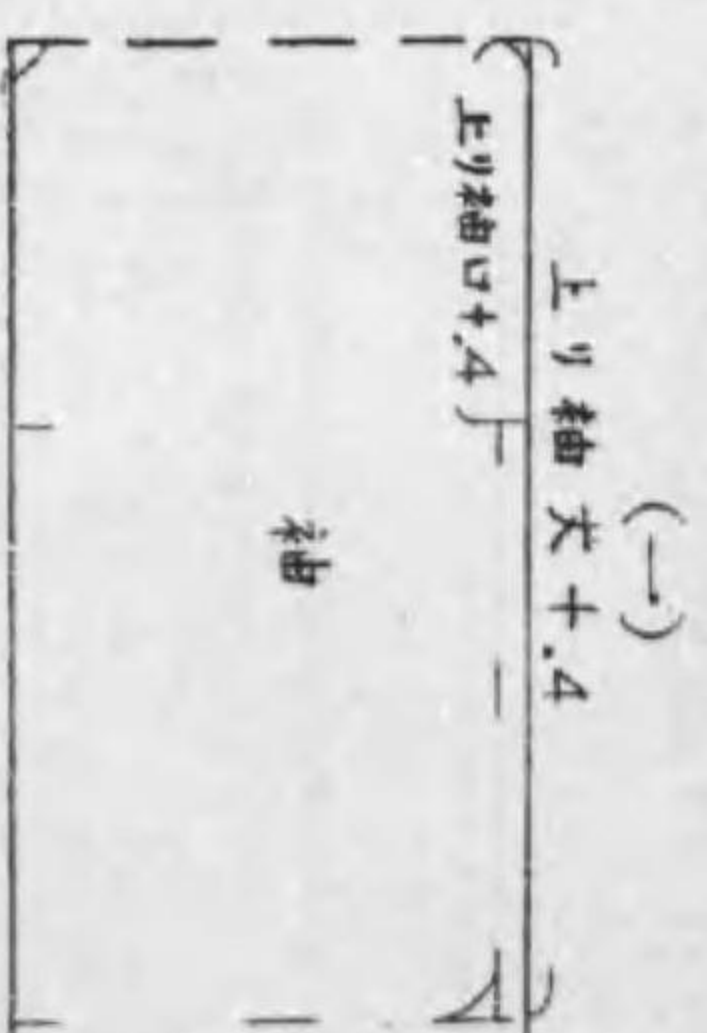
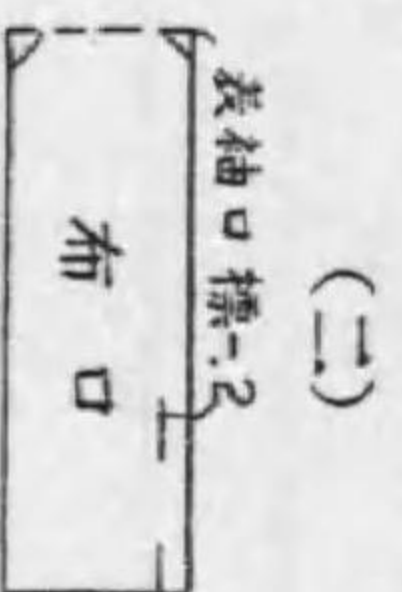
糧四十七米二さ長 糧一十四米一幅 (布用)



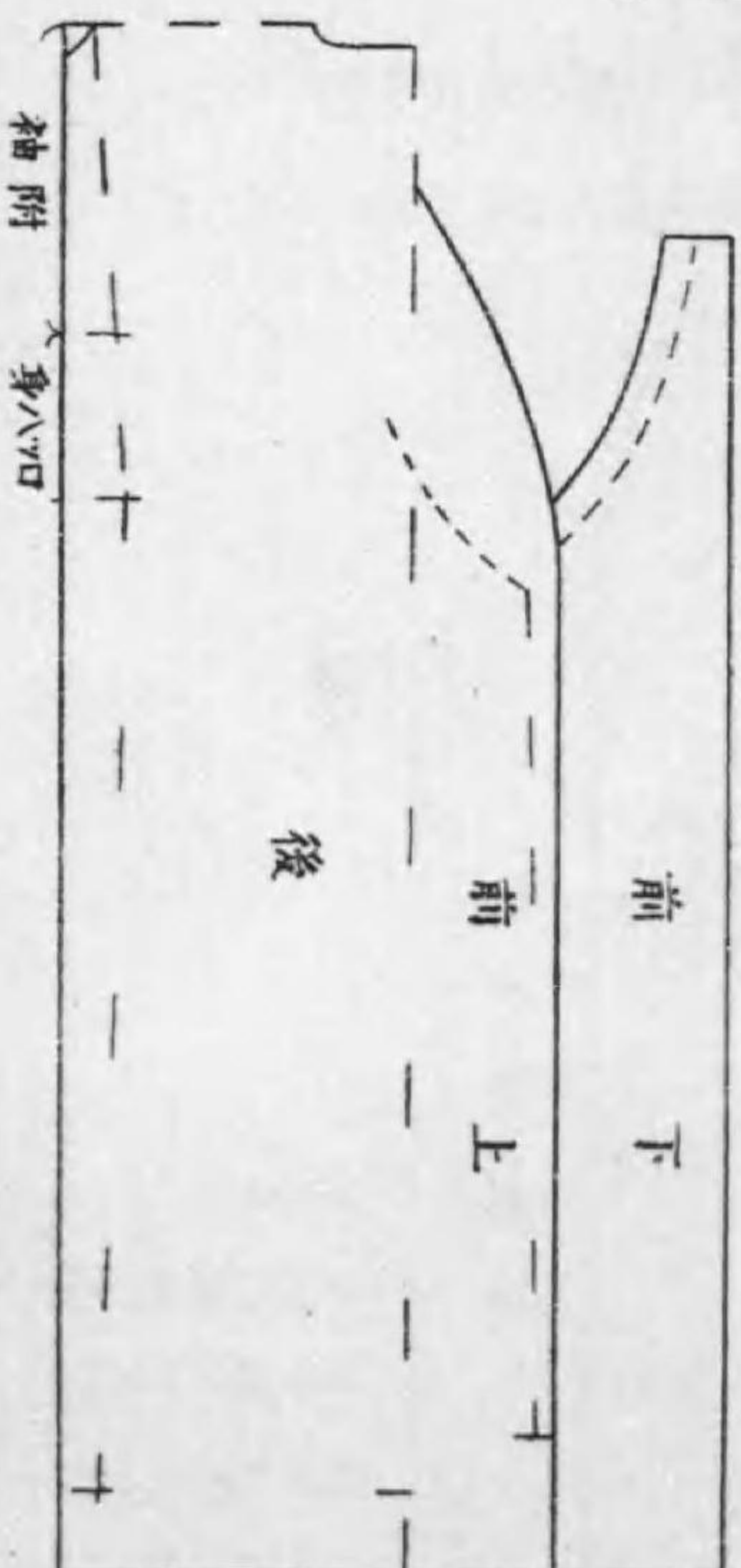
身頃 × 前後の差 + 2 = 用布

136. × 2. + 2 = 274.

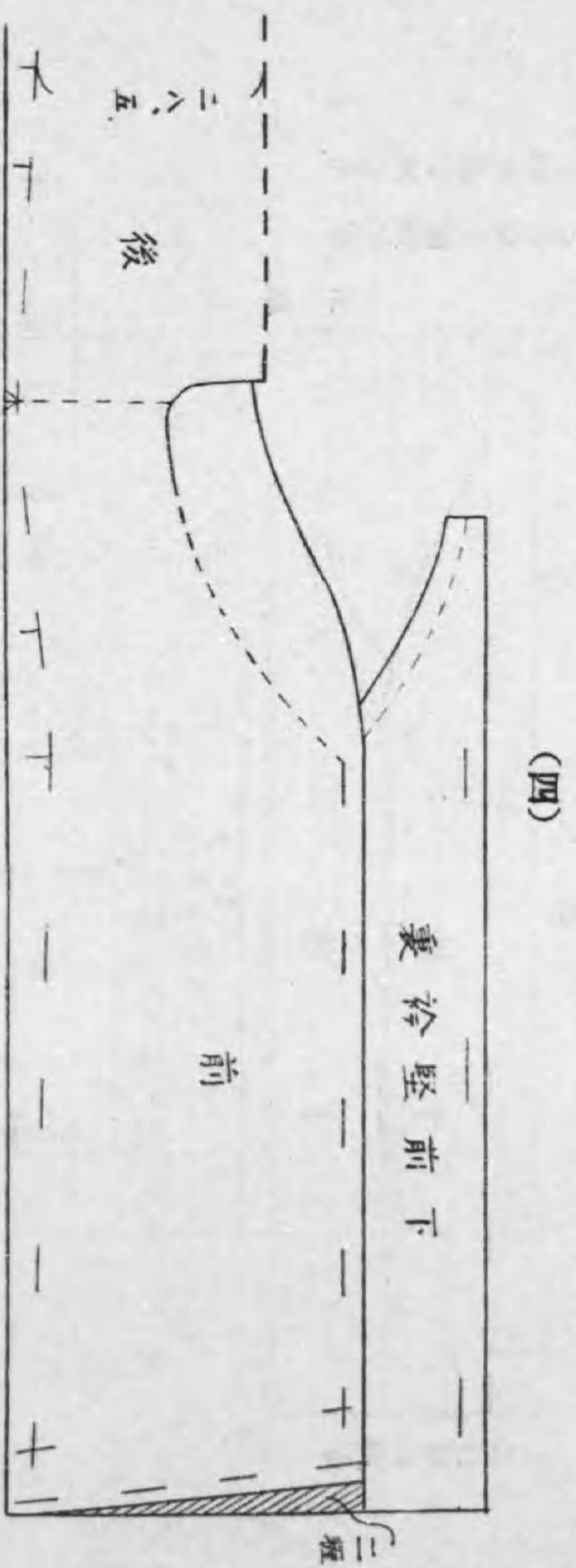
第三 折衿コート標附方



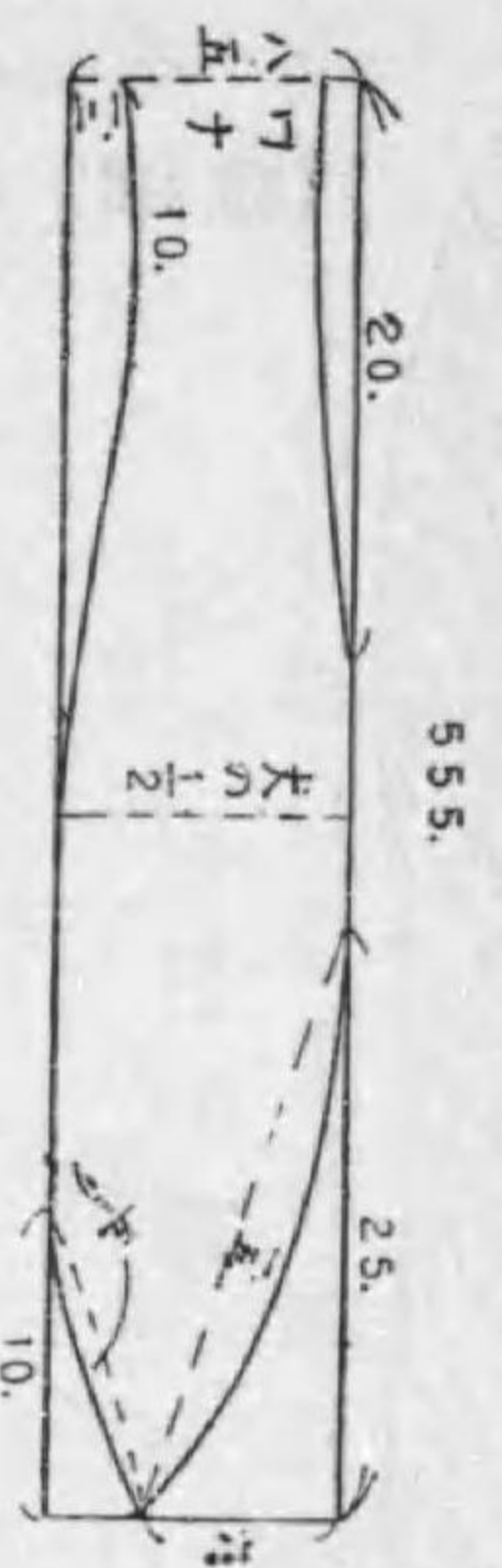
備考  
 前の幅置き布を下にするため脇  
 を手前に脊を向ふとして標附け  
 す



身幅は裾口にて二糧五耗度へす

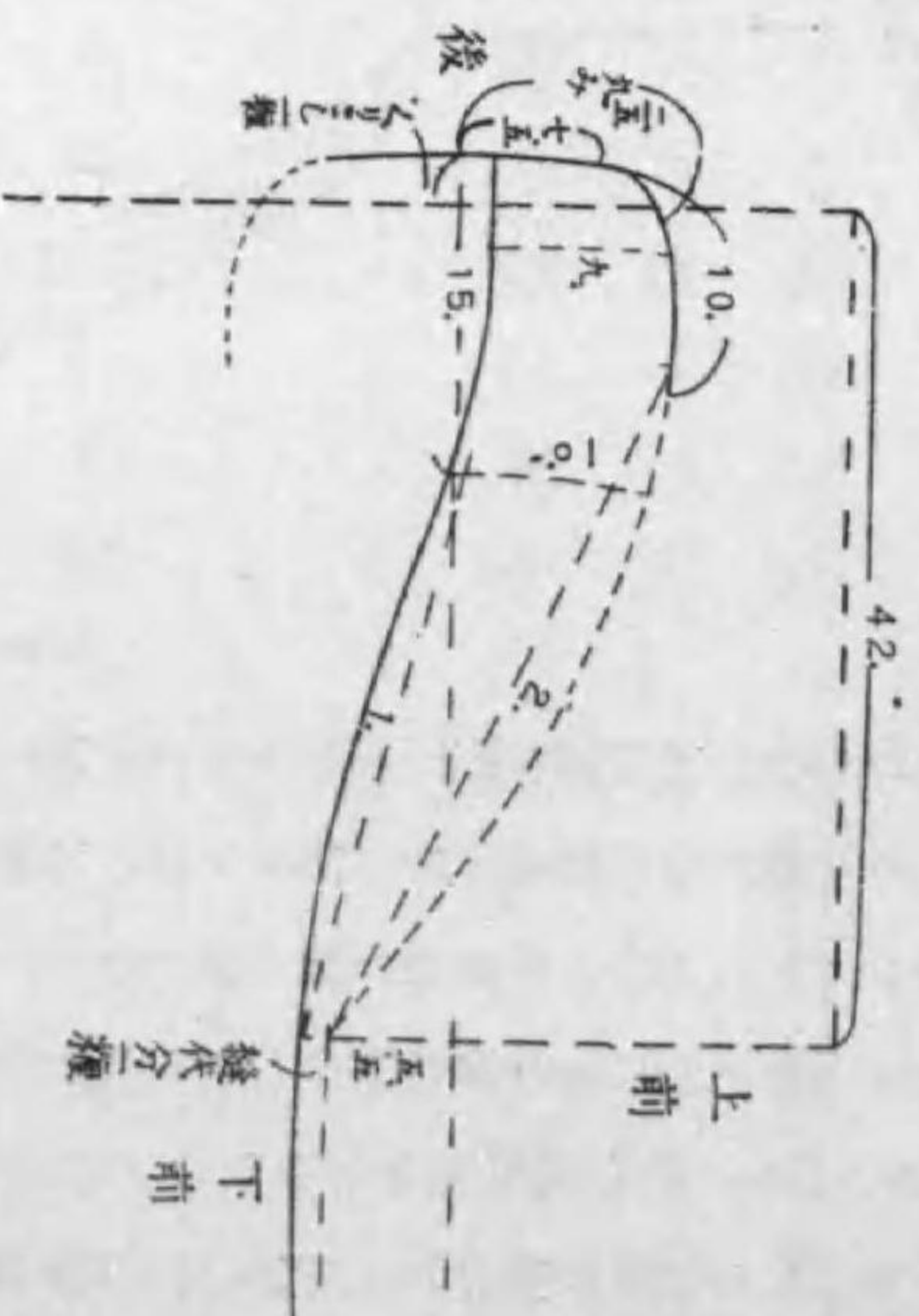


方裁紙形の衿



衿の芯地は附けの方(少く曲りし方)  
 へ縫代をつけ先の方は裁切りとす。  
 衿布は附け及び先の方へも縫代をつけ  
 てください。

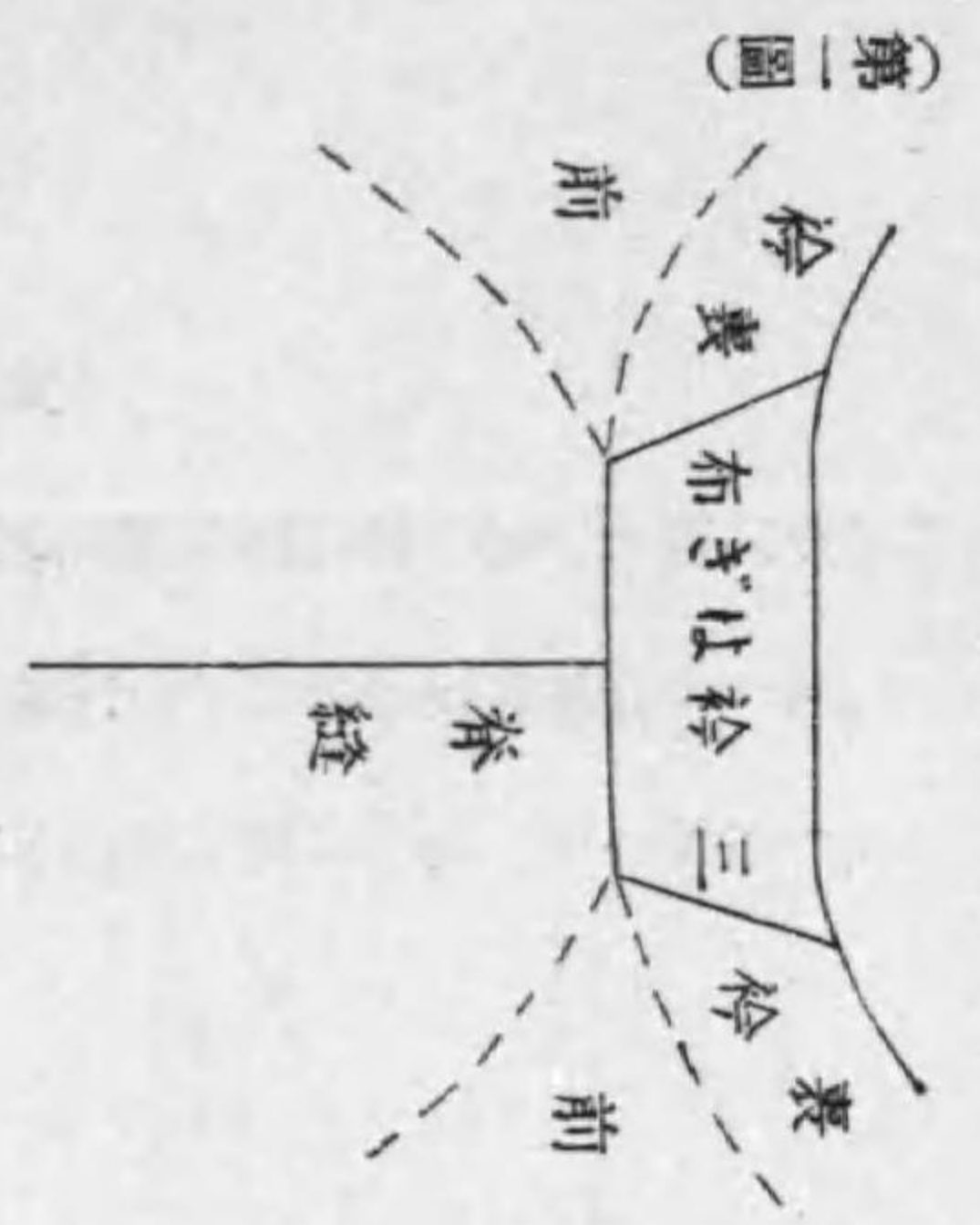
(圖解分)方裁衿トローコ



肩は丸みの終り  
 まで鉄を入れ三  
 つ衿の部分分別  
 布とす。

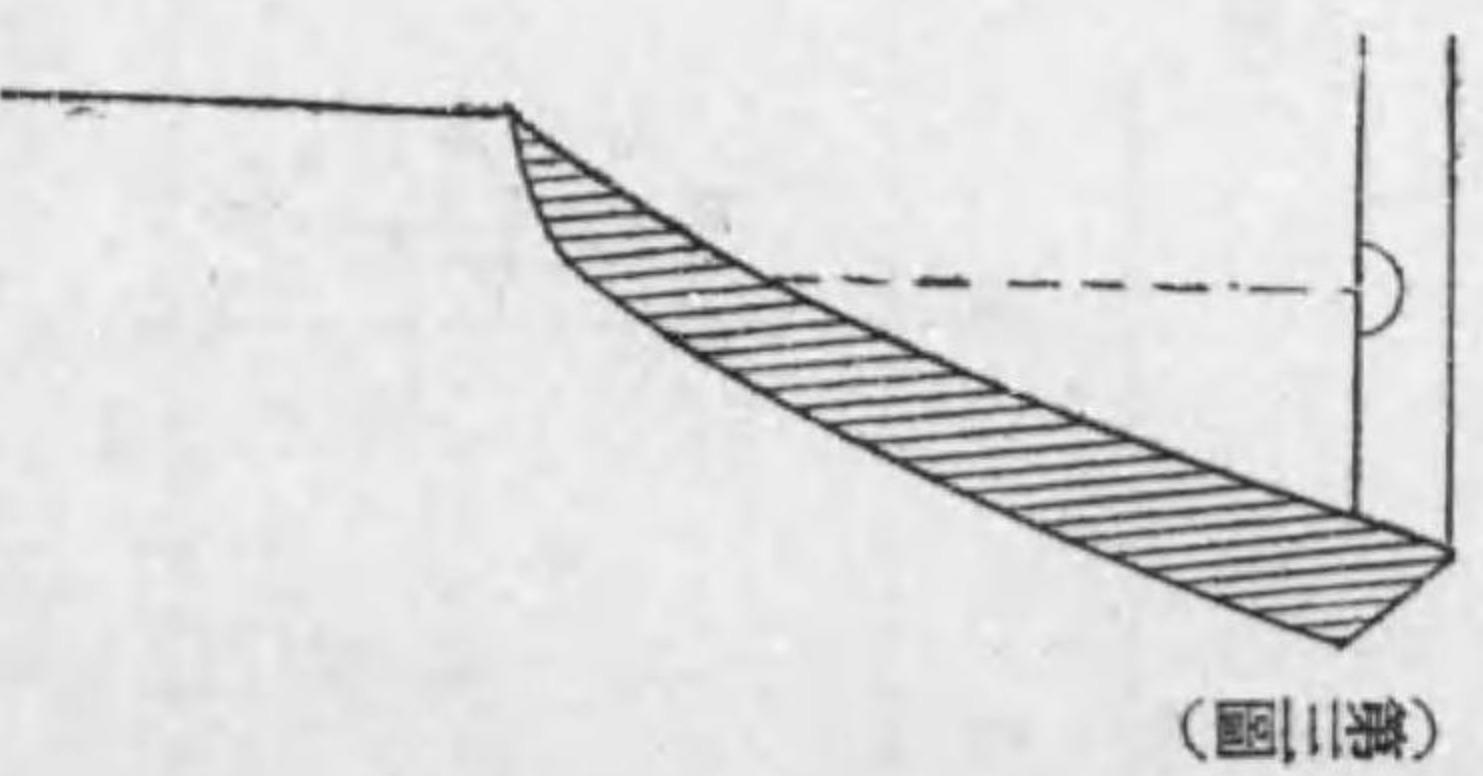
方れ入の布ぎは衿つ三

方へ調の衿



(第一圖)

方しさの芯衿



(第三圖)

- 一、衿肩の間の部分に三つ衿布を入れ縫目は割る(一圖の如き衿好に縫はぎをなし、ゆるみの加減は着用してよろしき様定む)。
- 二、次に芯地の裁ちたるものを衿の裏の方におてかりとちをなし第二圖の如くさして折り返し形をと、のエアロンをかけ。
- 三、表衿の先と裏衿の先とを縫ひ合せて裏の方に折をかけ表を心持ちよかして衿の先をきめて三圖の様に衿の形に合せて嵌をかけて置きます。

第四 折衿コート縫ひ方順序(肩當附)

袖

袖口を合せ袖口を止め袖口切のある部分にかへし針に縫ひ其  
 他は細かき針目にて縫ふ(袖口切の下は一つ折にしてちどり或  
 は地厚き時は裁目のまゝかがり置く)袖口裏を衿け丸みを調へ  
 表にかへす。

身頃

- 一、脊、脇を縫ひ、堅衿をつけ裾折を極め衿を部分にて示せし如く調へ堅衿の幅を定めて裏にて衿け裾口も衿け、
- 二、袖を付け、身八つ口及八つ口を衿け肩當を付け、
- 三、ホック、ぼたん或はかざり紐を付け(下前へ中紐を附す)て仕上げをす。

衿コートは袖は普通なれどもふりにて裏幅を五耗位ひかへ置くこと、身頃の裾は表は折り返して普通に拵け、裏は丈を表より一糎位短くして三つ折拵けになし置き縦とちをなして後縫目縫目の裾口にて三糎位を表裏一緒に干鳥又はまつり置く。

第十一章 夜 具

第一節 夜 着

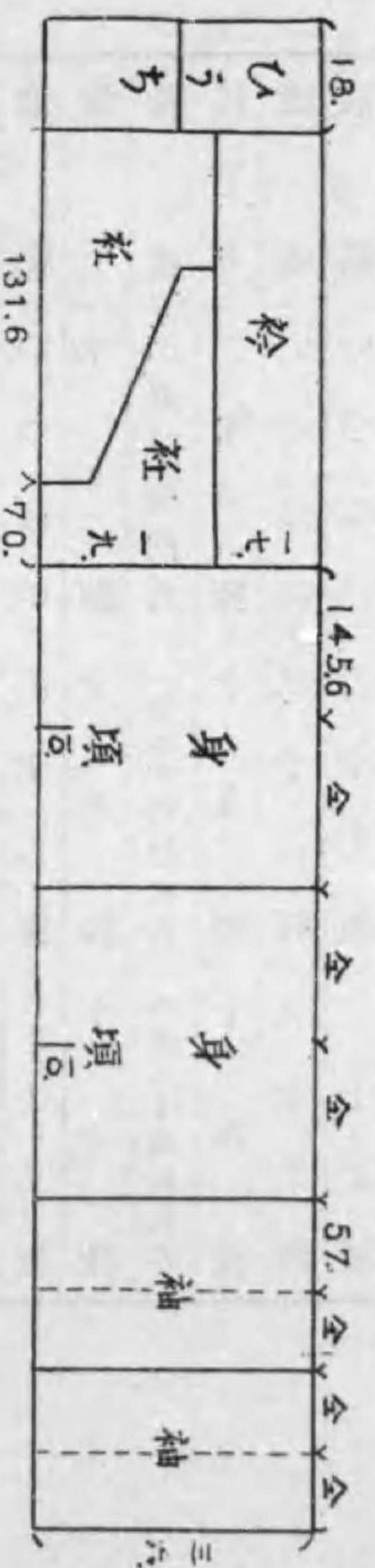
第一 各種夜着普通仕立上げ寸法

名稱	種別	袖丈	袖幅	縫丈	身丈	衿下り	後幅	前幅	衿幅	衿下幅	衿幅	衿肩明	ふき	衿ふさ
大夜着	着	六十六糎	いっばい	十七糎	二米五糎内外	二十二糎	いっばい	いっばい	十九糎	八十三糎	いっばい	十三糎裁切	五十糎内外	三十糎
中夜着	着	六十三糎	三十二糎	十五糎	一米八十八糎内外	十九糎	三十二糎	二十七糎	十七糎	七十六糎	上下十一糎	十二糎裁切	三十八糎	二十三糎
小夜着	着	五十五糎	三十二糎	十一糎	一米七十四糎内外	十九糎	三十二糎	二十七糎	十七糎	六十八糎	同上	十糎裁切	三十糎	二十糎

第二 各種夜着裁方積り方

方り積方裁表着夜小

(寸二尺七丈二) 幅十三米十さ長 幅並 (布用)

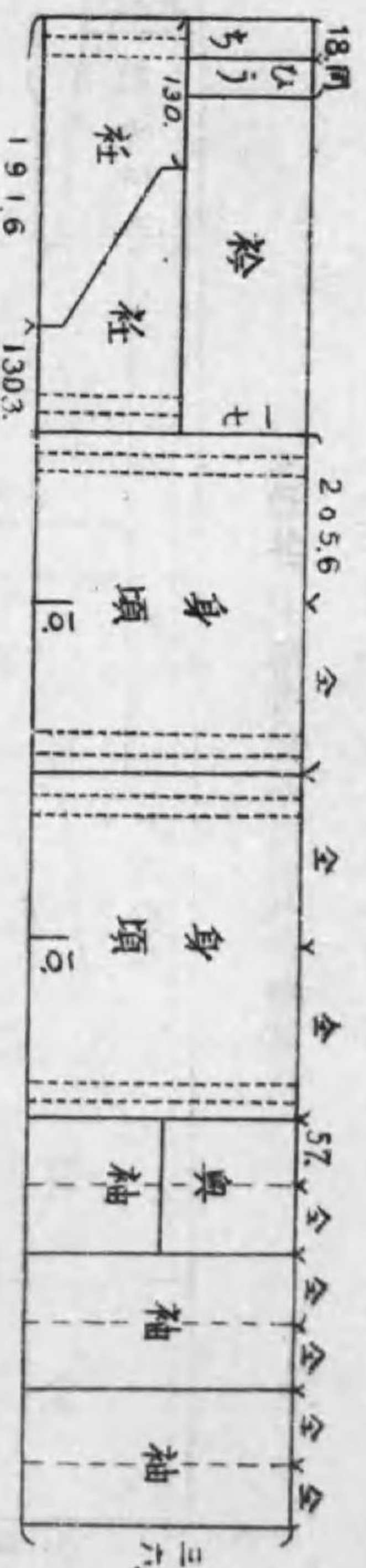


$$\{ \text{用布} - (\text{袖丈} \times 4 + \text{燧} + \text{鈎下}) + \text{衿下り} \} \div 5 = \text{身丈}$$

$$\{ 1030. - (57. \times 4 + 18. + 70.) + 14. \} \div 5 = 145.6$$

方り積方裁裏着夜小

(位尺九丈三) 幅十八米四十三長 幅並 (布用)

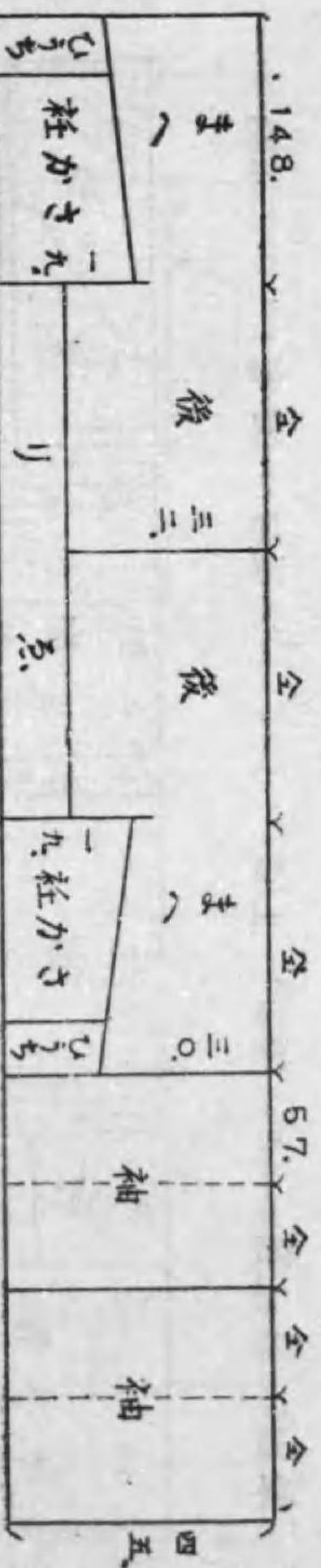


$$\text{袖丈} \times 6 + (\text{身丈} + \text{出批} \times 2) \times 5 + (\text{鈎下} + \text{出批} \times 2) - \text{衿下り} = \text{用布}$$

$$57. \times 6 + (145.6 + 30. \times 2) \times 5 + (70. + 30. \times 2) - 14. = 1480.$$

方裁表着夜小てに(糧五十四)物幅中

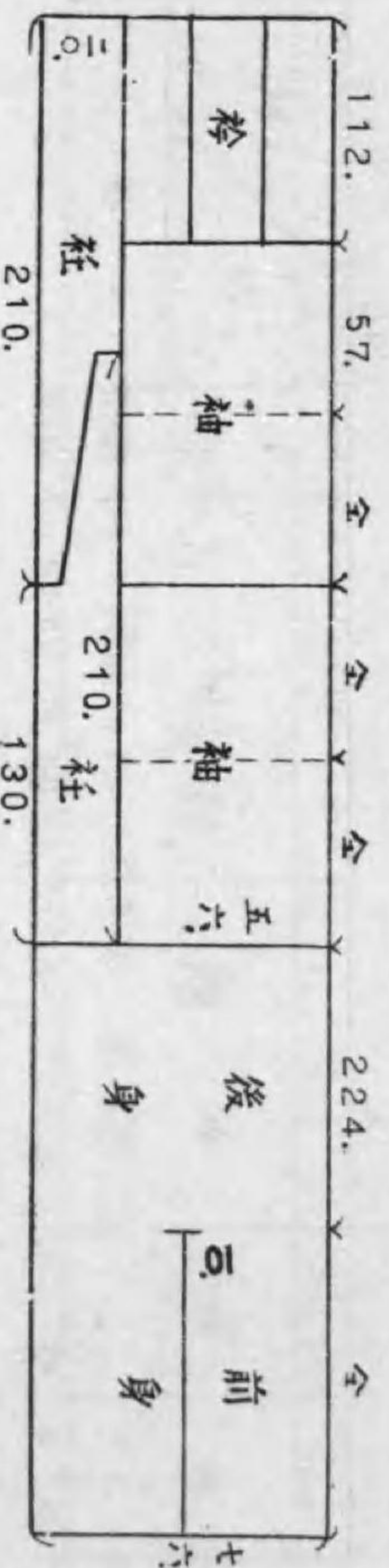
(寸七尺一丈二)糧十二米八 (布用)



(用布一袖丈×4)÷4=身丈  
 (820. - 57. × 4) ÷ 4 = 148.

方裁裏着夜小てに(糧六十七)物幅大

(位寸八丈二)糧八十八米七 (布用)

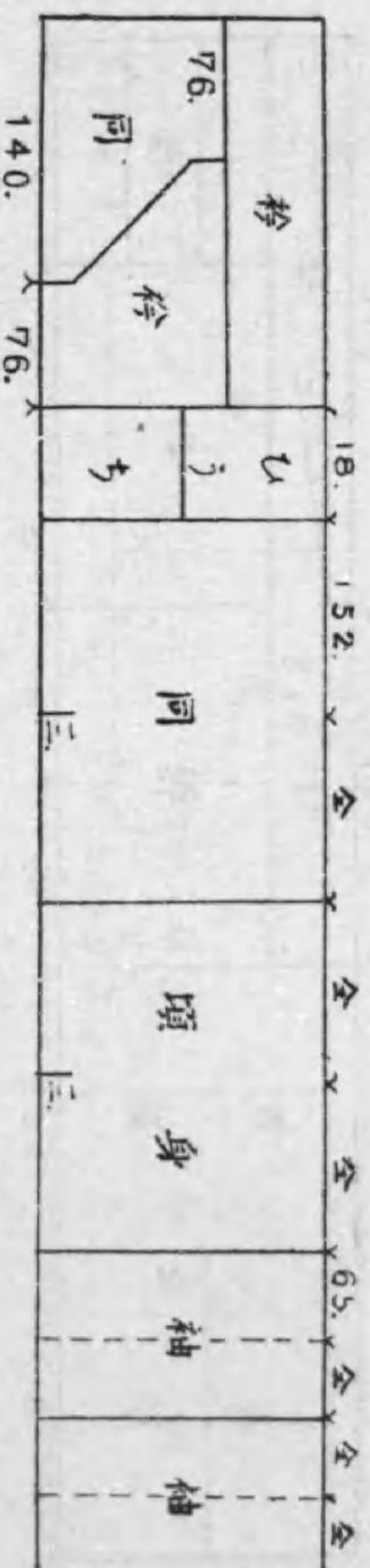


身丈×2+袖丈×4+衿丈=用布  
 224. × 2 + 57. × 4 + 112. = 788.



方リ積方裁表着夜中

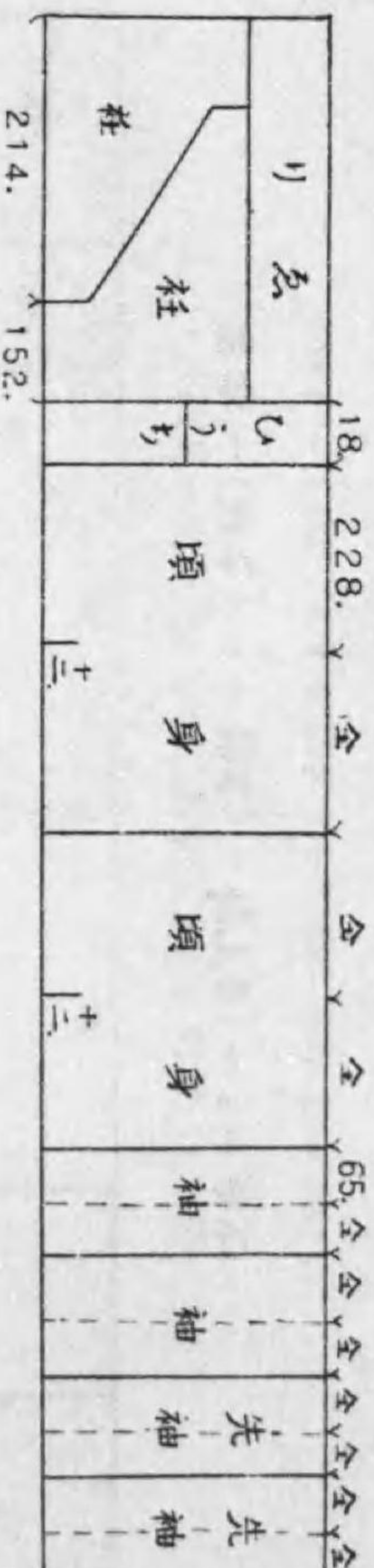
(寸一尺九丈二)米一十さ長 幅並 (布用)



{用布一(袖丈×4+鈎下+熨)+衿下}÷5=身丈  
 {1100.-(65.×4+76.+18.)+14.}÷5=152.

方裁裏着夜中

(寸五尺八丈四)釦六十三米八十さ長 幅並 (布用)



方リ積種一第

先袖×4+裾批×12+表用布=裏用布  
 65.×4+38.×12+1100.=1816.

方リ積種二第

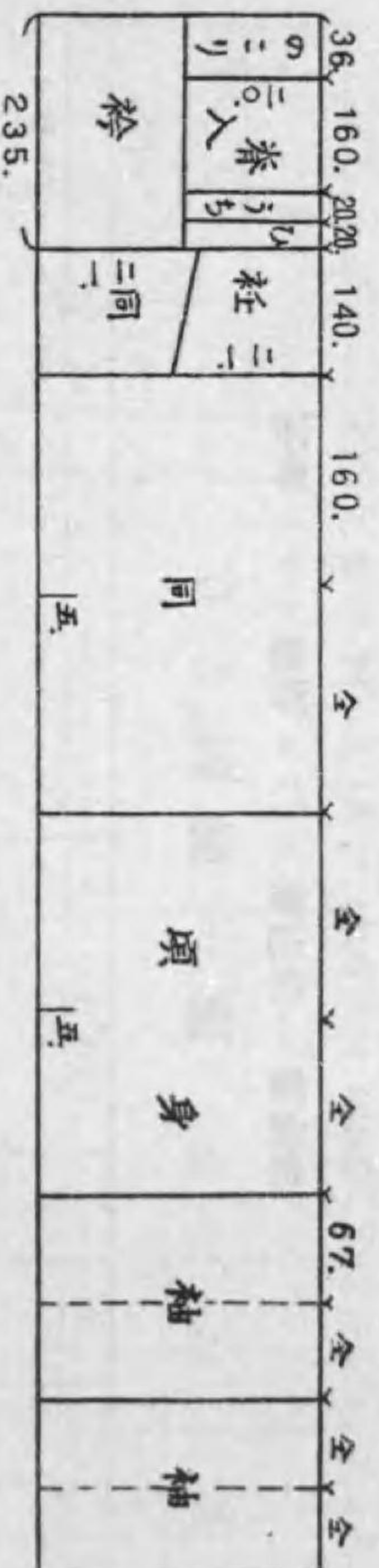
上リ袖丈×12+(上リ身丈+裾批)×10+衿下×2+ひうち×2-衿下リ×2×總代=總用布  
 63.×12+(150.+38.)×10+112.×2+18.×2-14.×2×48.=2916.

總用布一表用布=裏用布  
 2916.-1100.=1816.

總總代48.=  
 裾2.×8=16.  
 裾2.×4=8.  
 袖2.×12=24.

方り積方裁表着夜入脊

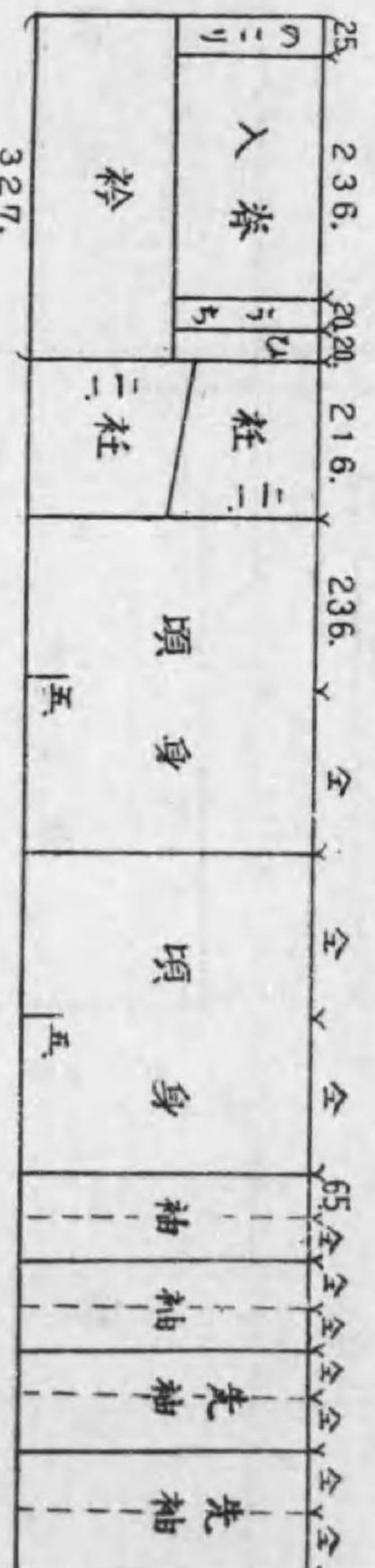
(寸九尺三丈三) 纏三十八米二十さ長 幅並 (布用)



{ 用布一 (袖丈 × 4 + 袴丈) + 衤下巾 } ÷ 5 = 身丈  
 { 1283. - ( 67. × 4 + 235. ) + 20. } ÷ 5 = 160.

方裁裏着夜入脊

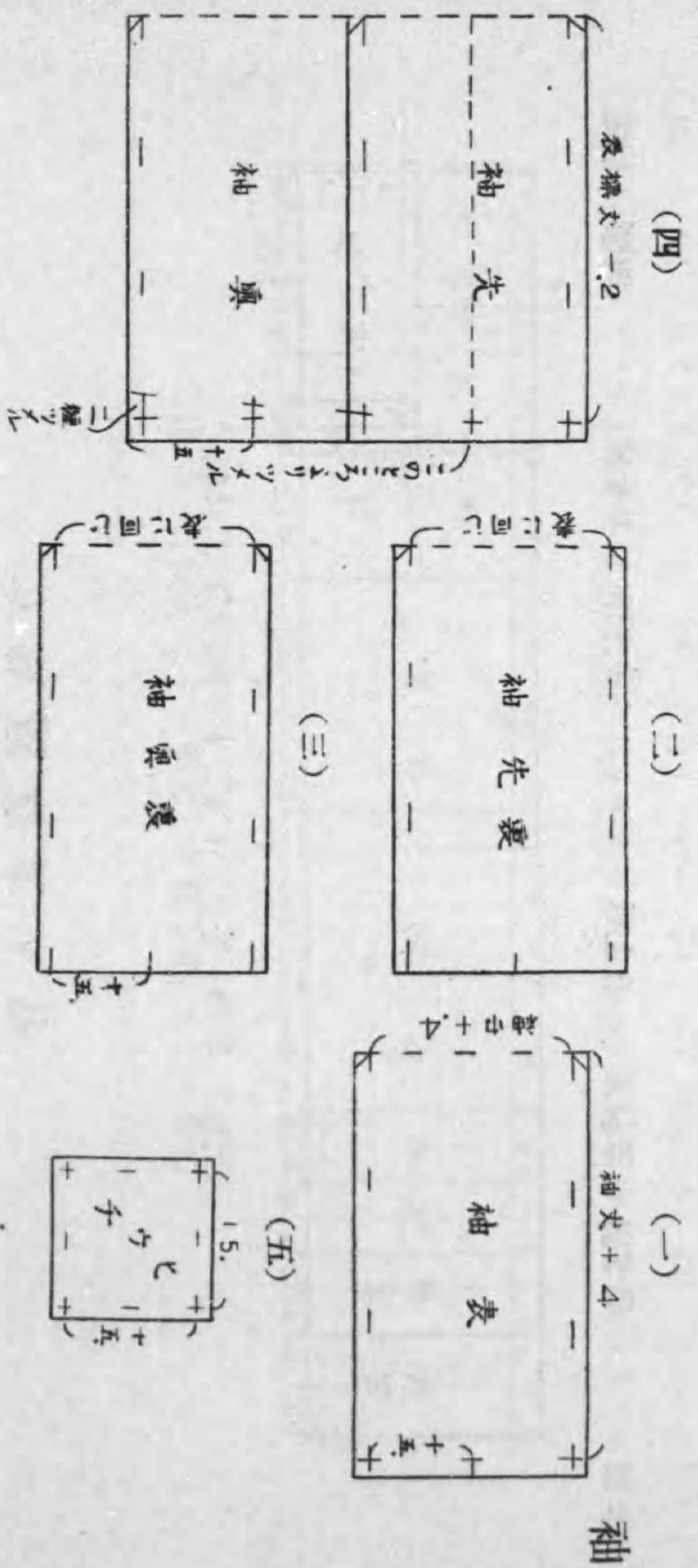
(寸四尺三丈五) 纏九十二米十二さ長 幅並 (布用)



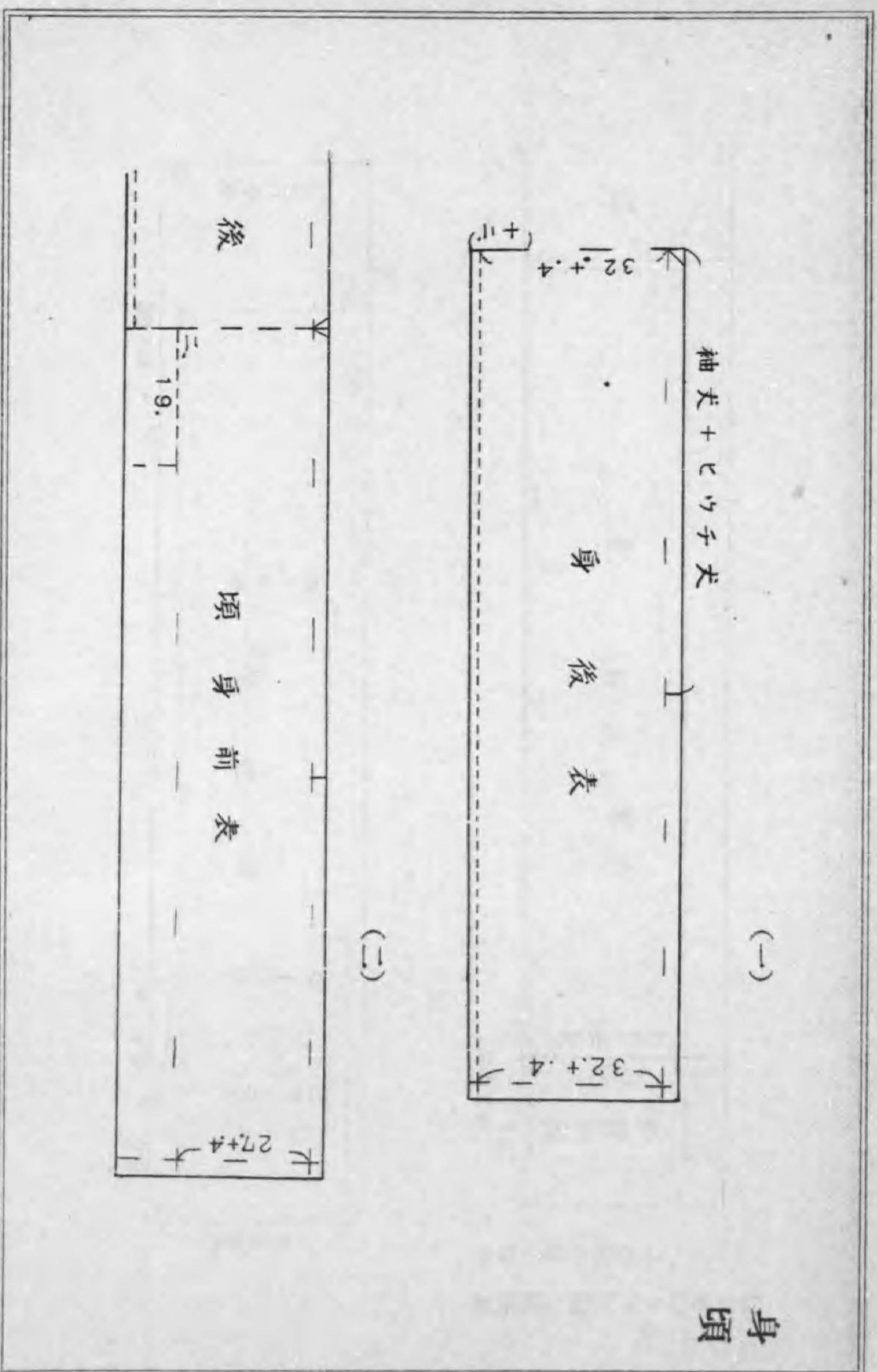
(先袖 + 奥袖) × 4 + (表身丈 + 出さき × 2) × 5 - 衤下巾 + (表袴丈 + 袴さき × 4) = 用布  
 ( 67. + 65. ) × 4 + ( 160. + 38. × 2 ) × 5 - 20. + ( 235. + 23. × 4 ) = 2015.

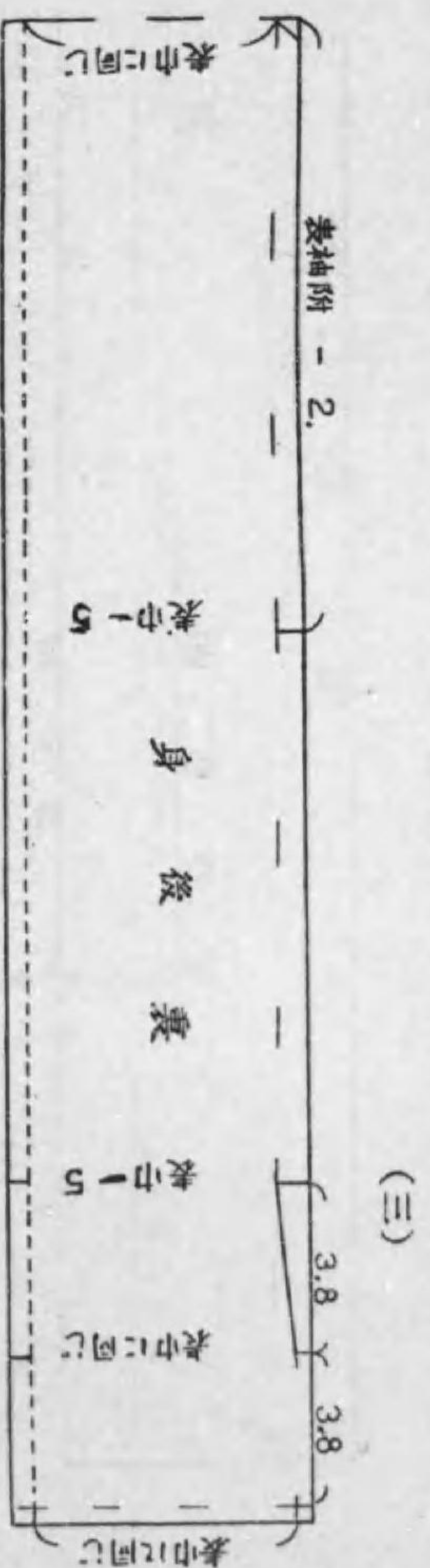
第三 中夜着標附方

(三) 圖 解



。さを標の下袖でね重をと(三)と(二)



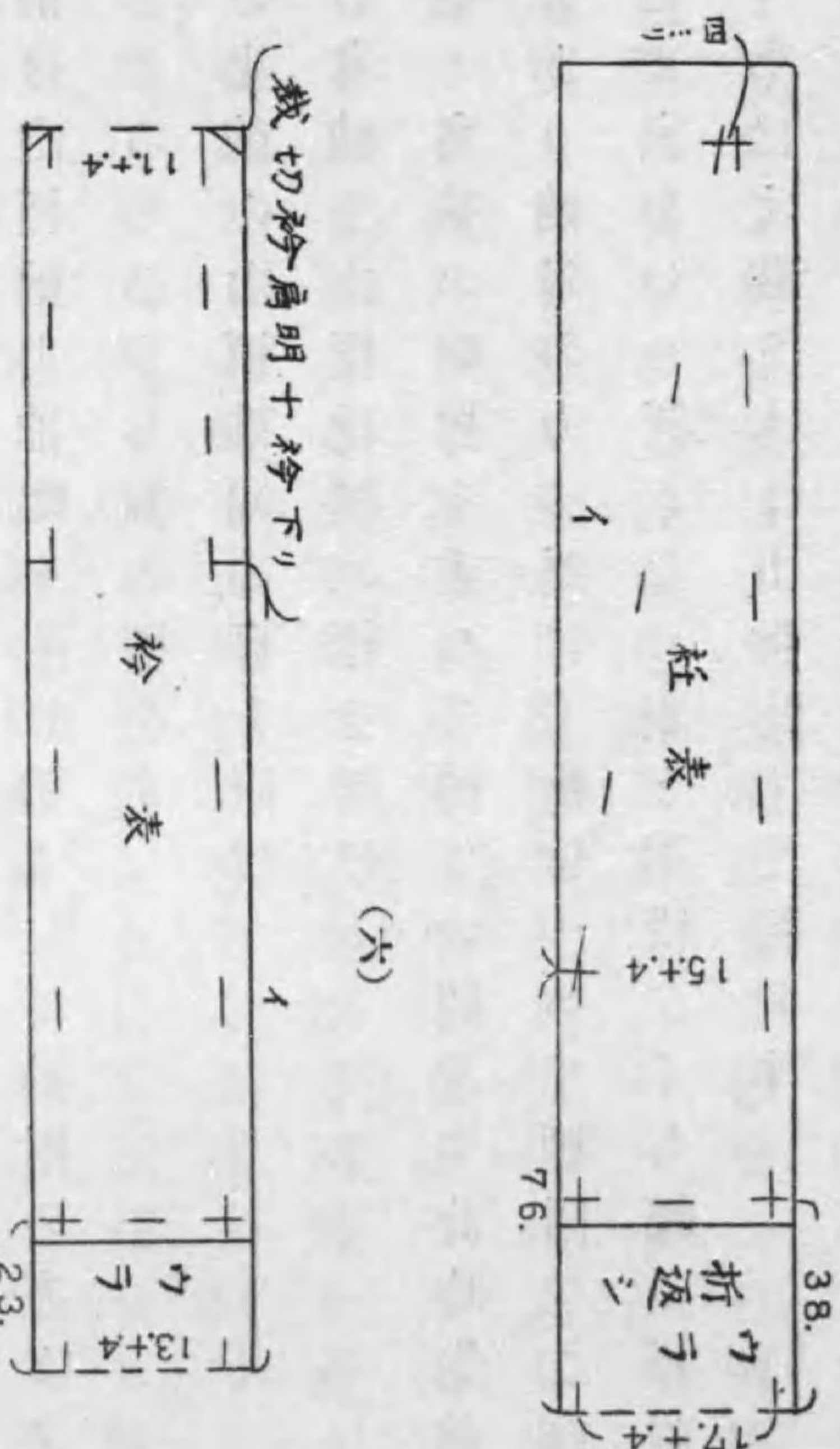


(三)



(四)

前衿附の標はふきの分を折り返し置き標附す。



(五)



(六)